

甲賀市市政に関する意識調査報告書

令和 4 年 12 月

甲 賀 市

目 次

第 1 章 調査の実施概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の設計	1
3. 調査票の配布・回収の状況	1
4. 標本抽出計画と集計にあたっての整理事項	1
5. 本報告書における集計方法、数値の取り扱い	3
第 2 章 回答者の属性	4
第 3 章 調査結果	8
1. 市政全体に関する満足度等について	8
(1) 甲賀市の住みやすさ	8
(2) 甲賀市の住みやすい点・住みにくい点	10
(3) 現在の暮らしに幸せを感じるか	12
(4) 幸せを感じること	14
(5) 甲賀市への愛着	16
(6) 甲賀市の魅力を市外の人に自慢できるか	18
(7) 甲賀市への定住意向	20
(8) 市政への関心	22
2. 環境保全について	24
(1) 環境に対する取り組み等への関心	24
(2) 環境を良くするために重要と思うこと	26
(3) 「クールチョイス」の認知度	28
(4) 生活の中で実践していること	30
(5) 環境に対する取り組みを進めるための生活の許容範囲	32
3. 市の情報発信について	34
(1) 市に関する情報の入手	34
4. 障がい福祉について	56
(1) 「甲賀市手話言語及び情報・コミュニケーション促進条例」の認知度	56
(2) 障がい者施策を進めていくために充実させていくべきこと	58
(3) 共に地域で生活できるように進めていくために出来ること	60
5. 新型コロナウイルス感染症について	62
(1) 新型コロナウイルス感染症で困っていること	62
(2) 今後、必要と考えられる支援	66
(3) 支援等に関する意見	70
【参考資料①：クロス集計（散布図）】	71
【参考資料②：アンケート調査票】	75

第1章 調査の実施概要

1. 調査の目的

市民の市政についての意見や評価を、意識調査により統計的に把握し、今後の市政を推進するための基礎資料とすることを目的に調査を実施した。

2. 調査の設計

- ・調査地域：甲賀市全域
- ・調査対象：市内在住の18歳以上の男女
- ・調査票本数：3,000人
- ・調査抽出法：層化二段無作為抽出法（抽出台帳：住民基本台帳、旧町5地域別）
- ・調査方法：郵送配布・郵送回収、またはインターネットによる回答
- ・調査期間：令和4年7月20日（水）～8月7日（日） ※8月18日（木）まで郵送受付

3. 調査票の配布・回収の状況

- ・配布数：3,000件
- ・回収件数（率）：1,312件（43.7%）
- ・有効回答数（率）：1,310件（43.7%） ※郵送回答のうち無効調査票（白票）：2件
うち郵送回収：1,012件（77.3%）、インターネット回答：298件（22.7%）

4. 標本抽出計画と集計にあたっての整理事項

① 標本抽出計画と集計母数（集計対象数）

今回の調査では、アンケート調査配布数（標本数）を市内5地域と母集団構成比に応じて配分した。

地域別の回収率は甲賀地域が54.8%で最も多く、次いで、土山地域が47.9%、信楽地域が44.9%、甲南地域が42.4%、水口地域が39.7%となっている。土山地域、甲賀地域、信楽地域では前回調査よりも回収率が上がったが、水口地域、甲南地域では前回調査よりも回収率が低かった。

有効回答の構成比と母集団構成比を比較すると、甲賀地域は高く、水口地域は低い結果が見受けられる。

	標本抽出計画				有効回答			前回回収率 （%）
	母集団	母集団構成比（%）	抽出標本数	標本数構成比（%）	回収数	構成比（%）	回収率（%）	
水口地域	34,253	45.3	1,335	44.5	530	40.5	39.7	41.9
土山地域	6,224	8.2	242	8.1	116	8.8	47.9	41.4
甲賀地域	8,260	10.9	325	10.8	178	13.6	54.8	52.2
甲南地域	17,261	22.8	719	24.0	305	23.3	42.4	43.6
信楽地域	9,563	12.7	379	12.6	170	13.0	44.9	35.5
無回答					11	0.8		
合計	75,561	100.0	3,000	100.0	1,310	100.0	43.7	42.9

※母集団については、それぞれ18歳以上の男女数を計上している。

年代別の回収率は60歳代が58.9%で最も多く、次いで、70歳代以上が58.4%、50歳代が38.5%、40歳代が37.7%、30歳代が29.9%、20歳代以下が22.5%となっている。

有効回答の構成比と母集団構成比をみると、有効回答は年齢層が高い構成であることがわかる。

	標本抽出計画				有効回答			前回回収率 (%)
	母集団	母集団構成比 (%)	抽出標本数	標本構成比 (%)	回収数	構成比 (%)	回収率 (%)	
20歳代以下	10,839	14.3	431	14.4	97	7.4	22.5	22.0
30歳代	9,784	12.9	375	12.5	112	8.6	29.9	32.8
40歳代	12,191	16.1	488	16.3	184	14.0	37.7	32.5
50歳代	11,518	15.2	460	15.3	177	13.5	38.5	43.0
60歳代	11,401	15.1	438	14.6	258	19.6	58.9	59.2
70歳代以上	19,828	26.2	808	26.9	472	36.1	58.4	55.6
無回答					10	0.8		
合計	75,561	100.0	3,000	100.0	1,310	100.0	43.7	42.9

※母集団の20歳代以下については、18歳と19歳の男女数を20歳代に加えて計上している。

② 調査結果の精度

今回の調査は標本調査のため、本結果から甲賀市の18歳以上の人口（母集団）の意識や要望等を推定することができる。ただし、今回の結果が抽出調査のため、数字の誤差を考慮する必要がある。そこで、どの程度の誤差があるのかを以下の数式で求めた。

世論調査では、信頼度95%（同じ調査を対象を変えて行った場合に、100回中95回は同様の結果が得られると考えてもよい）の水準を求めることが一般的とされており、これに基づき、今回の調査における標本測定値の標本誤差を算出した。その結果、標本誤差=2.68%（小数第3位四捨五入）となり、母集団の回答は今回のアンケート調査結果の±2.68%の区間に95%の確率で存在すると言える。

$$\varepsilon = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

ε：標本誤差

±1.96：信頼度95%の時の係数

N：母集団数（調査時点の甲賀市の18歳以上人口：75,561） n：標本数（有効回答数：1,310）

P：標本測定値 0.5（50%（0.5）のときに最大となるため0.5で計算）

5. 本報告書における集計方法、数値の取り扱い

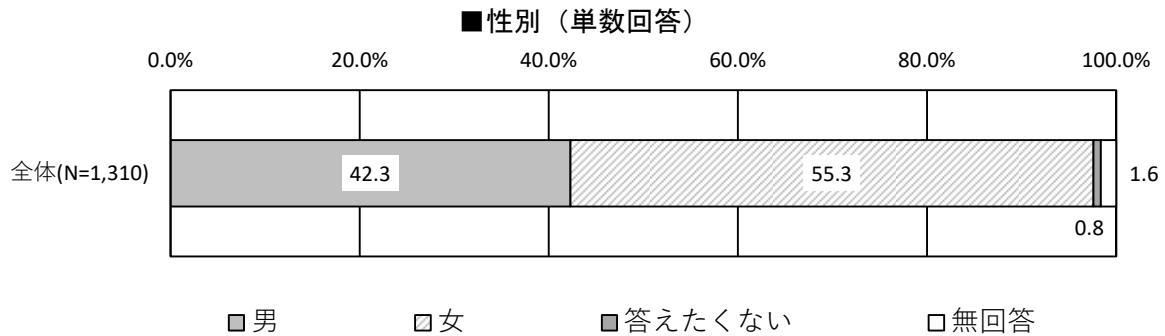
- ・回答結果は、各項目の不明を含む有効サンプル数に対する百分比（％）で示し、百分比は小数点第2位を四捨五入して小数点第1位までを表示している。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）の設問であっても百分比の合計値が100.0%にならない場合がある。
- ・複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの比率を示している。そのため、百分比の合計は通常100.0%にはならない。
- ・図表中に「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものである。
- ・本文中の「ポイント」とは、「％」の差を表している。
- ・図表中の「N」は、集計対象者総数、または、回答者限定設問の限定条件の該当者数を示している。
- ・クロス集計の図表では、集計区分ごとの集計母数を「N」と表記している。

第2章 回答者の属性

① 性別

問1 あなたの性別を教えてください。（〇は1つ）

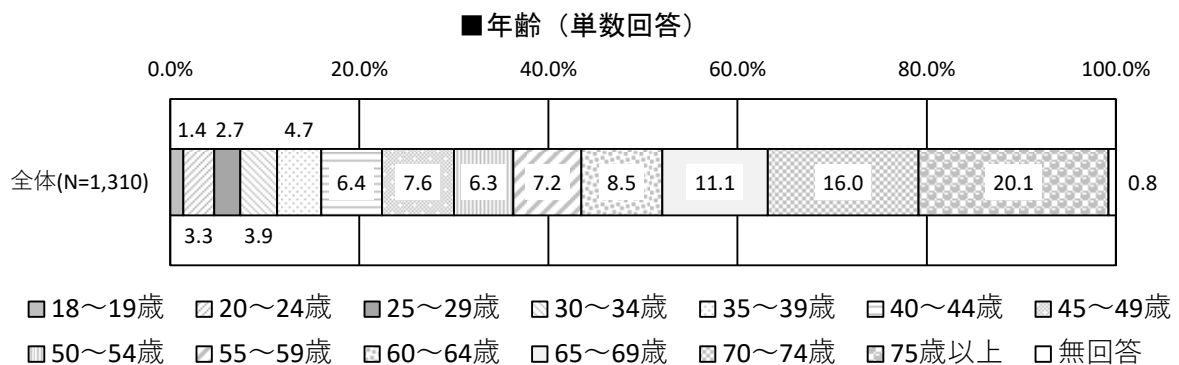
性別は、「男」が42.3%、「女」が55.3%、「答えたくない」が0.8%となっている。



② 年齢

問2 あなたの年齢は7月1日現在でいくつですか。（〇は1つ）

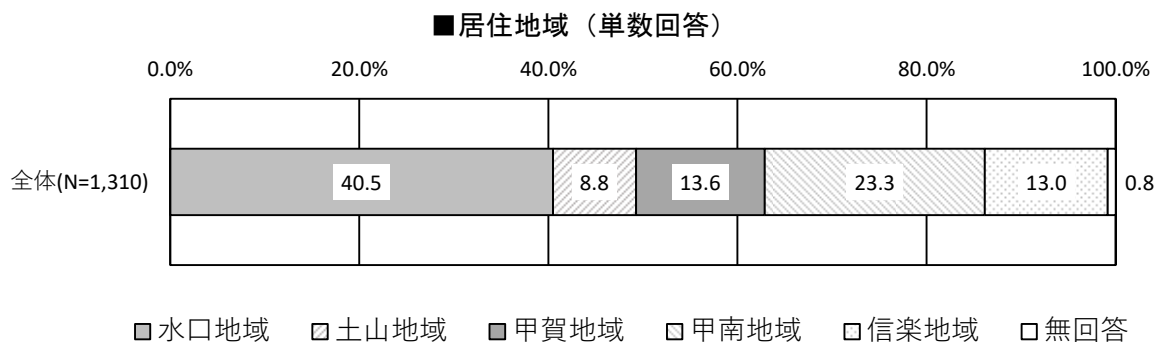
年齢は、「75歳以上」（20.1%）が最も多く、次いで「70～74歳」（16.0%）、「65～69歳」（11.1%）となっており、65歳以上の高齢者が回答者の47.2%を占める。



③ 居住地域

問3 あなたのお住まいの地域はどちらですか。（〇は1つ）

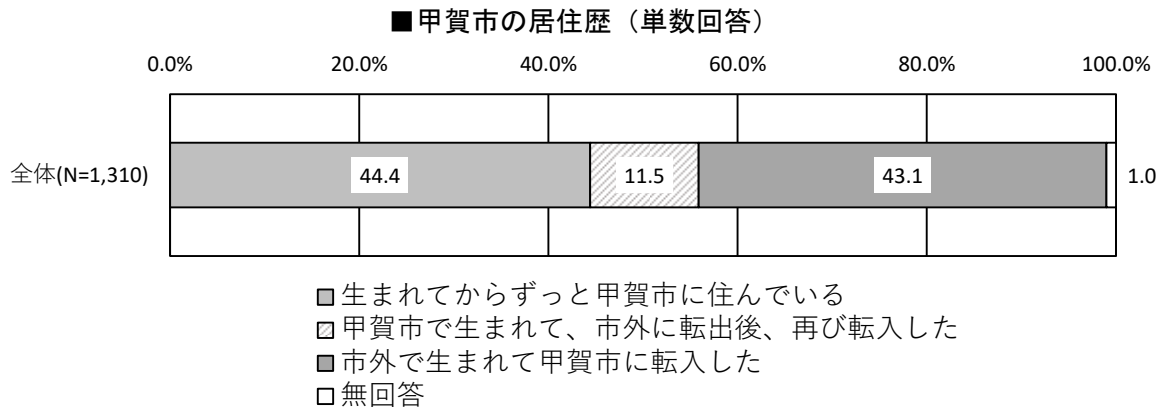
居住地域は、「水口地域」（40.5%）が最も多く、順に「甲南地域」（23.3%）、「甲賀地域」（13.6%）、「信楽地域」（13.0%）、「土山地域」（8.8%）となっている。



④ 甲賀市の居住歴

問4 あなたはいつから甲賀市にお住まいですか。（〇は1つ）

甲賀市の居住歴は、「生まれてからずっと甲賀市に住んでいる」（44.4%）が最も多く、順に「市外で生まれて甲賀市に転入した」（43.1%）、「甲賀市で生まれて、市外に転出後、再び転入した」（11.5%）となっており、市外からの転入者の占める割合が、転入・転出したことのない回答者より多い。

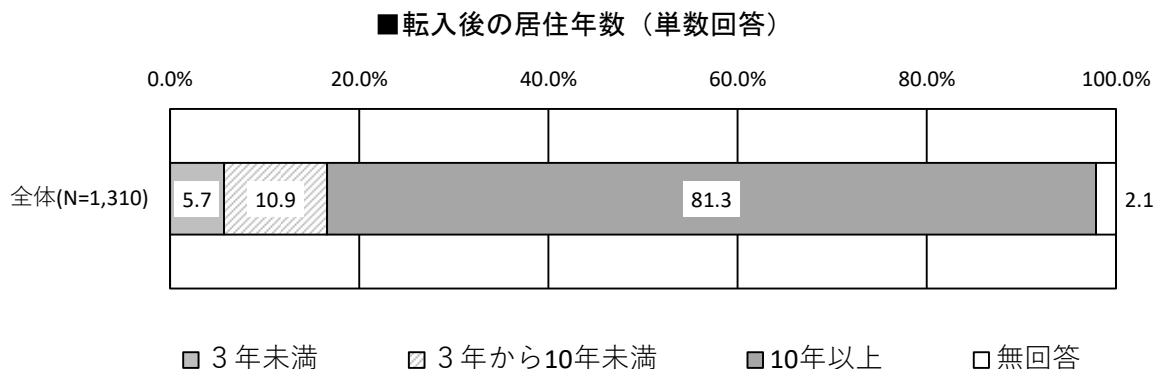


⑤ 転入後の居住年数

問4で「2（甲賀市で生まれて、市外に転出後、再び転入した）」または「3（市外で生まれて甲賀市に転入した）」と回答された方におたずねします。

問5 転入後、何年くらい甲賀市にお住まいですか。（〇は1つ）

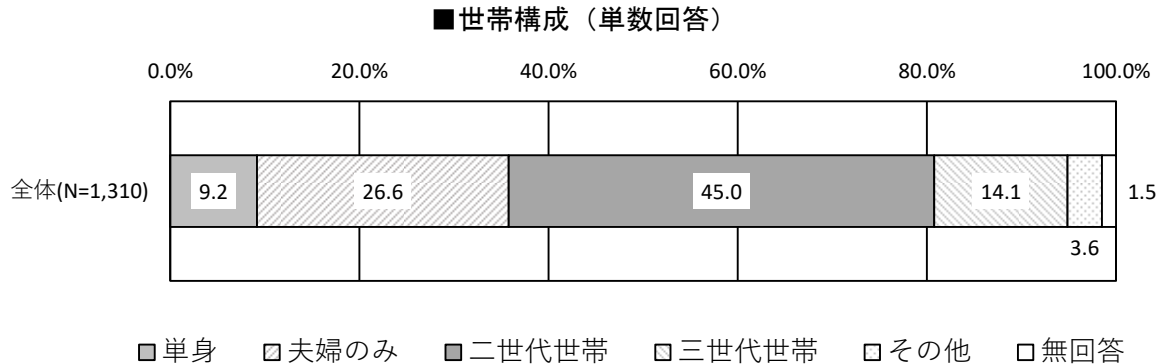
転入後の居住年数は、「10年以上」（81.3%）が突出して多く、順に「3年から10年未満」（10.9%）、「3年未満」（5.7%）となっている。



⑥ 世帯構成

問6 あなたの世帯（同居）の構成はどれですか。（○は1つ）

世帯構成は、「二世帯世帯」（45.0%）が最も多く、次いで「夫婦のみ」（26.6%）、「三世帯世帯」（14.1%）となっている。

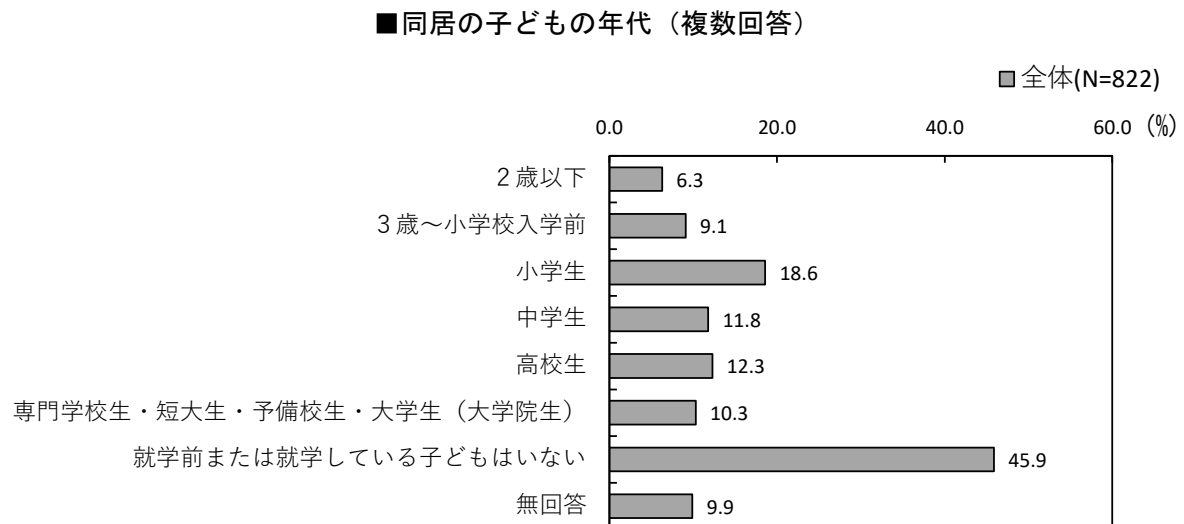


⑦ 同居の子どもの年代

問6で「3（二世帯世帯）・4（三世帯世帯）・5（その他）」のいずれかに回答された方におたずねします。

問7 あなたに就学前または就学しているお子様・お孫様（同居）はおられますか。（○はいくつでも）※別居されているお子様、お孫様は含みません。

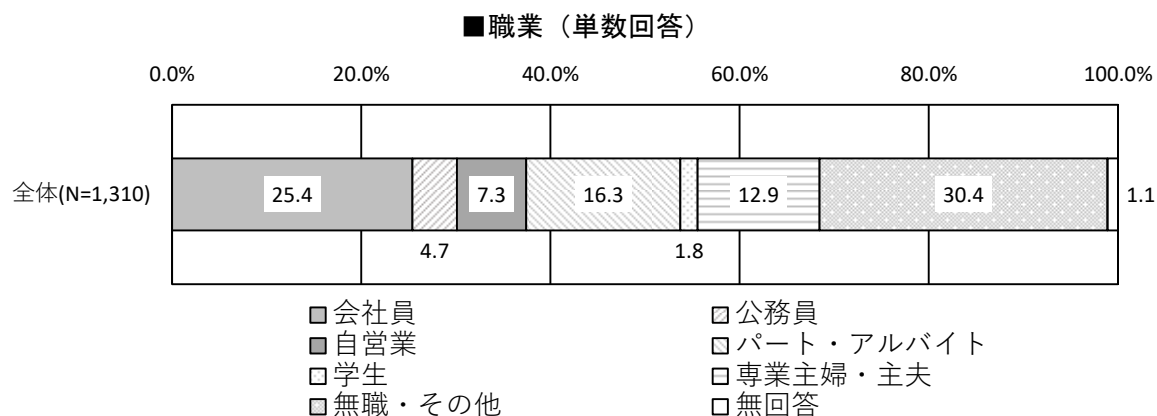
同居の子どもの年代は、「小学生」（18.6%）が最も多く、次いで「高校生」（12.3%）、「中学生」（11.8%）、「専門学校生・短大生・予備校生・大学生（大学院生）」（10.3%）となっている。なお、「就学前または就学している子どもはいない」は45.9%だった。



⑧ 職業

問8 あなたの職業等は何ですか。（○は1つ）

職業は、「無職・その他」（30.4%）が最も多く、次いで「会社員」（25.4%）、「パート・アルバイト」（16.3%）となっている。

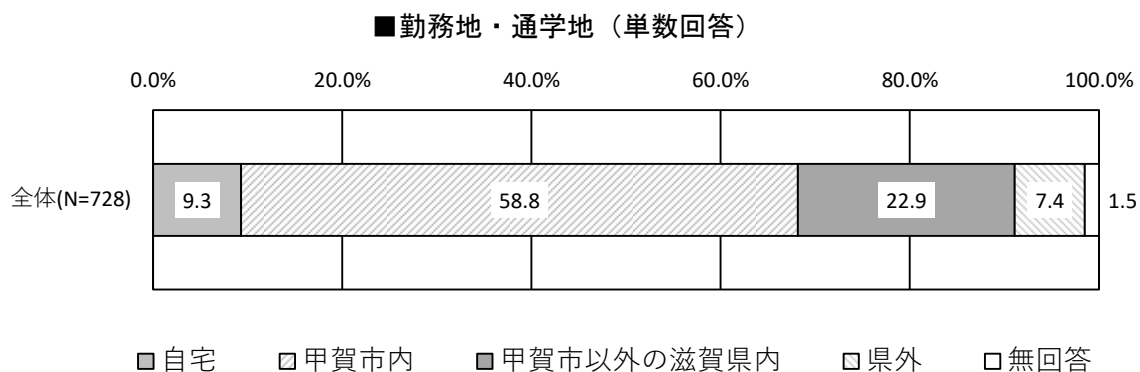


⑨ 勤務地・通学地

問8で「1～5（会社員、公務員、自営業、パート・アルバイト、学生）」のいずれかに回答された方におたずねします。

問9 あなたの勤務地（通学地）はどちらですか。（○は1つ）

勤務地・通学地は、「甲賀市内」（58.8%）が最も多く、順に「甲賀市以外の滋賀県内」（22.9%）、「自宅」（9.3%）、「県外」（7.4%）となっている。



第3章 調査結果

1. 市政全体に関する満足度等について

(1) 甲賀市の住みやすさ

問10 あなたは甲賀市の住みやすさについてどのように感じておられますか。(〇は1つ)

甲賀市の住みやすさは、「まあまあ住みやすい」(52.4%)が最も多く、次いで「住みやすい」(18.6%)、「どちらともいえない」(17.7%)となっている。『住みやすい』(「住みやすい」と「まあまあ住みやすい」の合計)の割合は71.0%だった。

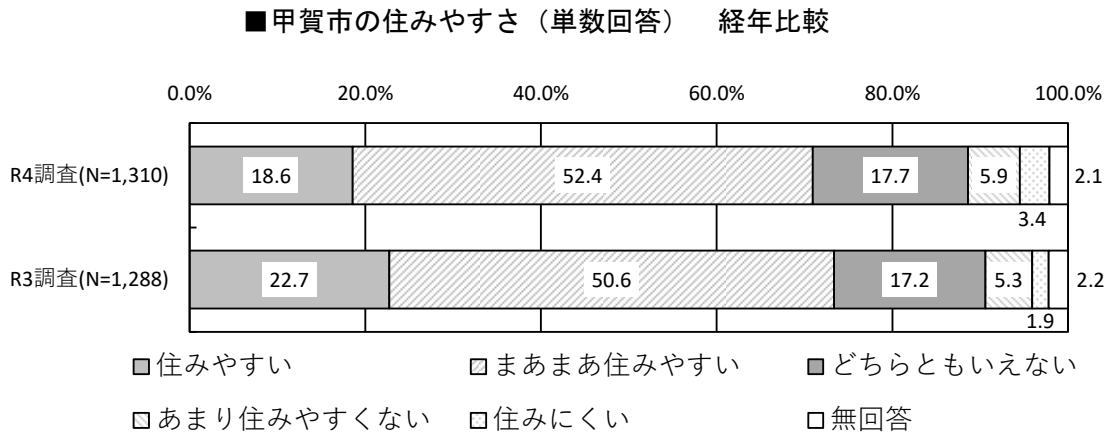
令和3年度調査と比較すると、『住みやすい』の割合は2.3ポイント減少している。

性別にみると、男性、女性ともに「まあまあ住みやすい」が最も多くなっている。『住みやすい』の割合は、男性では70.5%、女性では72.4%で大きな差はない。

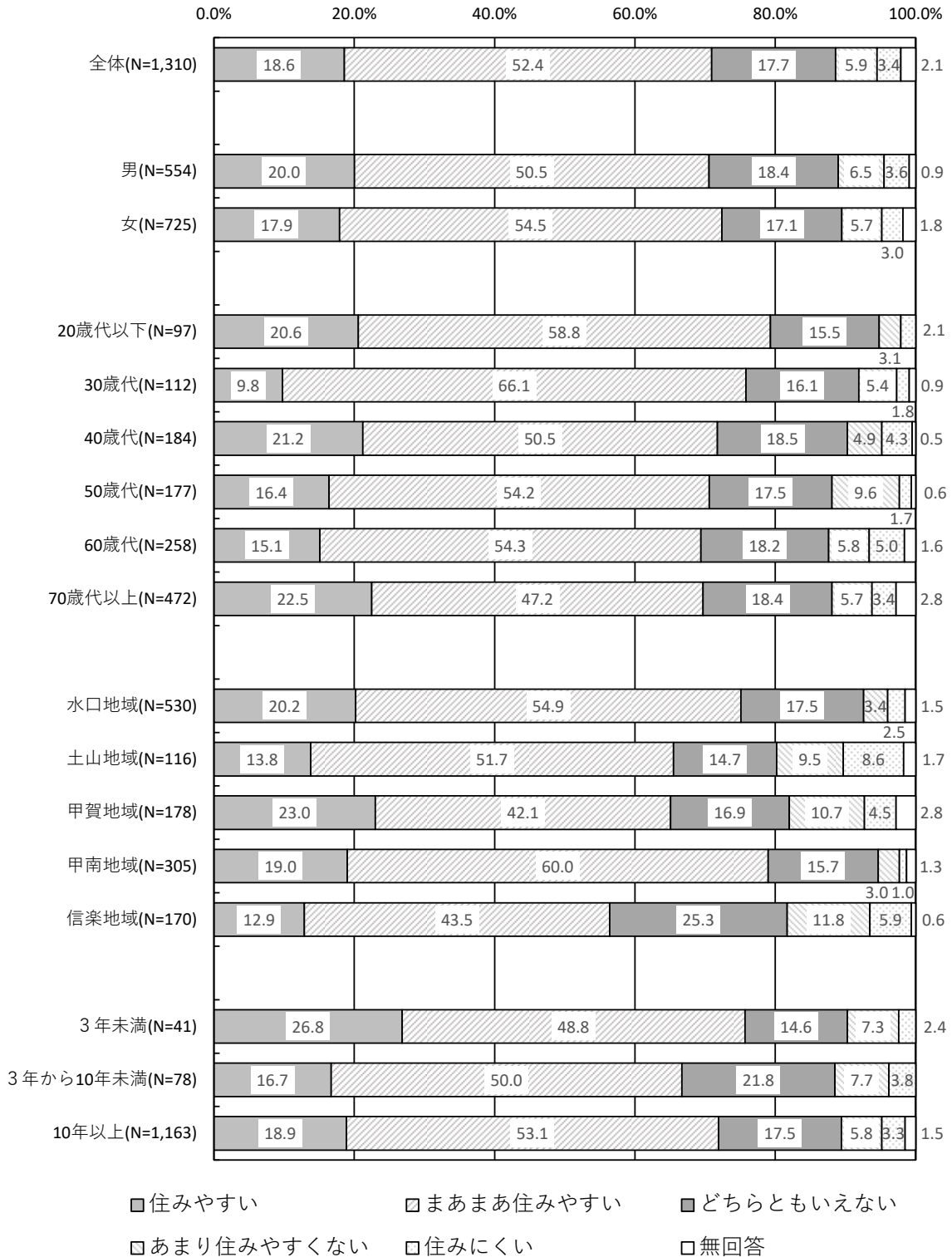
年代別にみると、すべての年代で「まあまあ住みやすい」が最も多くなっている。『住みやすい』の割合は、20歳代以下(79.4%)で最も多く、年代が上がるに従ってその割合は徐々に低くなる傾向がみられる。

居住地域別にみると、すべての地域で「まあまあ住みやすい」が最も多くなっている。『住みやすい』の割合は、甲南地域(79.0%)で最も多く、信楽地域(56.4%)で最も少ない。

甲賀市の居住歴別にみると、すべての居住歴で「まあまあ住みやすい」が最も多くなっている。『住みやすい』の割合は、3年未満(75.6%)で最も多く、3年から10年未満(66.7%)で最も少ない。



■甲賀市の住みやすさ（単数回答）



※「10年以上」は、「転入後の居住年数10年以上」と「生まれてからずっと甲賀市に住んでいる」の合計。
以下の図表すべてにおいて同様。

(2) 甲賀市の【住みやすい点】・【住みにくい点】

問 11 あなたにとって甲賀市の【住みやすい点】と【住みにくい点】はどのようなことですか。（それぞれ〇はいくつでも）

甲賀市の【住みやすい点】は、「自然・環境」（73.0%）が突出して多く、次いで「道路」（18.9%）、「福祉・医療」（17.2%）となっている。

性別にみると、男性、女性ともに「自然・環境」が最も多くなっている。

年代別にみると、すべての年代で「自然・環境」が最も多くなっている。30～40 歳代では、「子育て」が全体に比べて多くなっている。70 歳代以上では、「地域コミュニティ（区・自治会・自治振興会など）」と「福祉・医療」が全体に比べて多くなっている。

居住地域別にみると、すべての地域で「自然・環境」が最も多くなっている。水口地域では、「就労・企業」（10.9%）が他の地域より多くなっている。「道路」では、甲賀地域（29.2%）が最も多く、信楽地域（10.6%）が最も低くなっている。

甲賀市の居住歴別にみると、すべての居住歴で「自然・環境」が最も多くなっている。

3 年から 10 年未満では、「子育て」（25.6%）が全体に比べて多くなっている。

■甲賀市の住みやすい点（複数回答）

	N (有効回答者数)	子育て	教育	地域・自治振興会など (区・自治会)	就労・起業	公共交通 (バス・鉄道)	道路	自然・環境	防犯	防災	福祉・医療	文化・スポーツ	その他	無回答
全体	1,310	12.5	5.2	13.9	7.3	7.6	18.9	73.0	11.7	9.2	17.2	7.8	3.4	7.8
男	554	11.0	6.5	15.7	9.6	7.8	22.2	70.9	13.2	10.3	18.8	8.7	3.1	6.0
女	725	14.1	4.1	12.8	5.8	7.2	16.7	75.7	10.8	8.6	16.4	7.3	3.7	8.0
20歳代以下	97	12.4	7.2	7.2	9.3	6.2	16.5	69.1	11.3	3.1	10.3	14.4	5.2	7.2
30歳代	112	25.0	9.8	6.3	9.8	2.7	27.7	67.9	12.5	7.1	11.6	9.8	4.5	4.5
40歳代	184	28.3	7.1	14.1	10.3	6.5	21.7	72.3	14.7	8.2	12.0	4.9	3.8	3.8
50歳代	177	14.7	6.2	10.7	10.7	5.1	20.9	79.7	13.0	9.6	11.9	9.6	2.8	4.0
60歳代	258	8.1	4.7	11.6	8.5	6.2	18.6	75.2	12.0	10.9	14.3	7.4	5.0	7.4
70歳代以上	472	5.3	3.0	19.7	3.4	11.0	15.9	72.7	10.0	10.4	25.6	6.8	2.1	10.6
水口地域	530	14.0	6.4	14.3	10.9	8.5	16.6	68.5	11.1	10.6	18.3	8.9	4.5	7.0
土山地域	116	11.2	1.7	14.7	5.2	5.2	20.7	81.9	12.9	16.4	17.2	3.4	0.9	8.6
甲賀地域	178	15.2	4.5	12.9	5.6	11.2	29.2	78.1	15.2	10.1	14.6	7.3	2.2	7.9
甲南地域	305	11.5	4.3	12.8	4.3	7.2	21.0	73.4	10.8	7.2	17.4	6.2	3.6	5.9
信楽地域	170	8.8	6.5	15.9	5.3	3.5	10.6	77.1	11.2	2.9	17.1	10.6	2.9	9.4
3年未満	41	14.6	0.0	12.2	12.2	4.9	22.0	63.4	14.6	4.9	9.8	12.2	4.9	4.9
3年から10年未満	78	25.6	5.1	5.1	7.7	2.6	16.7	69.2	12.8	2.6	10.3	10.3	6.4	6.4
10年以上	1,163	11.8	5.5	14.8	7.1	7.9	19.1	74.2	11.7	9.9	18.1	7.5	3.3	7.1

※表内の濃い網掛け部分は、全体を 10 ポイント以上上回るものを示す。

甲賀市の【住みにくい点】は、「公共交通（バス・鉄道）」（63.8%）が突出して多く、次いで「福祉・医療」（20.1%）、「道路」（19.9%）となっている。

「道路」と「福祉・医療」は、住みやすい点・住みにくい点の両方で、上位に挙げられた。「道路」は、男性（22.2%）では住みやすい点とされ、信楽地域（37.6%）では住みにくい点とされている。「福祉・医療」は、70歳以上（25.6%）では住みやすい点とされ、60歳代（24.4%）では住みにくい点とされている。

性別にみると、男性、女性ともに「公共交通（バス・鉄道）」が最も多くなっている。

年代別にみると、すべての年代で「公共交通（バス・鉄道）」が最も多くなっている。

30歳代では「子育て」（19.6%）が、60歳代では「地域コミュニティ（区・自治会・自治振興会など）」（30.2%）が他の年代に比べて多い。

居住地域別にみると、すべての地域で「公共交通（バス・鉄道）」が最も多くなっている。

土山地域では「地域コミュニティ（区・自治会・自治振興会など）」（30.2%）、「就労・起業」（32.8%）、「教育」（19.8%）が、信楽地域では「公共交通（バス・鉄道）」（71.8%）、「道路」（37.6%）、「就労・企業」（30.0%）が他の地域に比べて多くなっている。

甲賀市の居住歴別にみると、すべての居住歴で「公共交通（バス・鉄道）」が最も多くなっている。

■甲賀市の住みにくい点（複数回答）

	N (有効回答者数)	子育て	教育	地域 ・自治 振興会 など	就 労・ 起業	公 共 交 通 (バス・ 鉄道)	道 路	自 然・ 環境	防 犯	防 災	福 祉・ 医療	文 化・ スポ ーツ	そ の 他	無 回 答
全体	1,310	6.7	10.6	19.3	17.5	63.8	19.9	3.8	5.9	5.7	20.1	7.6	4.7	11.4
男	554	7.2	10.6	21.1	17.0	63.2	24.5	5.1	6.5	6.9	17.7	7.2	4.0	9.6
女	725	6.3	10.3	18.1	17.7	65.2	16.7	3.0	5.2	5.0	21.5	7.6	5.4	11.7
20歳代以下	97	8.2	6.2	11.3	18.6	70.1	20.6	2.1	5.2	5.2	16.5	5.2	4.1	2.1
30歳代	112	19.6	17.9	17.0	18.8	62.5	29.5	5.4	8.0	5.4	19.6	11.6	3.6	5.4
40歳代	184	8.2	15.8	23.4	15.8	68.5	17.4	3.3	8.2	6.0	20.1	9.8	6.5	6.0
50歳代	177	6.2	10.7	19.8	19.8	80.8	18.6	4.0	6.2	2.3	22.6	6.2	4.0	4.0
60歳代	258	5.4	9.7	30.2	22.9	65.5	20.9	4.7	5.8	6.2	24.4	8.1	5.4	7.0
70歳代以上	472	3.8	8.5	14.2	14.0	54.9	18.9	3.6	4.7	7.0	17.8	6.6	4.2	20.3
水口地域	530	6.8	10.2	17.5	12.1	64.2	20.6	4.2	7.4	8.3	18.9	6.8	4.0	11.7
土山地域	116	9.5	19.8	30.2	32.8	71.6	19.0	6.0	6.9	8.6	20.7	9.5	4.3	8.6
甲賀地域	178	5.1	11.8	22.5	21.9	57.3	8.4	3.9	2.8	0.6	27.5	9.6	7.9	12.9
甲南地域	305	4.3	6.6	17.7	11.8	61.0	16.7	2.0	4.6	2.3	14.8	6.9	3.9	10.8
信楽地域	170	11.2	12.4	18.2	30.0	71.8	37.6	4.7	6.5	7.6	25.9	8.2	5.3	7.6
3年未満	41	2.4	4.9	12.2	9.8	56.1	12.2	0.0	4.9	0.0	19.5	9.8	17.1	12.2
3年から10年未満	78	14.1	11.5	17.9	7.7	69.2	28.2	5.1	5.1	6.4	19.2	10.3	6.4	2.6
10年以上	1,163	6.4	10.7	19.8	18.4	64.4	19.9	3.8	5.9	5.8	20.4	7.3	4.1	11.2

※表内の濃い網掛け部分は、全体を10ポイント以上上回るものを示す。

表内の薄い網掛け部分は、全体を10ポイント以上下回るものを示す。

(3) 現在の暮らしに幸せを感じるか

問 12 あなたは現在の暮らしに幸せを感じますか。(〇は1つ)

現在の暮らしに幸せを感じるかは、「どちらかといえばそう感じる」(48.5%)が最も多く、順に「どちらともいえない」(22.1%)、「そう感じる」(20.9%)、「どちらかといえばそう感じない」(4.5%)、「感じない」(2.9%)となっている。『感じる』(「そう感じる」と「どちらかといえばそう感じる」の合計)の割合は69.4%だった。

平成 29 年度調査からの推移をみると、『感じる』の割合が令和 2 年度をピークにして、徐々に減少している傾向がうかがえる。

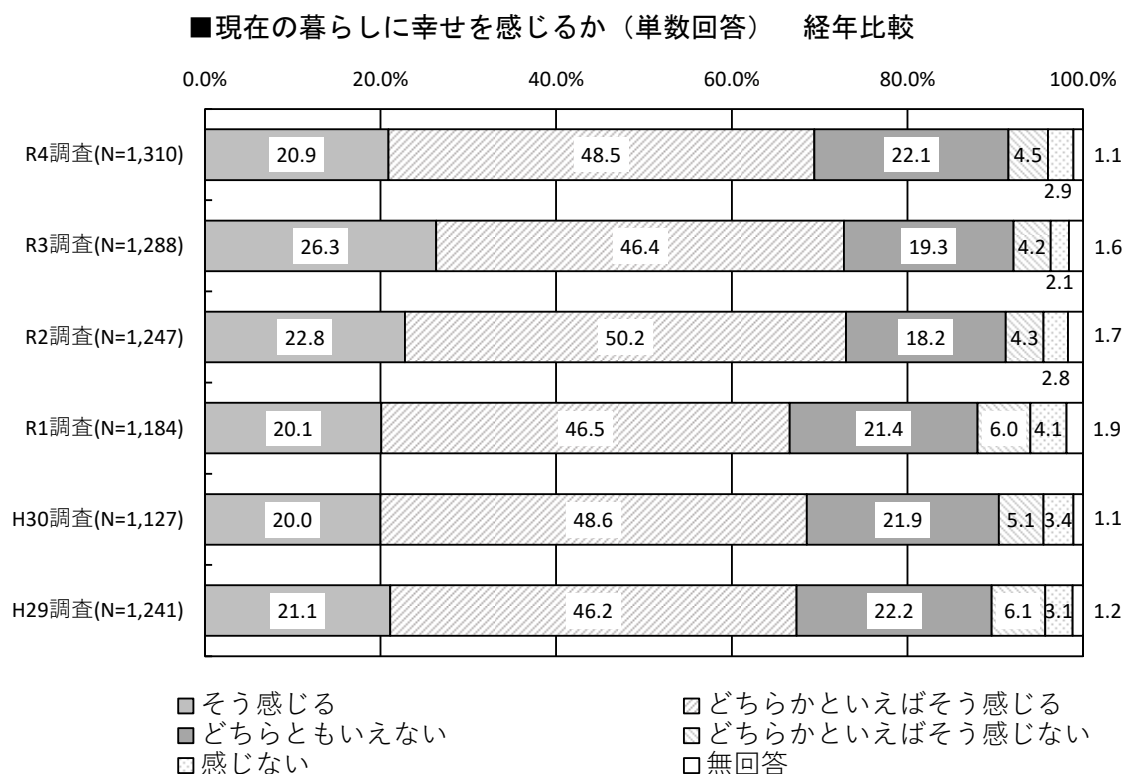
性別にみると、男性、女性ともに「どちらかといえばそう感じる」が最も多くなっている。『感じる』の割合は、女性(72.4%)が6.7ポイント多い。

年代別にみると、すべての年代で「どちらかといえばそう感じる」が最も多くなっている。『感じる』の割合は、40 歳代(76.1%)で最も多く、60 歳代(62.0%)で最も少ない。

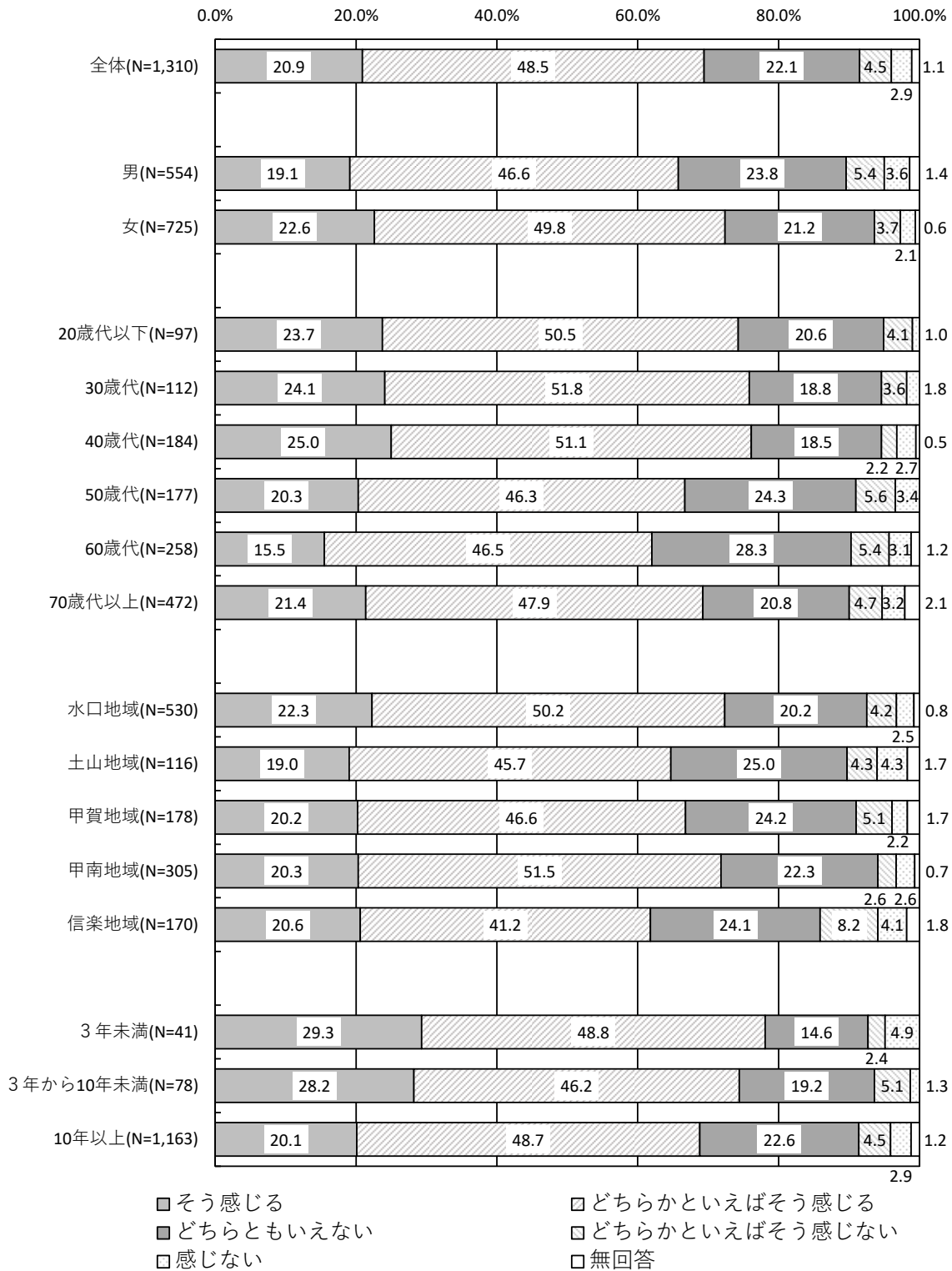
40 歳代以下では、「そう感じる」と「どちらかといえばそう感じる」とともに、他の年代より多くなっており、幸福感が高いと言える。

居住地域別にみると、すべての地域で「どちらかといえばそう感じる」が最も多くなっている。『感じる』の割合は、水口地域(72.5%)で最も多く、信楽地域(61.8%)で最も少ない。

甲賀市の居住歴別にみると、すべての居住歴で「どちらかといえばそう感じる」が最も多くなっている。『感じる』の割合は、3 年未満(78.1%)で最も多く、年数が増えるほど少なくなる傾向がうかがえる。



■現在の暮らしに幸せを感じるか（単数回答）



(4) 幸せを感じることに

問 12 で「1・2」のいずれかに回答された方におたずねします。

問 13 あなたはどのようなことに幸せを感じますか。（〇はいくつでも）

幸せを感じることは、「家族関係」（53.7%）が最も多く、次いで「健康」（52.0%）、「自由な時間、充実した余暇」（47.7%）となっている。

平成 29 年度調査からの推移をみると、「地域コミュニティ、ご近所との関係」はピークの令和 3 年度から 2.0 ポイント減少したものの、2 割台を維持している。「収入（お金）」と「就業状況（仕事の有無・安定）」、「健康」、「社会貢献」、「家族関係」、「職場や学校等の人間関係」は令和 2 年度をピークにして徐々に減少している。

性別にみると、男性、女性ともに「家族関係」が最も多くなっている。

年代別にみると、30～40 歳代では「家族関係」が、50 歳代以上では「健康」が最も多くなっている。

20 歳代以下では「自由な時間、充実した余暇」（59.7%）と「友人関係」（45.8%）が、30～40 歳代では「家族関係」と「職場や学校等の人間関係」が、40～50 歳代では「就業状況（仕事の有無・安定）」が、60 歳以上では「地域コミュニティ、ご近所との関係」が全体に比べて多くなっている。

居住地域別にみると、土山地域と甲賀地域では「健康」が、信楽地域では「自由な時間、充実した余暇」（53.3%）が、水口地域と甲南地域では「家族関係」が最も多くなっている。

甲賀市の居住歴別にみると、10 年以上では「健康」（53.1%）が、10 年未満では「家族関係」が最も多くなっている。3 年未満では「自由な時間、充実した余暇」（34.4%）と「地域コミュニティ、ご近所との関係」（9.4%）が全体に比べて少なくなっている。

■幸せを感じることに（複数回答） 経年比較

	N (有効回答者数)	収入 (お金)	就業 状況 (仕事 の有無・ 安	健康	自由 な時間、 充実した 余暇	社会 貢献	家族 関係	友人 関係	職場 や学校 等の人間 関係	地域 コミュニ ティ、ご 近所と	その他	無 回答
R4調査	909	17.8	19.1	52.0	47.7	6.6	53.7	27.7	12.1	21.3	2.0	1.1
R3調査	937	19.9	24.1	57.5	44.0	7.7	55.9	27.2	14.6	23.3	2.2	1.2
R2調査	910	25.7	24.8	68.0	48.1	10.1	64.1	36.9	17.8	15.6	1.9	0.5
R1調査	789	13.1	16.1	54.1	42.1	9.1	58.8	30.3	12.4	12.5	2.2	0.9
H30調査	773	14.6	14.7	55.0	38.0	7.5	59.4	31.0	10.9	11.9	2.1	1.0
H29調査	835	13.7	14.9	57.7	36.2	6.6	56.6	31.7	9.1	11.3	1.8	1.4

■幸せを感じること（複数回答）

	N （有効回答者数）	収入 （お金）	就業 状況（仕事の有無・安定）	健康	自由な時間、 充実した余暇	社会 貢献	家族 関係	友人 関係	職場や学校等の 人間関係	地域 コミュニ ティ、ご近所 との関係	その他	無 回答
全体	909	17.8	19.1	52.0	47.7	6.6	53.7	27.7	12.1	21.3	2.0	1.1
男	364	17.3	23.4	50.3	45.9	9.3	50.8	20.9	9.3	22.3	1.4	1.1
女	525	18.5	17.0	53.9	49.3	4.6	56.2	32.8	14.5	20.8	2.1	1.0
20歳代以下	72	18.1	20.8	52.8	59.7	5.6	45.8	45.8	16.7	5.6	2.8	2.8
30歳代	85	21.2	21.2	38.8	45.9	7.1	72.9	30.6	17.6	16.5	1.2	0.0
40歳代	140	20.7	30.0	45.0	43.6	4.3	71.4	28.6	25.7	14.3	0.7	0.0
50歳代	118	24.6	33.9	59.3	44.9	2.5	59.3	22.9	15.3	13.6	2.5	0.8
60歳代	160	16.3	26.3	56.3	48.8	13.8	46.9	22.5	14.4	24.4	3.8	0.6
70歳代以上	327	14.4	5.2	53.8	48.3	5.8	44.0	27.2	1.8	30.9	1.2	1.8
水口地域	384	20.1	21.4	51.0	49.7	6.3	56.3	28.6	15.1	19.8	1.3	0.8
土山地域	75	22.7	20.0	60.0	48.0	12.0	49.3	30.7	8.0	26.7	0.0	0.0
甲賀地域	119	15.1	13.4	58.8	38.7	7.6	53.8	23.5	12.6	26.1	2.5	3.4
甲南地域	219	17.4	21.0	50.2	47.0	4.6	52.1	25.6	10.0	18.7	1.8	0.9
信楽地域	105	11.4	14.3	45.7	53.3	7.6	51.4	31.4	8.6	24.8	4.8	1.0
3年未満	32	12.5	12.5	43.8	34.4	12.5	62.5	25.0	9.4	9.4	0.0	0.0
3年から10年未満	58	20.7	24.1	48.3	44.8	3.4	69.0	29.3	17.2	19.0	3.4	0.0
10年以上	800	18.1	19.4	53.1	48.6	6.8	52.6	28.0	12.0	22.0	1.8	1.3

※表内の濃い網掛け部分は、全体を10ポイント以上上回るものを示す。

表内の薄い網掛け部分は、全体を10ポイント以上下回るものを示す。

(5) 甲賀市への愛着

問 14 あなたは甲賀市に愛着をお持ちですか。(〇は1つ)

甲賀市への愛着は、「まあまあ愛着がある」(56.3%)が最も多く、順に「愛着がある」(26.4%)、「あまり愛着がない」(12.4%)、「愛着がない」(3.6%)となっている。

『愛着あり』(「愛着がある」と「まあまあ愛着がある」の合計)の割合は82.7%だった。

平成29年度調査からの推移をみると、『愛着あり』の割合に大きな差はないが、「愛着がある」が減少し、「まあまあ愛着がある」が増加している。

性別にみると、男性、女性ともに「まあまあ愛着がある」が最も多くなっている。『愛着あり』の割合は、男性(85.2%)が4.1ポイント多い。

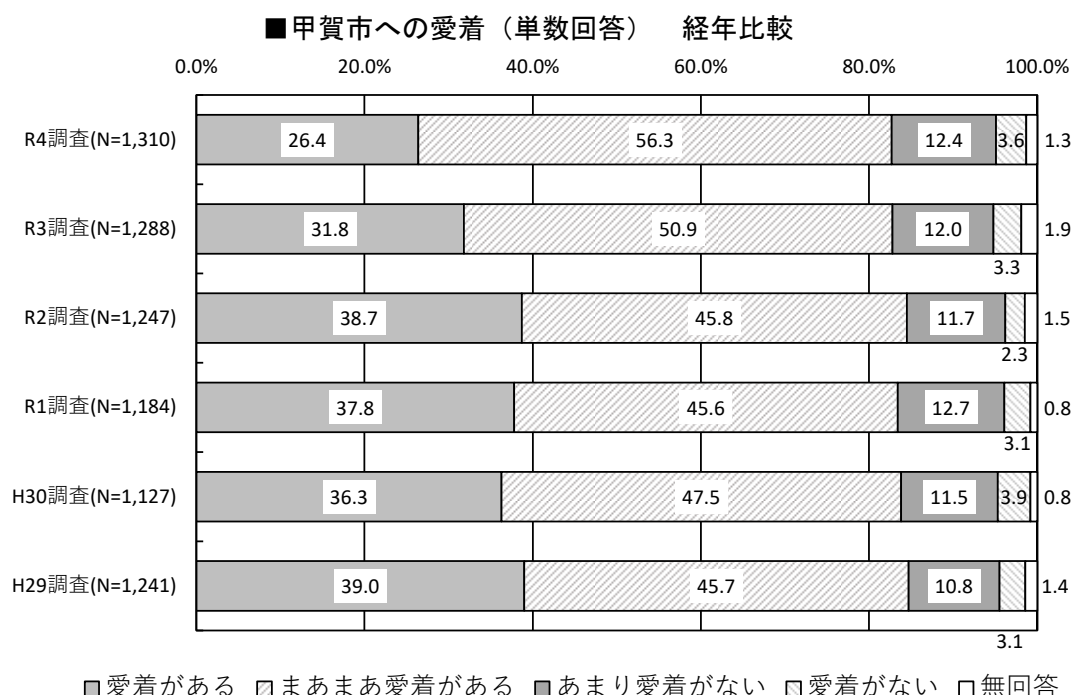
年代別にみると、すべての年代で「まあまあ愛着がある」が最も多くなっている。『愛着あり』の割合は、70歳代以上(86.2%)で最も多く、30歳代(78.6%)で最も少ない。

60歳代以下では、『愛着あり』が80%前後とほぼ一定の割合であるが、「愛着がない」は30歳代(9.8%)が最も多くなっている。

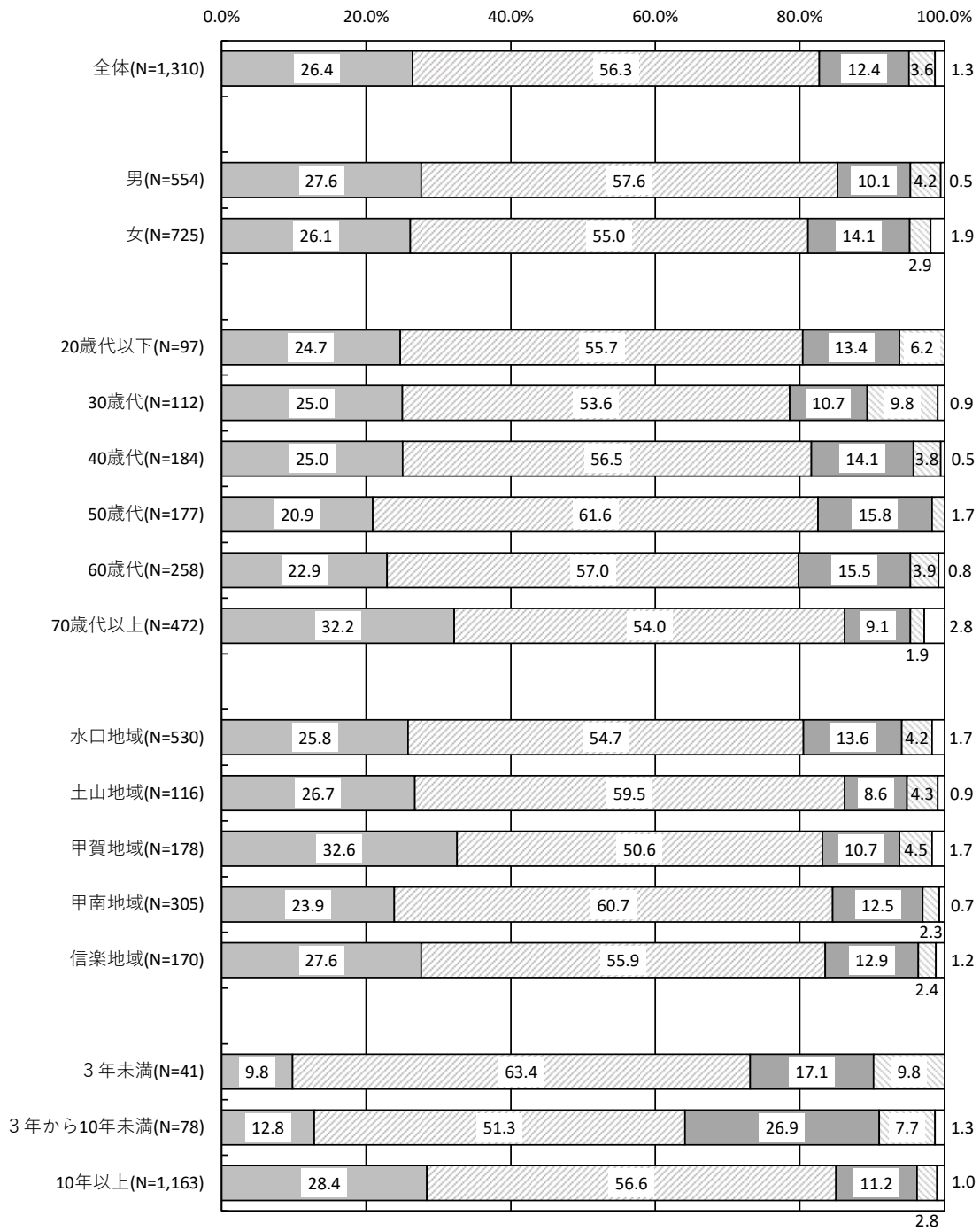
居住地域別にみると、すべての地域で「まあまあ愛着がある」が最も多くなっている。『愛着あり』の割合は、土山地域(86.2%)で最も多く、水口地域(80.5%)で最も少ない。

甲賀市の居住歴別にみると、すべての居住歴で「まあまあ愛着がある」が最も多くなっている。『愛着あり』の割合は、10年以上(85.0%)で最も多く、3年から10年未満(64.1%)で最も少ない。

定住意向別にみると、住みつづけたい回答者とどちらともいえない回答者では「まあまあ愛着がある」が、住みつづけたいとは思わない回答者では「あまり愛着がない」(37.5%)が最も多くなっている。『愛着あり』の割合は、住みつづけたい(97.3%)が最も多く、順に、どちらともいえない(67.3%)、住みつづけたいとは思わない(37.5%)だった。

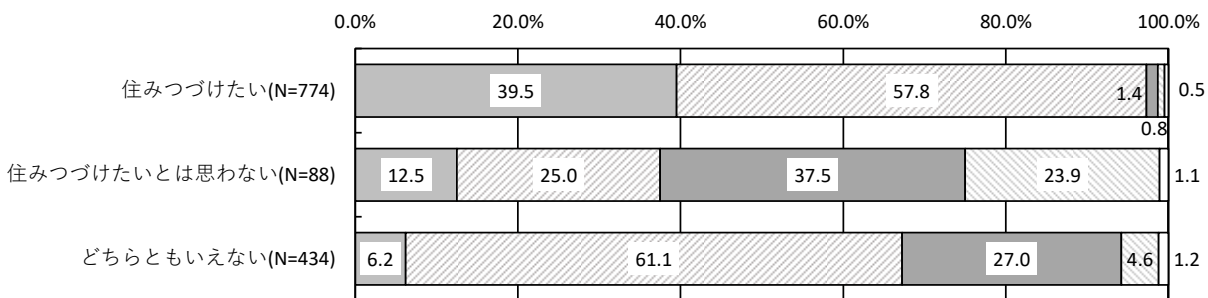


■甲賀市への愛着（単数回答）



■愛着がある □まあまあ愛着がある ■あまり愛着がない □愛着がない □無回答

■甲賀市への愛着（単数回答） 定住意向別



■愛着がある □まあまあ愛着がある ■あまり愛着がない □愛着がない □無回答

(6) 甲賀市の魅力を市外の人に自慢できるか

問 15 あなたは甲賀市の魅力を市外の人に自慢できますか。(〇は1つ)

甲賀市の魅力を市外の人に自慢できるかは、「まあまあ自慢できる」(50.7%)が最も多く、順に「あまり自慢できない」(31.6%)、「自慢できる」(8.3%)、「自慢できない」(7.3%)となっている。『自慢できる』(「自慢できる」と「まあまあ自慢できる」の合計)の割合は59.0%だった。

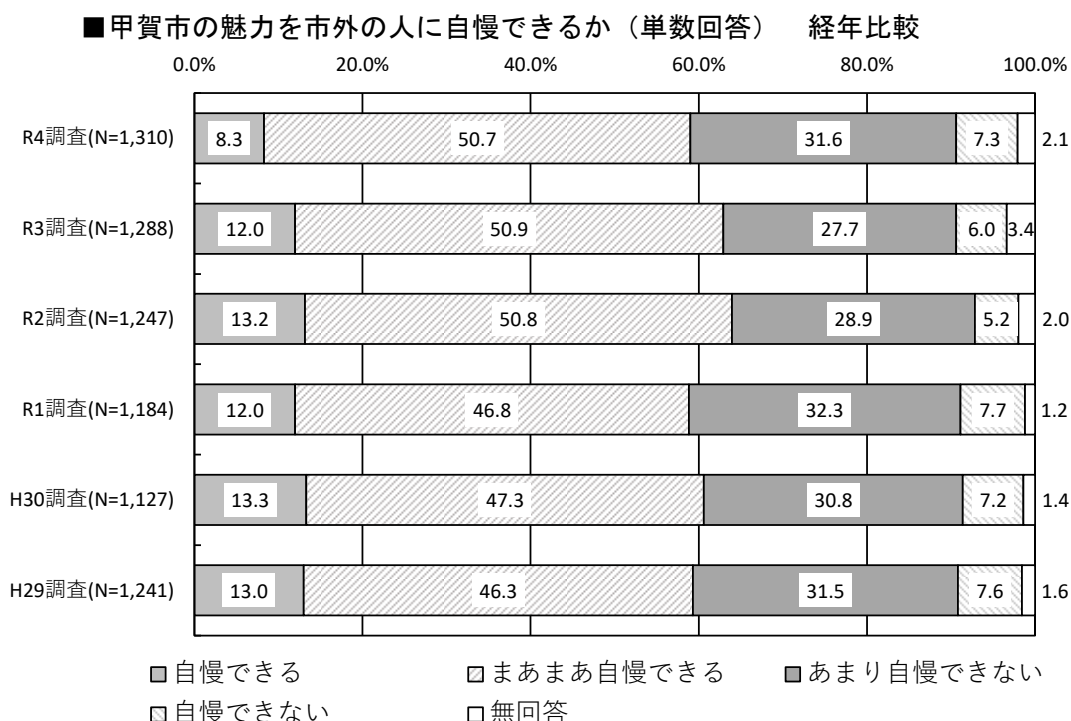
平成29年度調査からの推移をみると、『自慢できる』の割合に大きな差はないが、「自慢できる」がやや減少している傾向がうかがえる。

性別にみると、男性、女性ともに「まあまあ自慢できる」が最も多くなっている。『自慢できる』の割合は、女性(60.0%)が1.7ポイント多い。

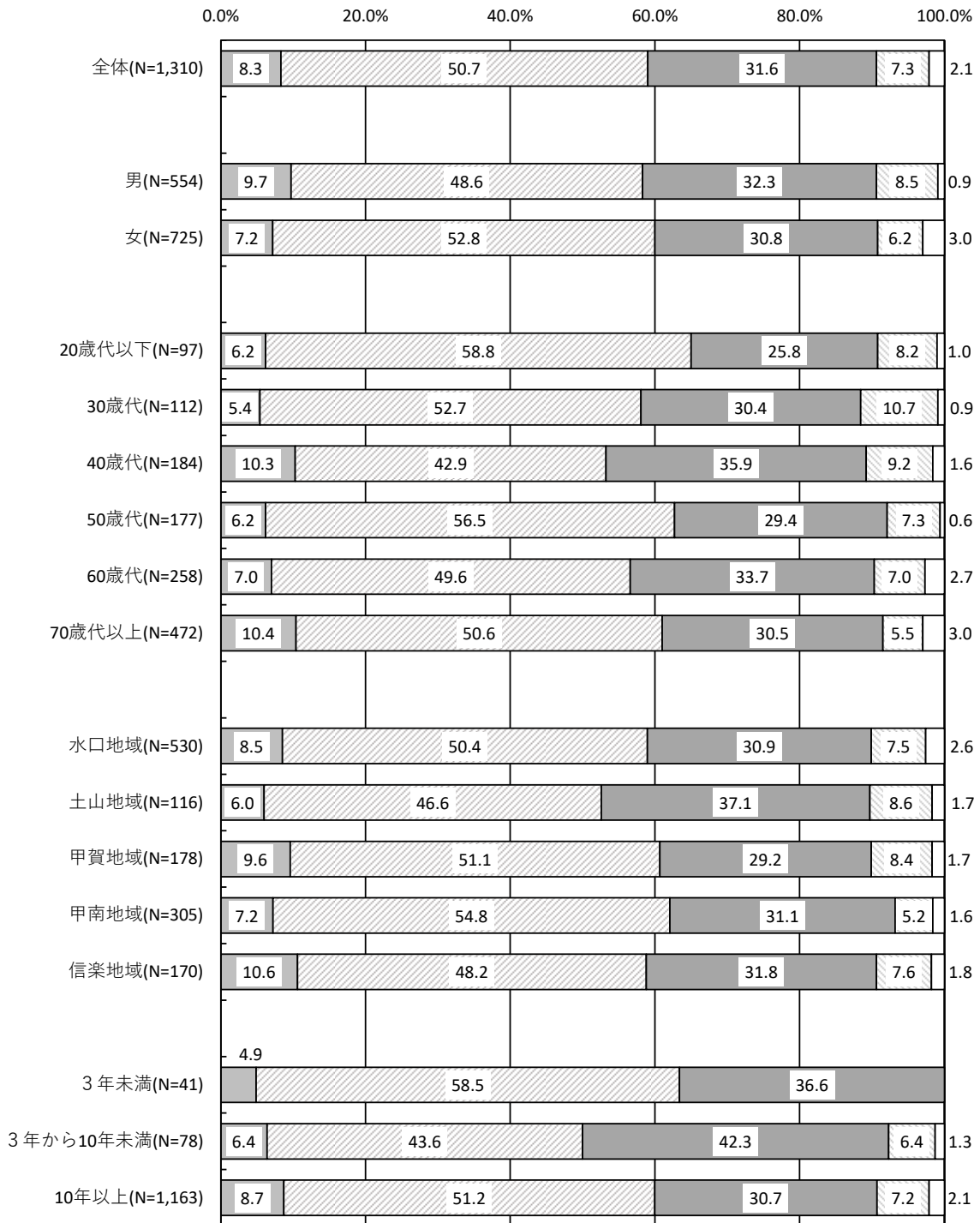
年代別にみると、すべての年代で「まあまあ自慢できる」が最も多くなっている。『自慢できる』の割合は、20歳代以下(65.0%)で最も多く、40歳代(53.2%)で最も少ないが、40歳代の「自慢できる」割合は10.3%と、20歳代以下よりも4.1ポイントも多い。

居住地域別にみると、すべての地域で「まあまあ自慢できる」が最も多くなっている。『自慢できる』の割合は、甲南地域(62.0%)で最も多く、土山地域(52.6%)で最も少ない。

甲賀市の居住歴別にみると、すべての居住歴で「まあまあ自慢できる」が最も多くなっている。『自慢できる』の割合は、3年未満(63.4%)で最も多く、3年から10年未満(50.0%)で最も少ない。



■甲賀市の魅力を市外の人に自慢できるか（単数回答）



■自慢できる □まあまあ自慢できる ■あまり自慢できない □自慢できない □無回答

(7) 甲賀市への定住意向

問 16 あなたはこれからも甲賀市に住みつづけたいと思いますか。(〇は1つ)

甲賀市への定住意向は、「住みつづけたい」(59.1%)が最も多く、順に「どちらともいえない」(33.1%)、「住みつづけたいとは思わない」(6.7%)となっている。

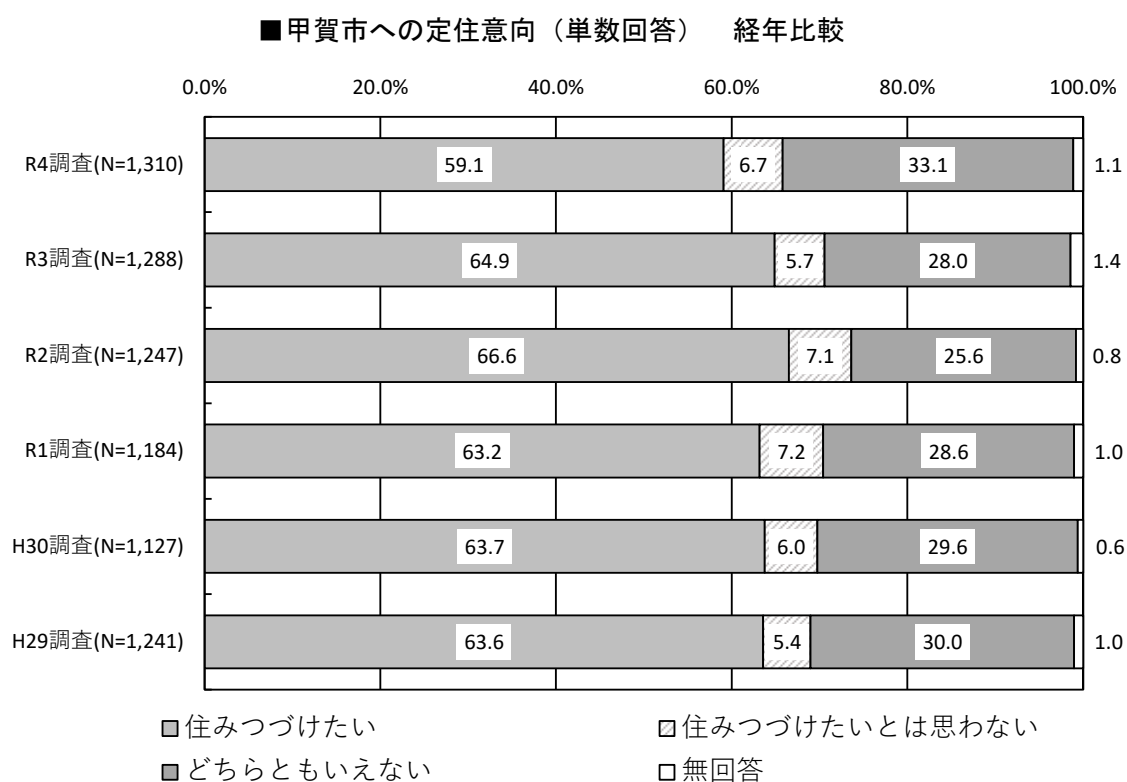
平成29年度調査からの推移をみると、令和3年度調査に比べて「住みつづけたい」が5.8ポイント減少した。

性別にみると、男性、女性ともに「住みつづけたい」が最も多くなっており、男性(63.9%)が8.3ポイント多い。

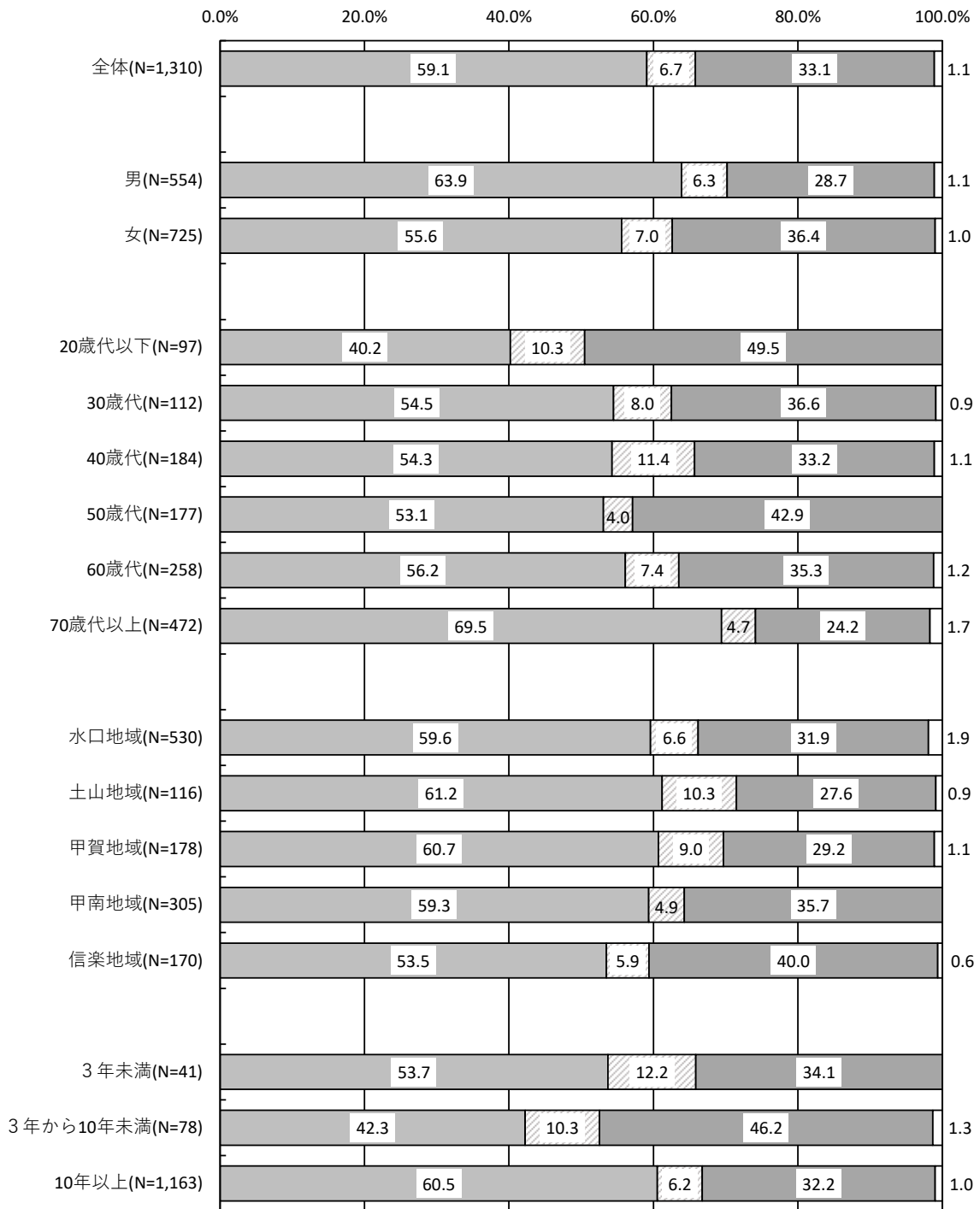
年代別にみると、すべての年代で「住みつづけたい」が最も多くなっており、70歳代以上(69.5%)が最も多く、年代が下がるとともに少なくなる傾向がうかがえ、20歳代以下(40.2%)は最も少ない。一方、20歳代以下の「住みつづけたいとは思わない」割合は、令和3年度調査(16.0%)に比べて10.3%と5.7ポイント減少した。

居住地域別にみると、すべての地域で「住みつづけたい」が最も多くなっており、土山地域(61.2%)が最も多く、信楽地域(53.5%)が最も少ない。

甲賀市の居住歴別にみると、「住みつづけたい」では10年以上(60.5%)で最も多く、3年から10年未満(42.3%)で最も少ない。3年未満の「住みつづけたい」の割合が、令和3年度調査(61.3%)に比べて7.6ポイント減少した。



■ 甲賀市への定住意向（単数回答）



□ 住みつづけたい □ 住みつづけたいとは思わない ■ どちらともいえない □ 無回答

(8) 市政への関心

問 17 あなたは、市政（市役所のしていること）に関心をお持ちですか。（〇は1つ）

市政への関心は、「まあまあ関心がある」（44.5%）が最も多く、順に「あまり関心がない」（28.5%）、「関心がある」（18.2%）、「関心がない」（8.1%）となっている。『関心あり』（「関心がある」と「まあまあ関心がある」の合計）の割合は62.7%だった。

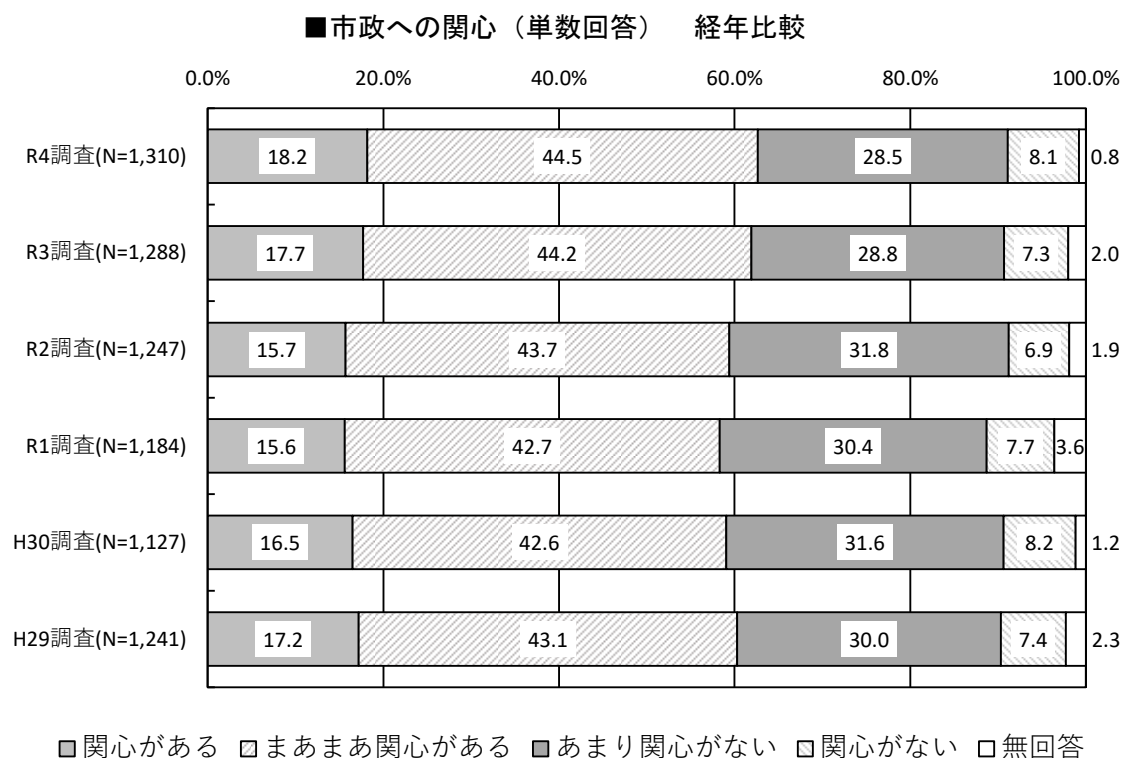
平成29年度調査からの推移をみると、『関心あり』の割合が徐々に増加している傾向がうかがえる。

性別にみると、男性、女性ともに「まあまあ関心がある」が最も多くなっている。『関心あり』の割合は、男性（63.0%）が0.5ポイント多い。

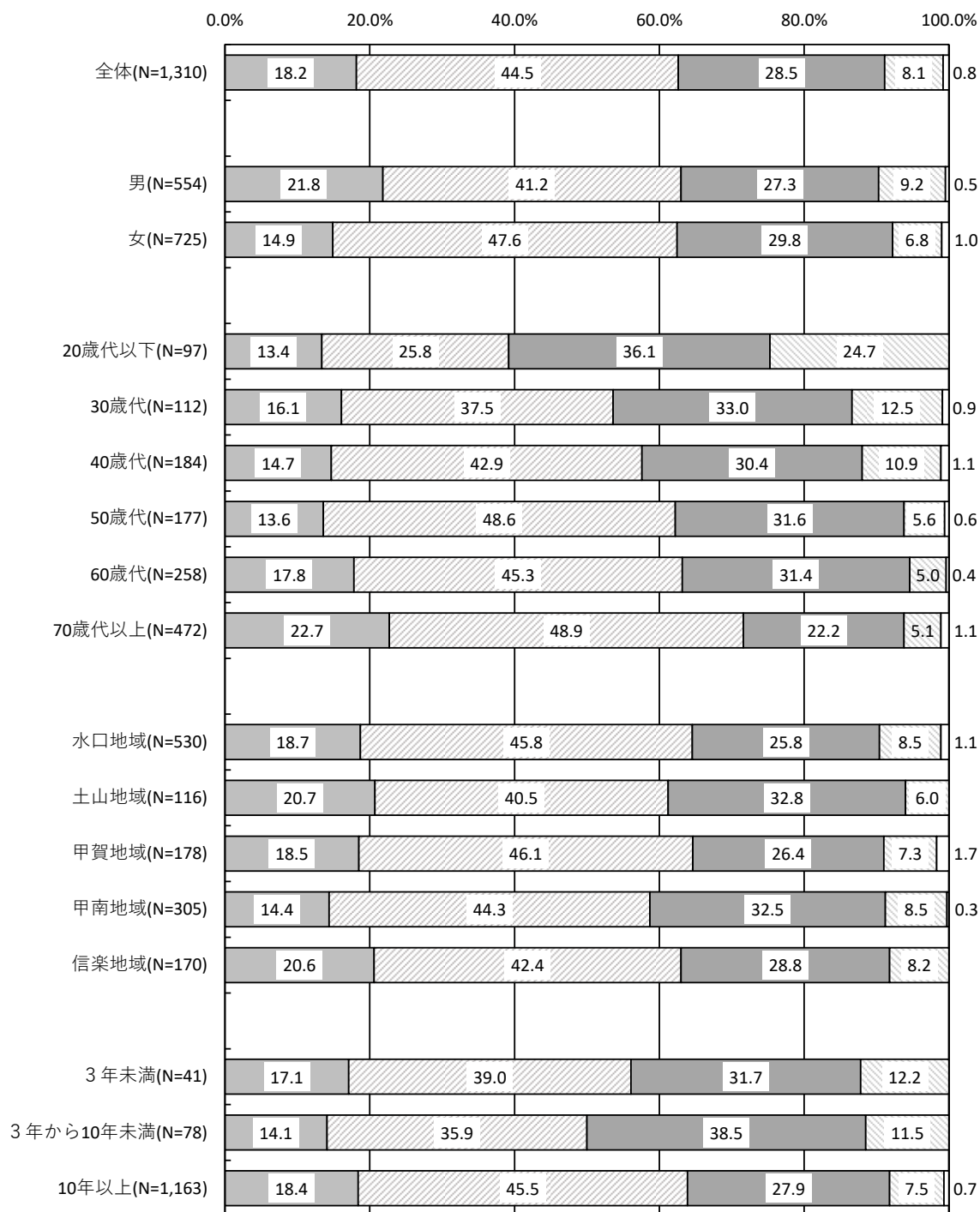
年代別にみると、20歳代以下では「あまり関心がない」（36.1%）が、30歳代以上では「まあまあ関心がある」が最も多くなっている。『関心あり』の割合は、70歳代以上（71.6%）で最も多く、年代が下がるとともに少なくなる傾向がうかがえ、20歳代以下（39.2%）では最も少ない。

居住地域別にみると、すべての地域で「まあまあ関心がある」が最も多くなっている。『関心あり』の割合は、甲賀地域（64.6%）で最も多く、甲南地域（58.7%）で最も少ない。

甲賀市の居住歴別にみると、3年未満と10年以上では「まあまあ関心がある」が、3年から10年未満では「あまり関心がない」（38.5%）が最も多くなっている。『関心あり』の割合は、10年以上（63.9%）で最も多く、3年から10年未満（50.0%）で最も少ない。



■ 市政への関心（単数回答）



☐ 関心がある
 ☐ まあまあ関心がある
 ☐ あまり関心がない
 ☐ 関心がない
 ☐ 無回答

2. 環境保全について

(1) 環境に対する取り組み等への関心

問18 環境や環境に対する取り組みについて関心はありますか。(〇は1つ)

環境や環境に対する取り組みへの関心については、「ある」(53.9%)が最も多く、順に「あまりない」(18.3%)、「大いにある」(13.4%)、「まったくない」(2.4%)となっている。『ある』(「大いにある」と「ある」の合計)の割合は67.3%、『ない』(「あまりない」と「まったくない」の合計)の割合は20.7%だった。なお、「わからない」は9.9%だった。

性別にみると、男性、女性ともに「ある」が最も多くなっている。『ある』と『ない』の割合は、いずれも男性が多い。「わからない」は、女性(11.4%)が3.6ポイント多い。

年代別にみると、20歳代以下では「あまりない」(36.1%)が、その他の年代では「ある」が最も多くなっている。『ある』の割合は、年代が上がるとともに多くなる傾向がうかがえ、50歳代以上では、70%台の高い結果となった。

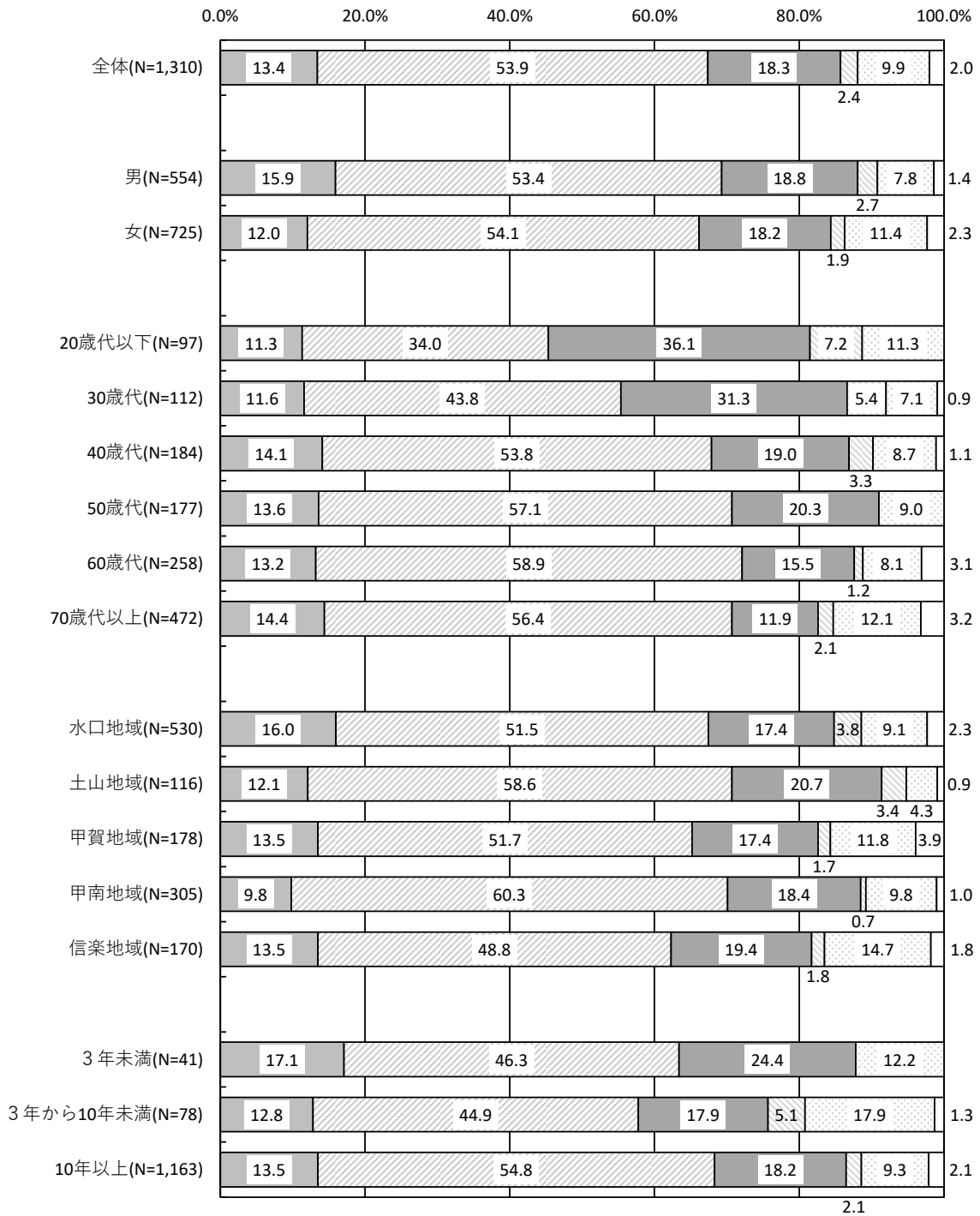
居住地域別にみると、すべての地域で「ある」が最も多くなっている。『ある』の割合は、土山地域(70.7%)で最も多く、信楽地域(62.3%)で最も少ない。『ない』の割合は、土山地域(24.1%)で最も多く、甲賀地域と甲南地域(ともに19.1%)で最も少ない。土山地域では、『ある』『ない』とも最も多い結果となった。「わからない」は、信楽地域(14.7%)と甲賀地域(11.8%)が全体に比べてやや多くなっている。

甲賀市の居住歴別にみると、すべての居住歴で「ある」が最も多くなっている。『ある』の割合は、10年以上(68.3%)で最も多く、3年から10年未満(57.7%)で最も少ない。

『ない』の割合は、3年未満(24.4%)で最も多く、10年以上(20.3%)で最も少ない。

10年未満では、「わからない」の割合が全体に比べて多くなっており、環境や環境に対する取り組みについてはイメージしにくいと考えられる。

■環境に対する取り組み等への関心（単数回答）



□大いにある □ある □あまりない □まったくない □わからない □無回答

(2) 環境を良くするために重要と思うこと

問 19 環境を良くするために重要と思うことは何ですか。(〇は優先と考えられるものを3つまで)

環境を良くするために重要と思うことは、「地球温暖化対策」(45.1%)が最も多く、次いで「ごみの減量やリサイクル」(43.2%)、「森林、河川などの環境保全」(34.9%)、「公共交通機関の利用促進」(26.3%)、「再生可能エネルギーの導入」(25.4%)、「環境意識の向上」(19.7%)、「省エネルギー対策」(18.7%)となっている。

性別にみると、男性、女性ともに全体とほぼ同様な割合となっている。

年代別にみると、20歳代以下(45.4%)と50～60歳代は「地球温暖化対策」が、40歳代以下と70歳代以上では「ごみの減量やリサイクル」が最も多くなっている。

20歳代以下では「野生動植物の保護」(21.6%)が、30歳代では「再生可能エネルギーの導入」(37.5%)と「省エネルギー対策」(33.0%)が全体に比べて多い。また、30歳代以下では「公共交通機関の利用促進」が全体に比べて少ない。

居住地域別にみると、水口地域と土山地域、甲賀地域では「地球温暖化対策」が、甲南地域では「ごみの減量やリサイクル」(46.2%)が、信楽地域では「森林、河川などの環境保全」(44.1%)が最も多くなっている。

「公共交通機関の利用促進」では土山地域(34.5%)が最も多く、水口地域(22.3%)が最も少ない。これは地域環境や特性が反映された結果であると思われる。

甲賀市の居住歴別にみると、3年未満では「ごみの減量やリサイクル」(51.2%)が、3年以上では「地球温暖化対策」が最も多くなっている。

3年未満では「再生可能エネルギーの導入」(39.0%)と「省エネルギー対策」(31.7%)が全体に比べて多く、「公共交通機関の利用促進」(9.8%)が全体に比べて少ない。

3年から10年未満では「森林、河川などの環境保全」(21.8%)で全体に比べて少ない。

■環境を良くするために重要と思うこと（3つ以内で複数回答）

	N (有効回答者数)	地球温暖化対策	再生可能エネルギーの導入	省エネルギー対策	環境配慮商品の普及	ごみの減量やリサイクル	野生動植物の保護	森林、河川などの環境保全	大気、土壌の公害対策	騒音、振動などの公害対策	公共交通機関の利用促進	環境意識の向上	その他	特にない	無回答
全体	1,310	45.1	25.4	18.7	7.9	43.2	10.6	34.9	7.6	7.0	26.3	19.7	1.8	2.2	2.7
男	554	41.2	26.7	19.9	6.5	41.0	8.5	39.7	7.9	8.3	26.0	21.1	2.5	1.8	2.3
女	725	47.7	24.6	17.7	9.2	45.8	11.9	31.4	7.4	5.8	26.5	18.8	1.0	2.3	3.0
20歳代以下	97	45.4	25.8	17.5	13.4	45.4	21.6	32.0	7.2	13.4	14.4	17.5	0.0	2.1	3.1
30歳代	112	42.0	37.5	33.0	8.9	46.4	7.1	28.6	9.8	10.7	12.5	23.2	2.7	2.7	0.9
40歳代	184	41.8	36.4	25.5	4.3	46.7	10.9	33.2	8.2	7.1	20.1	16.8	1.6	3.8	1.1
50歳代	177	53.1	31.6	15.3	5.1	45.2	11.3	33.9	11.9	8.5	20.9	18.1	1.7	0.6	0.6
60歳代	258	49.6	25.6	16.7	8.1	38.4	7.0	38.0	7.0	5.8	26.7	24.8	3.1	1.9	0.8
70歳代以上	472	41.3	16.1	15.3	8.9	43.0	10.8	36.7	5.7	4.9	36.0	18.4	1.3	2.1	5.5
水口地域	530	49.4	27.5	19.6	9.1	46.4	7.9	29.1	9.2	9.2	22.3	17.9	1.3	3.0	2.3
土山地域	116	44.8	18.1	18.1	11.2	37.1	8.6	42.2	4.3	4.3	34.5	22.4	1.7	1.7	4.3
甲賀地域	178	42.7	24.7	15.7	6.2	38.8	19.1	38.2	7.3	3.9	24.2	21.9	2.8	2.2	3.9
甲南地域	305	43.9	26.2	19.3	6.2	46.2	8.9	35.7	5.9	7.2	28.9	21.6	1.6	1.0	2.0
信楽地域	170	35.9	24.7	18.2	7.1	37.6	14.7	44.1	7.6	4.7	30.6	17.6	2.4	1.8	2.9
3年未満	41	36.6	39.0	31.7	7.3	51.2	2.4	26.8	17.1	7.3	9.8	19.5	4.9	2.4	0.0
3年から10年未満	78	44.9	30.8	16.7	9.0	39.7	10.3	21.8	10.3	10.3	20.5	24.4	1.3	1.3	5.1
10年以上	1,163	45.6	25.0	18.5	7.9	43.4	10.9	36.1	7.1	6.8	27.3	19.3	1.6	2.1	2.6

※表内の濃い網掛け部分は、全体を10ポイント以上上回るものを示す。

表内の薄い網掛け部分は、全体を10ポイント以上下回るものを示す。

(3) 「クールチョイス」の認知度

問 20 市では誰もがよりよい環境を意識した行動ができるまちをめざすため、クールチョイスを進めています。あなたは、クールチョイスという取り組みをご存じですか。

(○は1つ) ※クールチョイスとは、CO2などの温室効果ガスの排出量削減のために、脱炭素社会づくりに貢献する「製品への買い替え」、「サービスの利用」、「ライフスタイルの選択」など、日々の生活の中で、あらゆる賢い選択をしていこうとする取り組みです。

クールチョイスの認知度は、「聞いたことがない（今回初めて知った）」（66.9%）が最も多く、順に「名前だけ知っている」（15.3%）、「少し知っている」（14.9%）、「詳しく知っている」（1.5%）となっている。『知っている』（「詳しく知っている」と「少し知っている」、「名前だけ知っている」の合計）の割合は31.7%だった。

性別にみると、男性、女性とも、全体とほぼ同様な割合となっている。

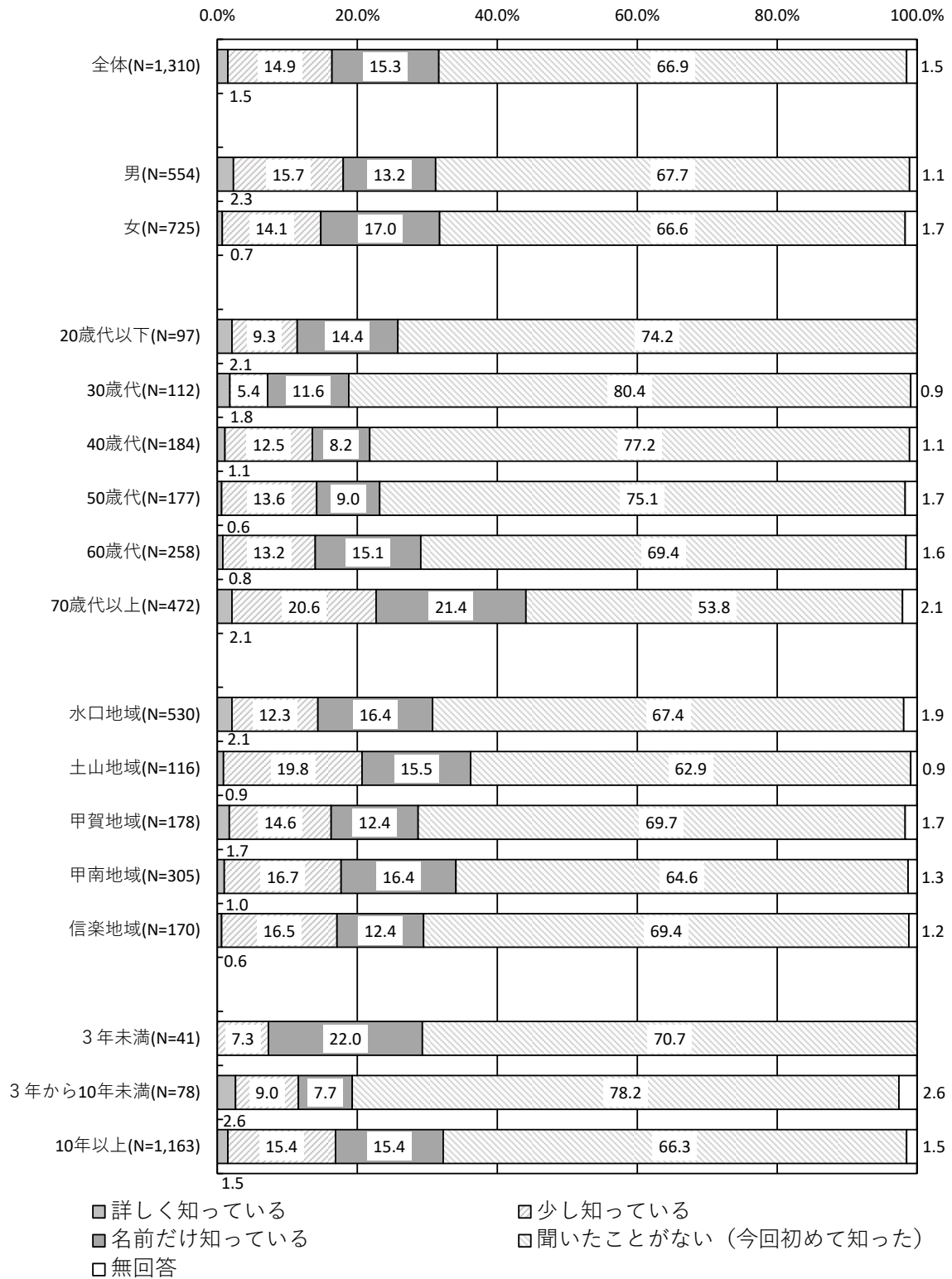
年代別にみると、すべての年代で「聞いたことがない（今回初めて知った）」が最も多くなっている。『知っている』の割合は、70歳代以上（44.1%）が最も多く、20歳代以下（25.8%）を除いて年代が下がるに従って認知度が低くなっている。

居住地域別にみると、すべての地域で「聞いたことがない（今回初めて知った）」が最も多くなっている。『知っている』の割合は、土山地域（36.2%）が最も多く、甲賀地域（28.7%）が最も少ない。

甲賀市の居住歴別にみると、すべての地域で「聞いたことがない（今回初めて知った）」が最も多くなっている。『知っている』の割合は、10年以上（32.3%）が最も多く、3年から10年未満（19.3%）で最も少ない。

クールチョイスの認知度を高める啓発が必要である。

■「クールチョイス」の認知度（単数回答）



(4) 生活の中で実践していること

問 21 あなたが生活の中で実践していることはありますか。(〇は優先と考えるものを3つまで)

環境を良くするために生活の中で実践していることは、「マイバックの使用などによるごみの削減・分別」(70.7%)が最も多く、次いで「節水や節電」(61.3%)、「食品ロスの削減や地元食材の利用」(42.4%)となっており、日常生活で身近に取り組める項目の割合が多くなっている。一方、購入費用が大きい「太陽光発電などの再エネ設備や省エネ設備の導入」や「電気自動車やハイブリッド自動車への乗り換え」については12%台と低い割合となった。

性別にみると、特に「マイバックの使用などによるごみの削減・分別」と「節水や節電」、「食品ロスの削減や地元食材の利用」については女性が、「省エネ家電の購入」と「電気自動車やハイブリッド自動車への乗り換え」、「CO₂の排出が少ない製品の選択」については男性がそれぞれ多くなっている。

年代別にみると、20歳代以下では「公共交通機関の利用」(17.5%)が全体と比べて突出して多く、「食品ロスの削減や地元食材の利用」(32.0%)と「省エネ家電の購入」(12.4%)、および30歳代の「節水や節電」(46.4%)が全体と比べて少ない。

居住地域別にみると、特に水口地域では「太陽光発電などの再エネ設備や省エネ設備の導入」(14.0%)が全体より多く、信楽地域では「省エネ家電の購入」(17.6%)と「電気自動車やハイブリッド自動車への乗り換え」(7.1%)が、甲賀地域では「食品ロスの削減や地元食材の利用」(37.6%)が、土山地域と信楽地域では「公共交通機関の利用」が全体より少ない。

甲賀市の居住歴別にみると、特に3年未満では「電気自動車やハイブリッド自動車への乗り換え」(22.0%)と「CO₂の排出が少ない製品の選択」(9.8%)、「節水や節電」(65.9%)が、3年から10年未満では「マイバックの使用などによるごみの削減・分別」(80.8%)が、10年以上では「公共交通機関の利用」(7.1%)と「省エネ家電の購入」(25.7%)がそれぞれ全体より多くなっている。

■生活の中で実践していること（3つ以内で複数回答）

	N (有効回答者数)	CO ₂ の排出が 少ない製品の 選択	節水や節電	省エネ家電の 購入	太陽光発電などの 再エネ設備の導入	電気自動車やハイ ブリッド自動車への 乗り換え	公共交通機関の 利用	食品ロスの削減や 地元食材の利用	マイバックスの削 減・分別	その他	無 回 答
全体	1,310	5.6	61.3	25.5	12.6	12.1	6.9	42.4	70.7	1.8	2.8
男	554	7.0	59.4	28.0	12.8	16.8	6.1	34.7	63.7	2.3	2.9
女	725	4.7	62.5	23.7	11.7	9.0	7.0	48.6	76.4	1.4	2.9
20歳代以下	97	7.2	52.6	12.4	13.4	9.3	17.5	32.0	67.0	0.0	2.1
30歳代	112	2.7	46.4	25.0	19.6	12.5	4.5	34.8	77.7	0.0	3.6
40歳代	184	6.5	58.2	29.9	20.7	12.5	4.9	40.2	69.6	2.7	1.6
50歳代	177	4.5	57.6	26.6	14.7	17.5	4.5	41.8	71.8	0.6	1.1
60歳代	258	4.3	63.6	30.2	8.9	13.6	5.0	39.5	74.8	3.5	1.9
70歳代以上	472	7.0	68.4	23.5	8.3	10.0	8.1	48.7	67.8	1.7	4.4
水口地域	530	4.5	59.1	26.4	14.0	14.2	7.4	42.1	72.1	1.5	2.5
土山地域	116	6.0	61.2	27.6	10.3	14.7	4.3	46.6	68.1	0.9	3.4
甲賀地域	178	7.9	66.3	21.9	10.1	11.8	7.9	37.6	64.6	2.8	4.5
甲南地域	305	6.2	63.0	29.2	12.5	10.8	7.5	44.3	73.8	0.7	1.6
信楽地域	170	5.3	61.2	17.6	11.8	7.1	5.3	42.4	69.4	4.1	4.1
3年未満	41	9.8	65.9	24.4	7.3	22.0	4.9	43.9	70.7	0.0	2.4
3年から10年未満	78	1.3	59.0	21.8	15.4	7.7	3.8	35.9	80.8	1.3	2.6
10年以上	1,163	5.5	61.7	25.7	12.3	12.1	7.1	43.0	70.4	1.9	2.8

※表内の濃い網掛け部分は、全体を10ポイント以上上回るものを示す。

表内の薄い網掛け部分は、全体を10ポイント以上下回るものを示す。

(5) 環境に対する取り組みを進めるための生活の許容範囲

問 22 環境に対する取り組みを進めるために、ご自身の生活についてどの程度許容できますか。（〇は1つ）

環境に対する取り組みを進めるための生活の許容範囲は、「現在のライフスタイル（生活様式）を多少変えてでも取り組むべき」（46.4%）が最も多く、次いで「現在のライフスタイル（生活様式）を変えない範囲で取り組むべき」（45.7%）となっているが、その差は0.7ポイントにすぎない。続いて、「現在のライフスタイル（生活様式）を大きく変えてでも取り組むべき」（3.7%）、「取り組む必要はない」（1.5%）となっている。

性別にみると、男性は「現在のライフスタイル（生活様式）を多少変えてでも取り組むべき」（47.7%）が、女性は「現在のライフスタイル（生活様式）を変えない範囲で取り組むべき」（46.5%）が最も多くなっている。

年代別にみると、『変えてでも取り組むべき』（「現在のライフスタイル（生活様式）を大きく変えてでも取り組むべき」と「現在のライフスタイル（生活様式）を多少変えてでも取り組むべき」の合計）の割合は、20歳代以下（58.8%）が最も多く、70歳代以上（43.0%）が最も少ない。年代が上がるに従って少なくなる傾向がうかがえる。

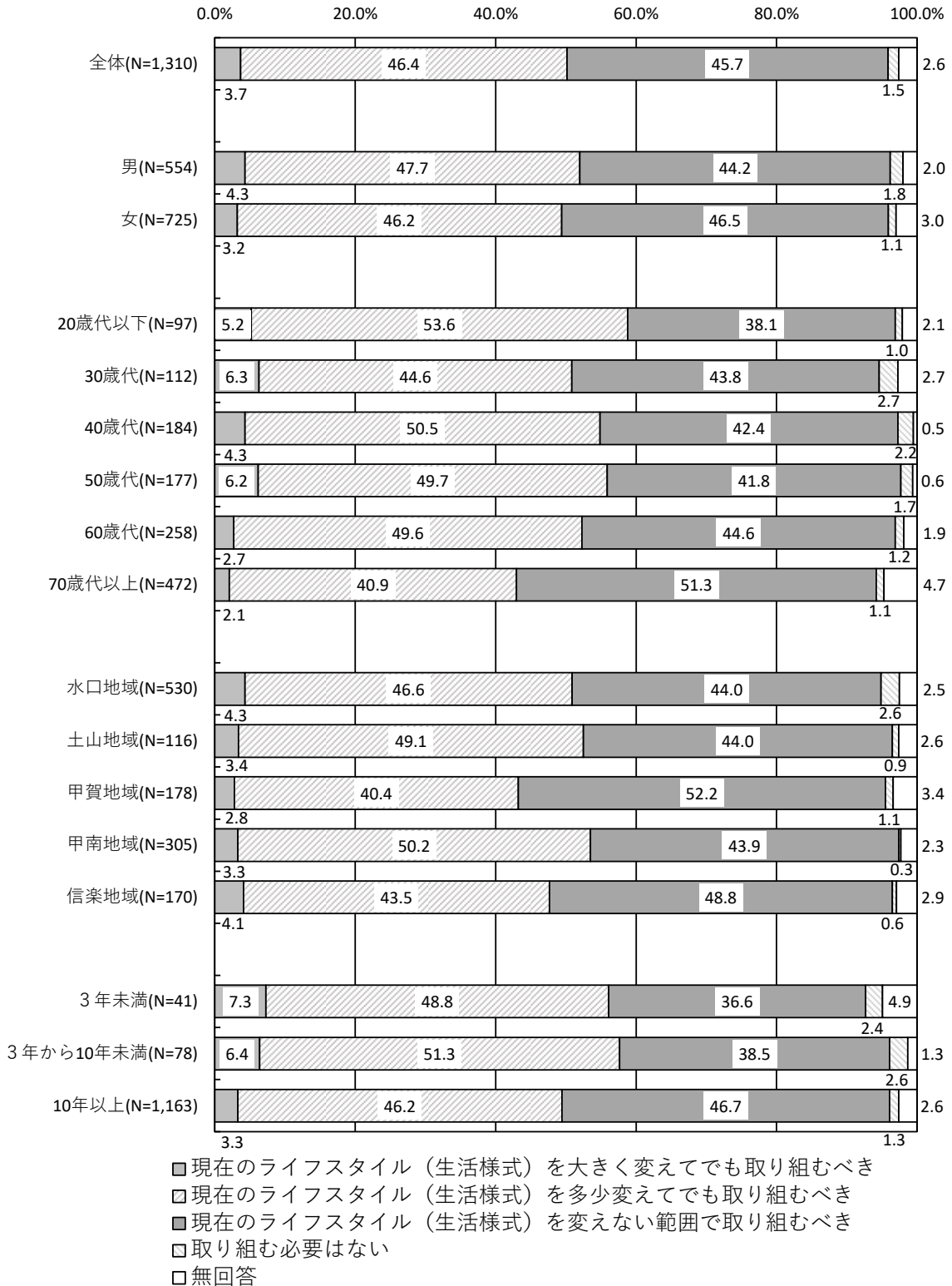
50歳代以下の年代では、「現在のライフスタイル（生活様式）を大きく変えてでも取り組むべき」の割合が全体と比べて多い。

居住地域別にみると、甲南地域では『変えてでも取り組むべき』（53.5%）が、甲賀地域では「現在のライフスタイル（生活様式）を変えない範囲で取り組むべき」（52.2%）の割合が最も多くなっている。水口地域では、「取り組む必要はない」（2.6%）の割合が全体と比べて多い。

甲賀市の居住歴別にみると、3年から10年未満では『変えてでも取り組むべき』が57.7%と最も多く、10年以上では49.5%と最も少ない。

「現在のライフスタイル（生活様式）を大きく変えてでも取り組むべき」では、3年未満（7.3%）が最も多く、居住歴が長いほどその割合が少ない。

■環境に対する取り組みを進めるための生活の許容範囲（単数回答）



3. 市の情報発信について

(1) 市に関する情報の入手

問 23 市に関する情報をどの程度読んだり、見たり、聞いたりしておられますか。
(それぞれ○は1つ)

市に関する情報の入手は、『読む、見る、聞く』（「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」の合計）の割合は、「広報紙『広報こうか』」（85.8%）が最も多く、次いで「区・自治会等を通じた各戸配布や回覧（文書、チラシ、ポスターなど）」（80.9%）、「市議会だより」（58.4%）となっている。

「必ず読む、見る、聞く」では、「区・自治会等を通じた各戸配布や回覧（文書、チラシ、ポスターなど）」（31.4%）が最も多く、次いで「広報紙『広報こうか』」（31.1%）、「市議会だより」（10.3%）となっている。

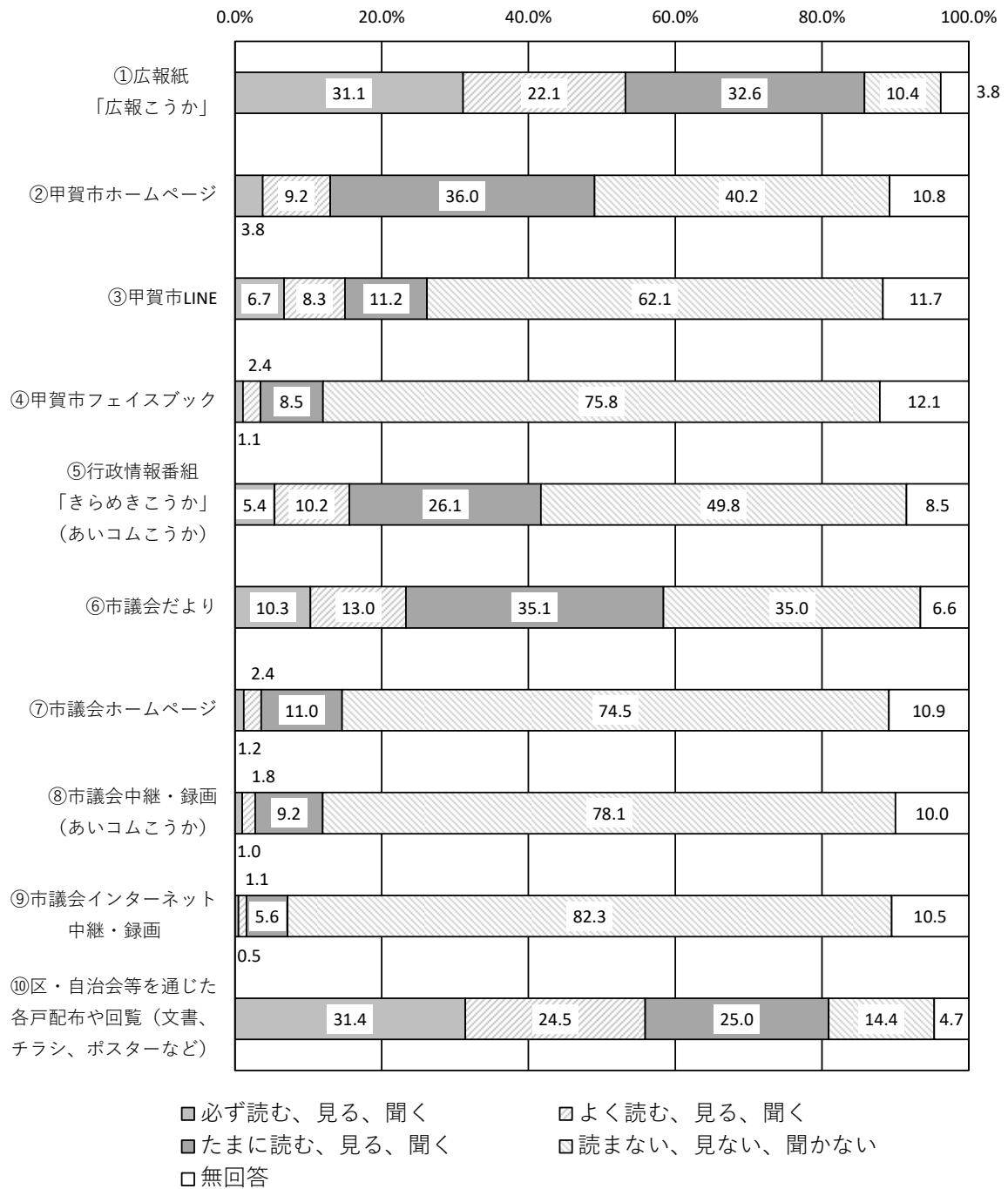
「よく読む、見る、聞く」では、「区・自治会等を通じた各戸配布や回覧（文書、チラシ、ポスターなど）」（24.5%）が最も多く、次いで「広報紙『広報こうか』」（22.1%）、「市議会だより」（13.0%）となっている。

「たまに読む、見る、聞く」では、「甲賀市ホームページ」（36.0%）が最も多く、次いで「市議会だより」（35.1%）、「広報紙『広報こうか』」（32.6%）となっている。

「読まない、見ない、聞かない」では、「市議会インターネット中継・録画」（82.3%）が最も多く、次いで「市議会中継・録画（あいコムこうか）」（78.1%）、「甲賀市フェイスブック」（75.8%）となっている。

■市に関する情報の入手（単数回答）

全体(N=1,310)



① 広報紙「広報こうか」

広報紙「広報こうか」は、「たまに読む、見る、聞く」（32.6%）が最も多く、順に「必ず読む、見る、聞く」（31.1%）、「よく読む、見る、聞く」（22.1%）、「読まない、見ない、聞かない」（10.4%）となっている。『読む、見る、聞く』（「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」の合計）の割合は85.8%だった。

平成30年度調査からの推移をみると、令和3年度調査に比べて『読む、見る、聞く』の割合は3.0ポイント増加し、これまでで最も多い割合となった。

性別にみると、男性では「たまに読む、見る、聞く」（33.4%）が、女性では「必ず読む、見る、聞く」（35.2%）が最も多くなっている。

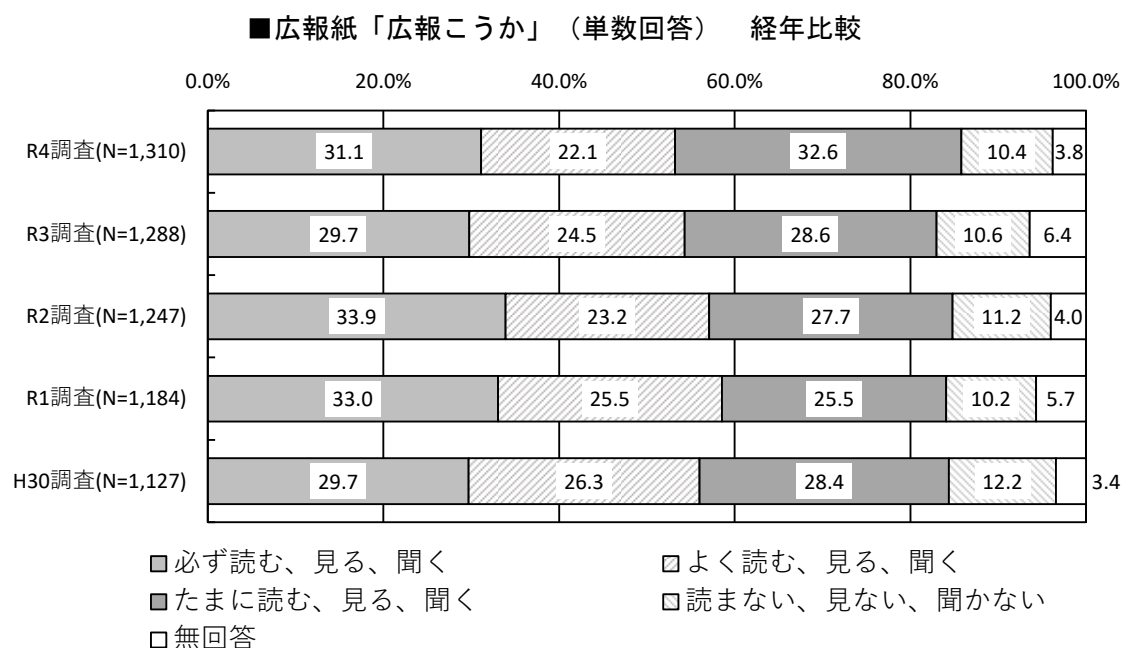
『読む、見る、聞く』の割合は、女性（87.1%）が2.4ポイント多い。

年代別にみると、50歳代以下では「たまに読む、見る、聞く」が、60歳代以上では「必ず読む、見る、聞く」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、60歳代（93.3%）で最も多く、20歳代以下（54.6%）で最も少ない。年代が低くなるほど「読まない、見ない、聞かない」が多い傾向にある。

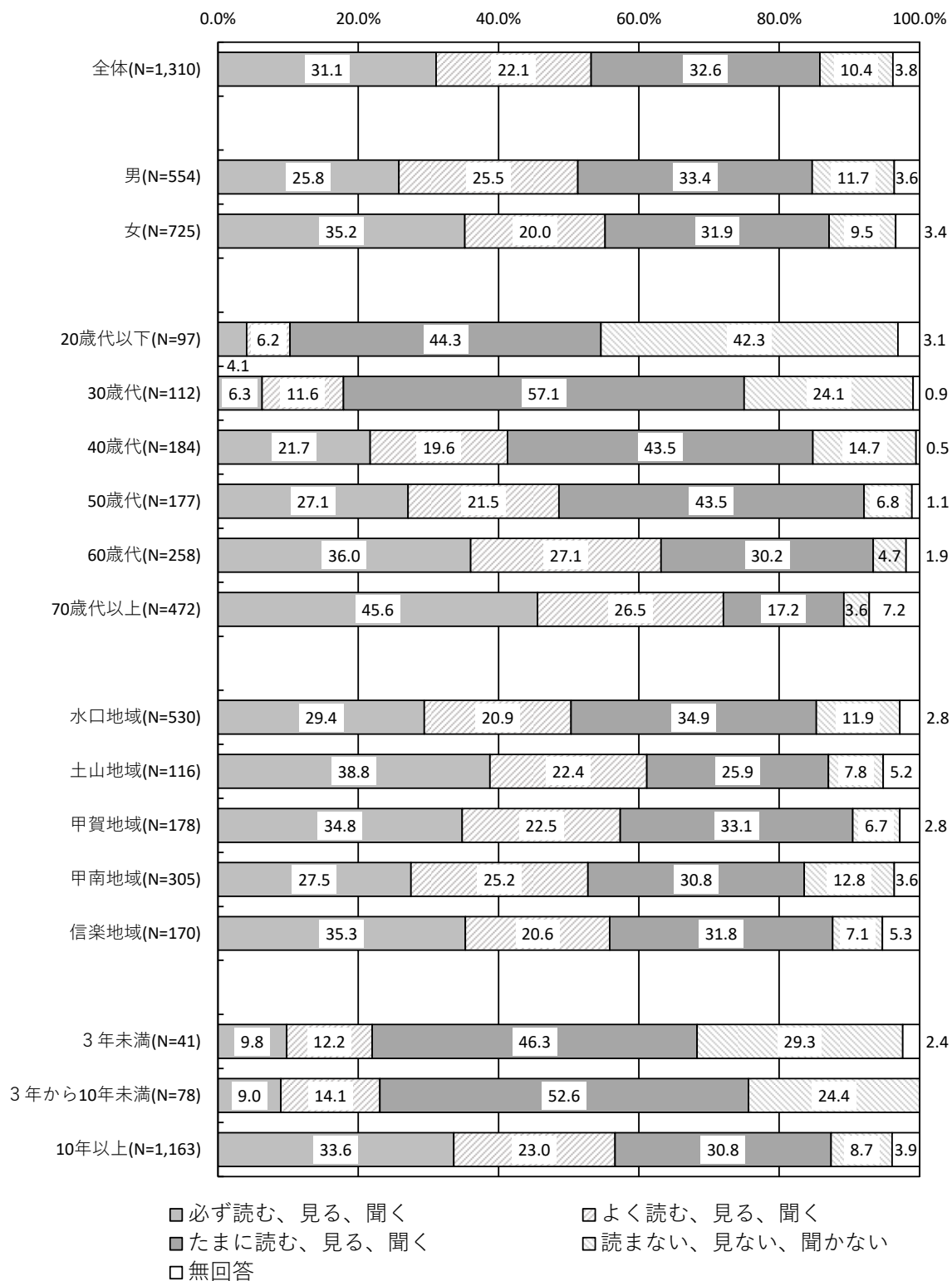
30歳代以下では、「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」の合計が2割未満で、40歳代以上に比べて極めて少ない。

居住地域別にみると、土山地域と甲賀地域、信楽地域では「必ず読む、見る、聞く」が、水口地域と甲南地域では「たまに読む、見る、聞く」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、甲賀地域（90.4%）で最も多く、甲南地域（83.5%）で最も少ない。

甲賀市の居住歴別にみると、10年未満では「たまに読む、見る、聞く」が、10年以上では「必ず読む、見る、聞く」（33.6%）が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、10年以上（87.4%）で最も多く、3年未満（68.3%）で最も少ない。居住歴が短いほど「読まない、見ない、聞かない」の割合が多い。



■広報紙「広報こうか」（単数回答）



② 甲賀市ホームページ

甲賀市ホームページは、「読まない、見ない、聞かない」（40.2%）が最も多く、順に「たまに読む、見る、聞く」（36.0%）、「よく読む、見る、聞く」（9.2%）、「必ず読む、見る、聞く」（3.8%）となっている。『読む、見る、聞く』（「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」の合計）の割合は49.0%だった。

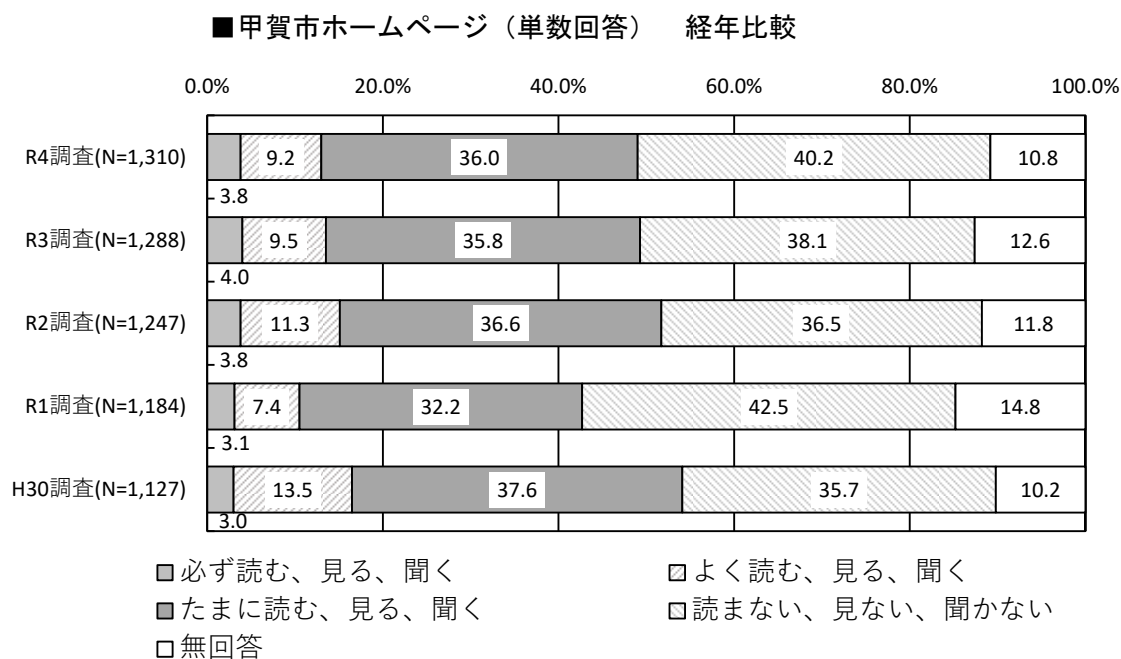
平成30年度調査からの推移をみると、令和2年度調査から『読む、見る、聞く』の割合が、若干少なくなっている傾向がある。

性別にみると、男性、女性とも、全体とほぼ同様の割合となっており、『読む、見る、聞く』の割合は約5割、「読まない、見ない、聞かない」の割合が約4割となっている。

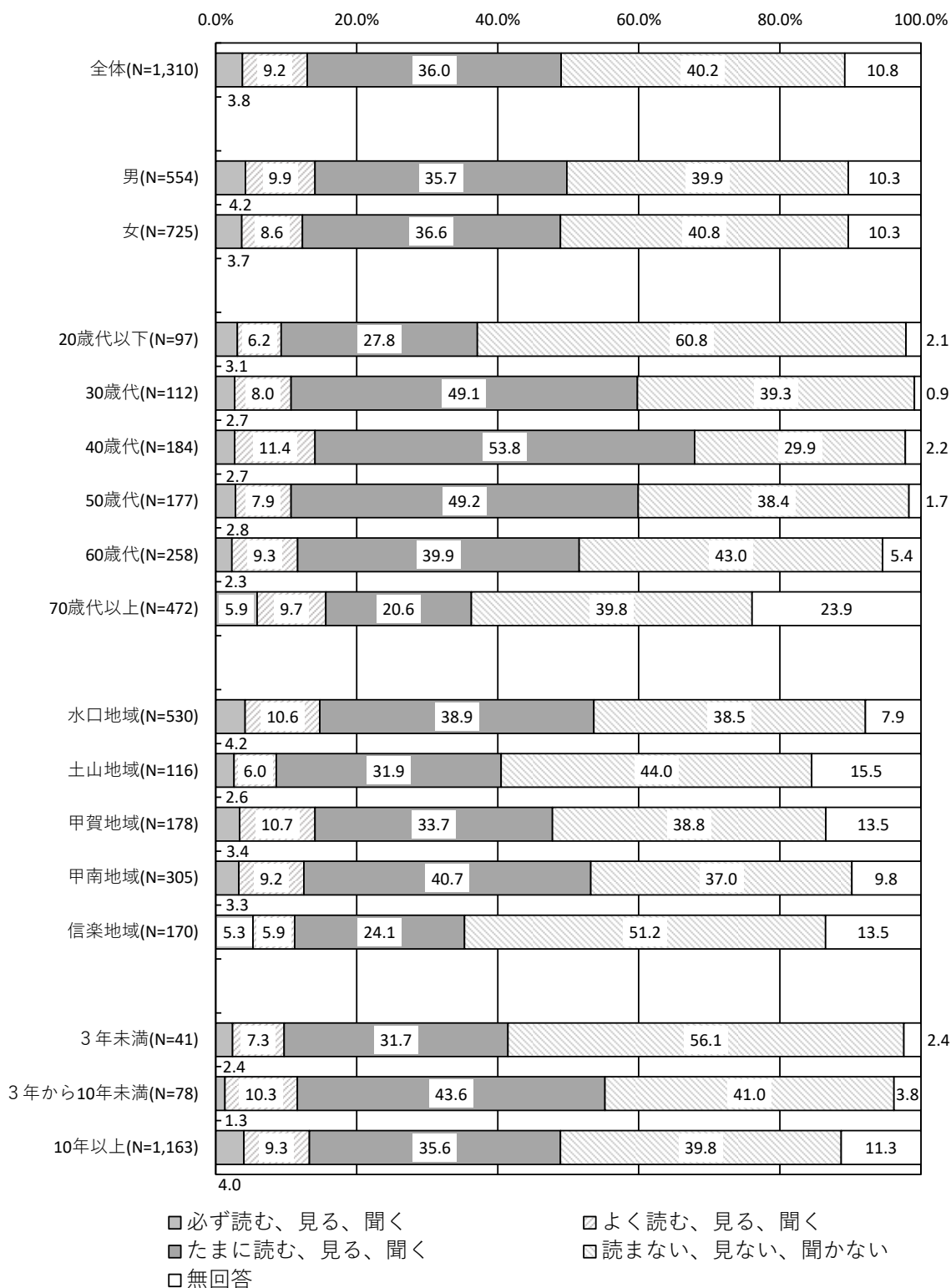
年代別にみると、20歳代以下と60歳代以上では「読まない、見ない、聞かない」が、30～50歳代では「たまに読む、見る、聞く」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、40歳代（67.9%）で最も多く、70歳代以上（36.2%）で最も少ない。

居住地域別にみると、土山地域と甲賀地域、信楽地域では「読まない、見ない、聞かない」が、他の地域では「たまに読む、見る、聞く」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、水口地域（53.7%）で最も多く、信楽地域（35.3%）で最も少ない。

甲賀市の居住歴別にみると、3年未満と10年以上では「読まない、見ない、聞かない」が、3年から10年未満では「たまに読む、見る、聞く」（43.6%）が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、3年から10年未満（55.2%）で最も多く、3年未満（41.4%）で最も少ない。



■甲賀市ホームページ（単数回答）



③ 甲賀市 LINE

甲賀市 LINE は、「読まない、見ない、聞かない」（62.1%）が最も多く、順に「たまに読む、見る、聞く」（11.2%）、「よく読む、見る、聞く」（8.3%）、「必ず読む、見る、聞く」（6.7%）となっている。『読む、見る、聞く』（「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」の合計）の割合は 26.2%だった。

令和3年度調査と比較すると、『読む、見る、聞く』の割合が 4.2 ポイント増加した。

性別にみると、男性、女性ともに「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、女性（29.3%）が 6.5 ポイント多い。

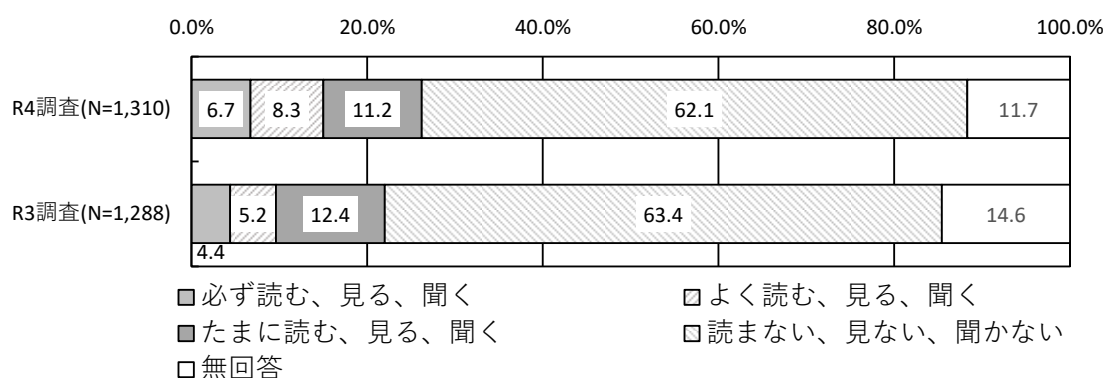
年代別にみると、すべての年代で「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、50 歳代（35.6%）で最も多く、70 歳代以上（19.3%）で最も少ない。

70 歳代以上では、「無回答」（26.3%）の割合が他の年代と比べて突出して多い。

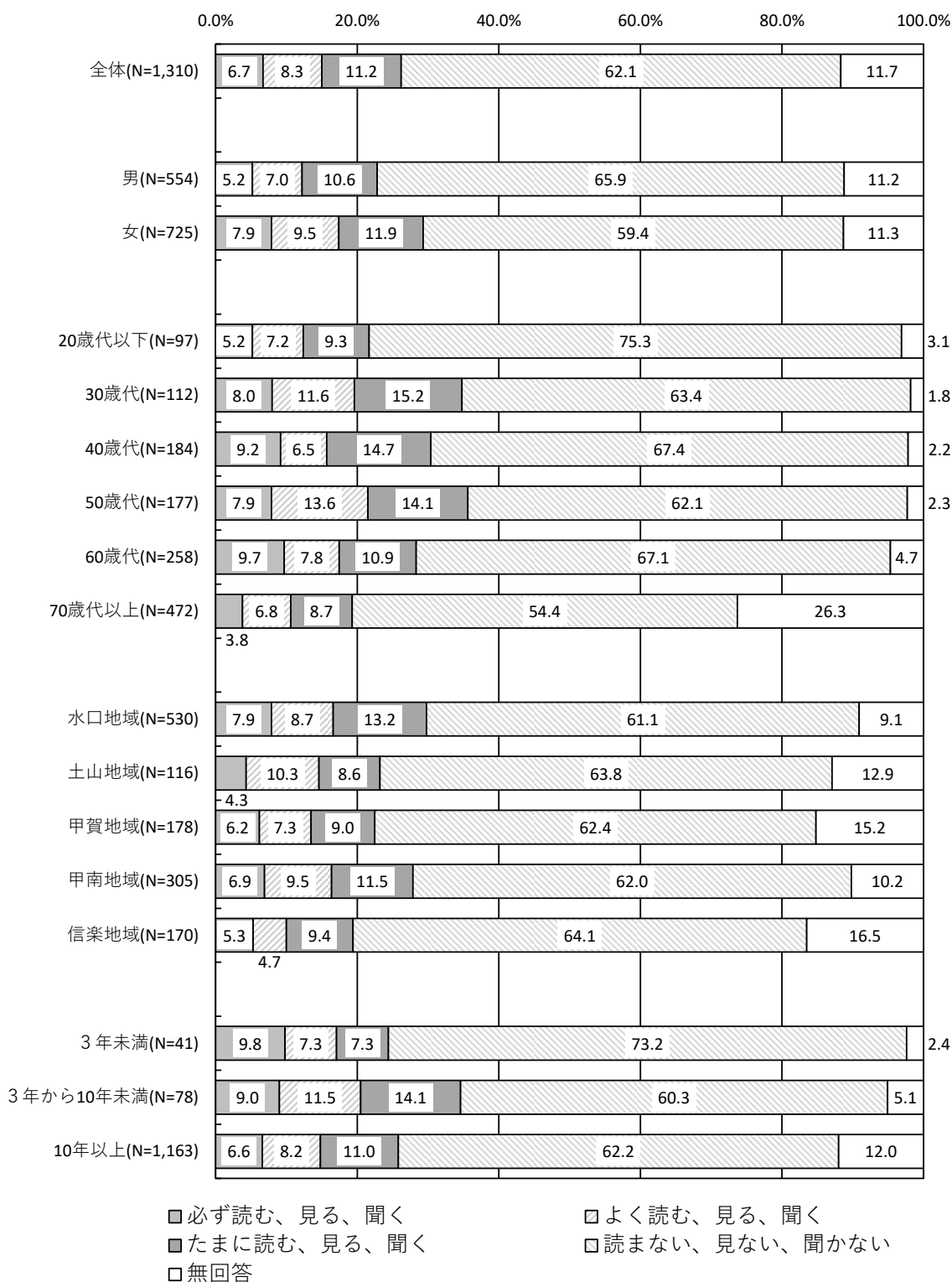
居住地域別にみると、すべての地域で「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、水口地域（29.8%）で最も多く、信楽地域（19.4%）で最も少ない。

甲賀市の居住歴別にみると、すべての居住歴で「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、3 年から 10 年未満 10 年以上（34.6%）で最も多く、3 年未満（24.4%）で最も少ない。

■甲賀市 LINE（単数回答） 経年比較



■甲賀市 LINE（単数回答）



④ 甲賀市フェイスブック

甲賀市フェイスブックは、「読まない、見ない、聞かない」（75.8%）が最も多く、順に「たまに読む、見る、聞く」（8.5%）、「よく読む、見る、聞く」（2.4%）、「必ず読む、見る、聞く」（1.1%）となっている。『読む、見る、聞く』（「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」の合計）の割合は12.0%だった。

平成30年度調査からの推移をみると、令和3年度調査に比べて「読まない、見ない、聞かない」が3.6ポイント増加し、平成30年度以降で最も多い結果となった。

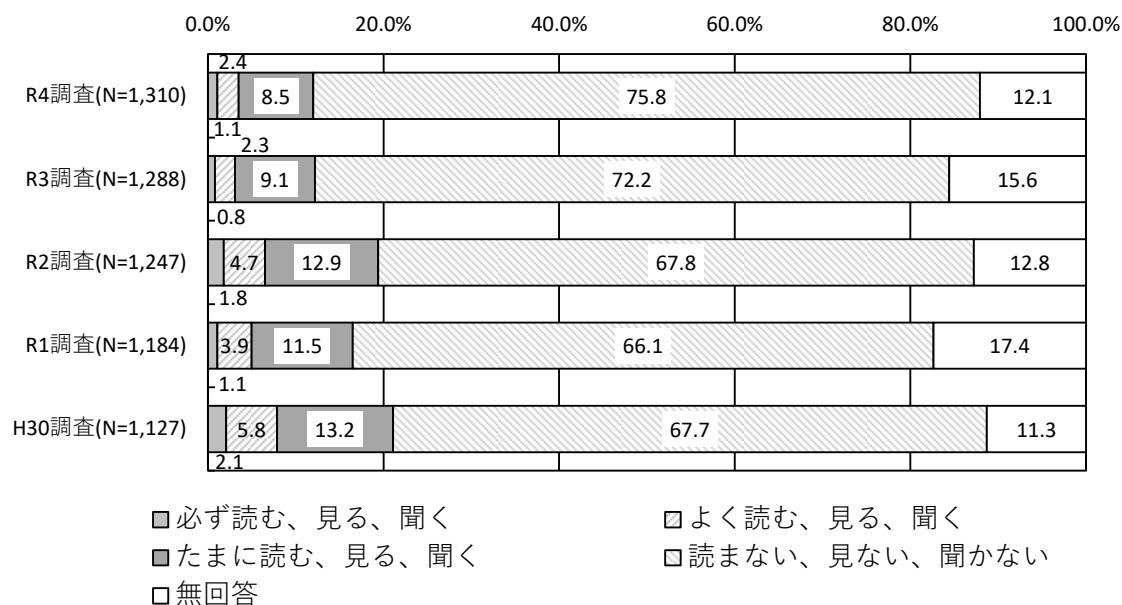
性別にみると、男性、女性とも、全体とほぼ同様の割合となっている。

年代別にみると、「読まない、見ない、聞かない」の割合は、20歳代以下（89.7%）で最も多く、70歳代以上（54.9%）で最も少ない。一方、70歳代以上では「無回答」（26.5%）の割合が他の年代と比べて突出して多い。

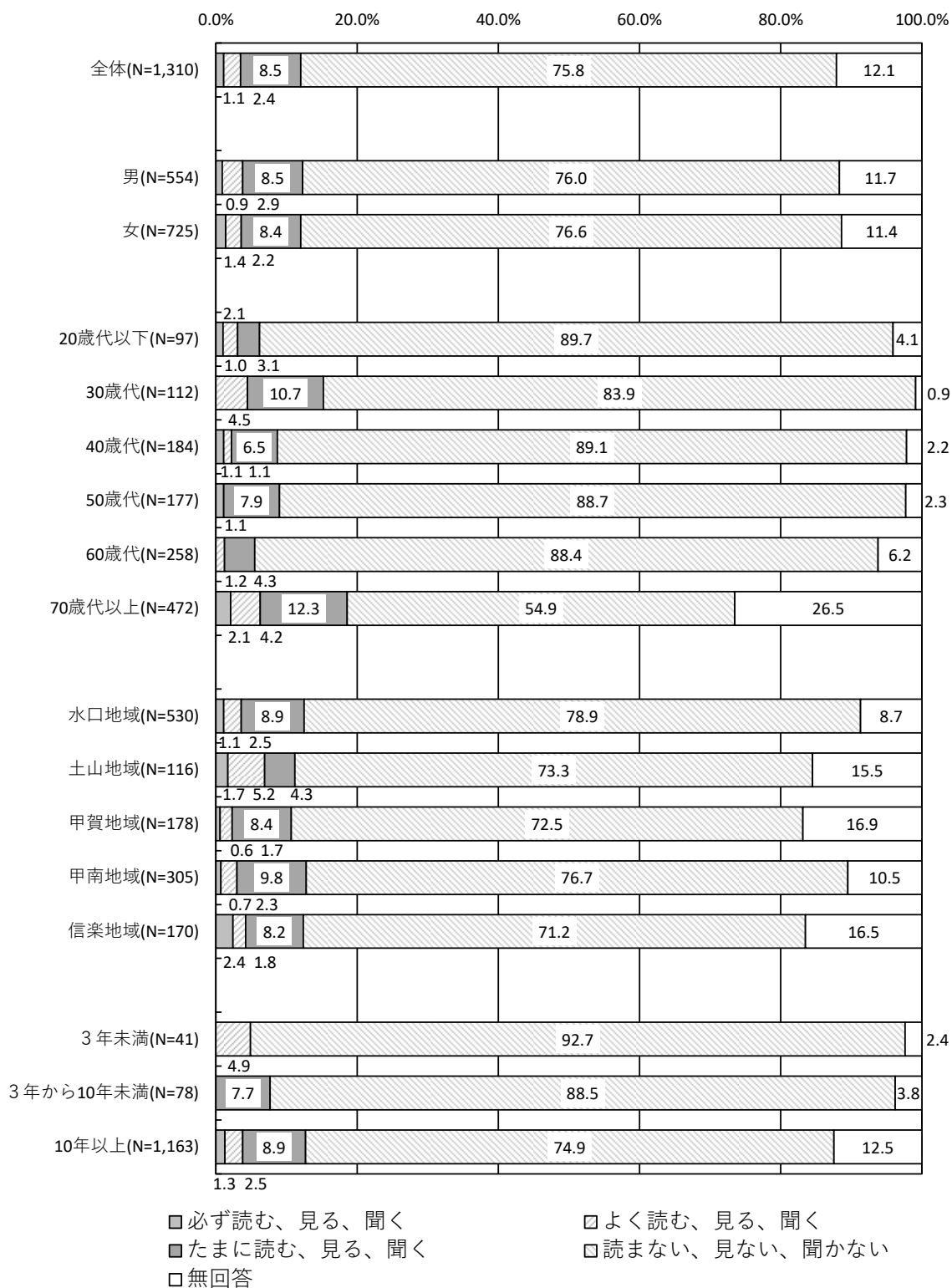
居住地域別にみると、「読まない、見ない、聞かない」の割合は、水口地域（78.9%）で最も多く、信楽地域（71.2%）で最も少ないが、地域間の大きな差はない。

甲賀市の居住歴別にみると、「読まない、見ない、聞かない」の割合は、3年未満（92.7%）で最も多く、10年以上（74.9%）で最も少ない。

■甲賀市フェイスブック（単数回答） 経年比較



■甲賀市フェイスブック（単数回答）



⑤ 行政情報番組「きらめきこうか」（あいコムこうか）

行政情報番組「きらめきこうか」（あいコムこうか）は、「読まない、見ない、聞かない」（49.8%）が最も多く、順に「たまに読む、見る、聞く」（26.1%）、「よく読む、見る、聞く」（10.2%）、「必ず読む、見る、聞く」（5.4%）となっている。『読む、見る、聞く』（「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」の合計）の割合は41.7%だった。

平成30年度調査からの推移をみると、「必ず読む、見る、聞く」の割合がわずかながら増加している傾向がうかがえる。

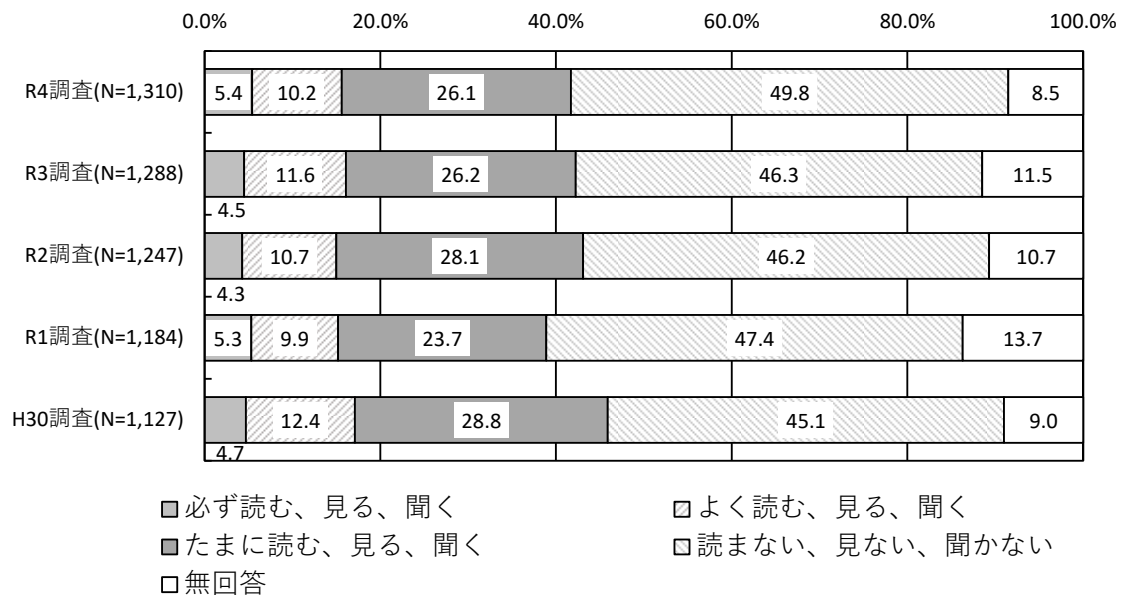
性別にみると、男性、女性とも、全体とほぼ同様の割合となっている。

年代別にみると、すべての年代で「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、70歳代以上（53.6%）で最も多く、20歳代以下（23.7%）で最も少ない。年代が高くなるほど『読む、見る、聞く』の割合が多い。

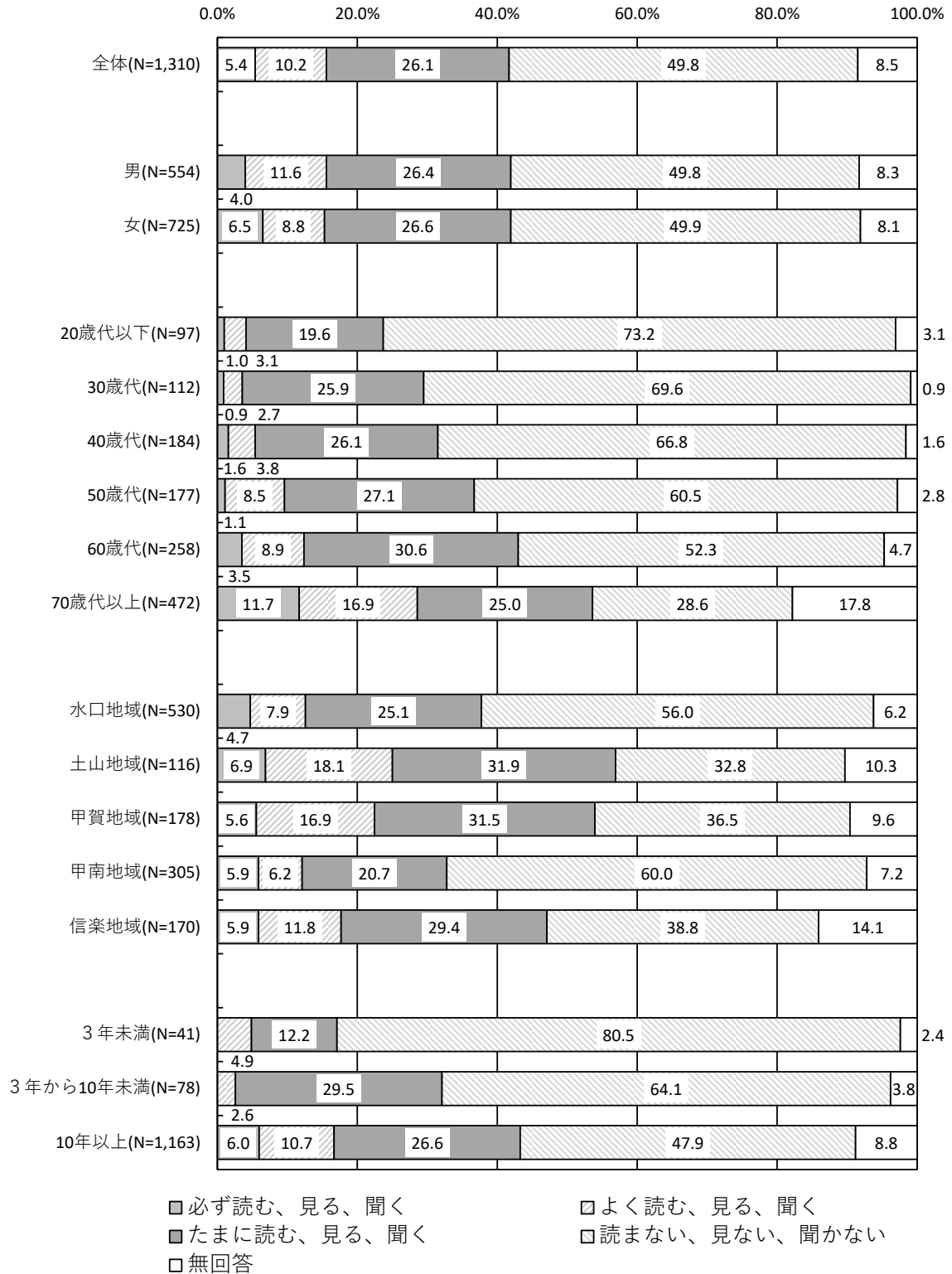
居住地域別にみると、すべての地域で「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、土山地域（56.9%）で最も多く、甲南地域（32.8%）で最も少ない。

甲賀市の居住歴別にみると、すべての居住歴で「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、10年以上（43.3%）で最も多く、3年未満（17.1%）で最も少ない。居住歴が長いほど『読む、見る、聞く』の割合が多い。

■行政情報番組「きらめきこうか」（あいコムこうか）（単数回答） 経年比較



■行政情報番組「きらめきこうか」（あいコムこうか）（単数回答）



⑥ 市議会だより

市議会だよりは、「たまに読む、見る、聞く」（35.1%）が最も多く、順に「読まない、見ない、聞かない」（35.0%）、「よく読む、見る、聞く」（13.0%）、「必ず読む、見る、聞く」（10.3%）となっている。『読む、見る、聞く』（「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」の合計）の割合は58.4%だった。

平成30年度調査からの推移をみると、令和3年度調査に比べて『読む、見る、聞く』の割合が3.6ポイント増加した。

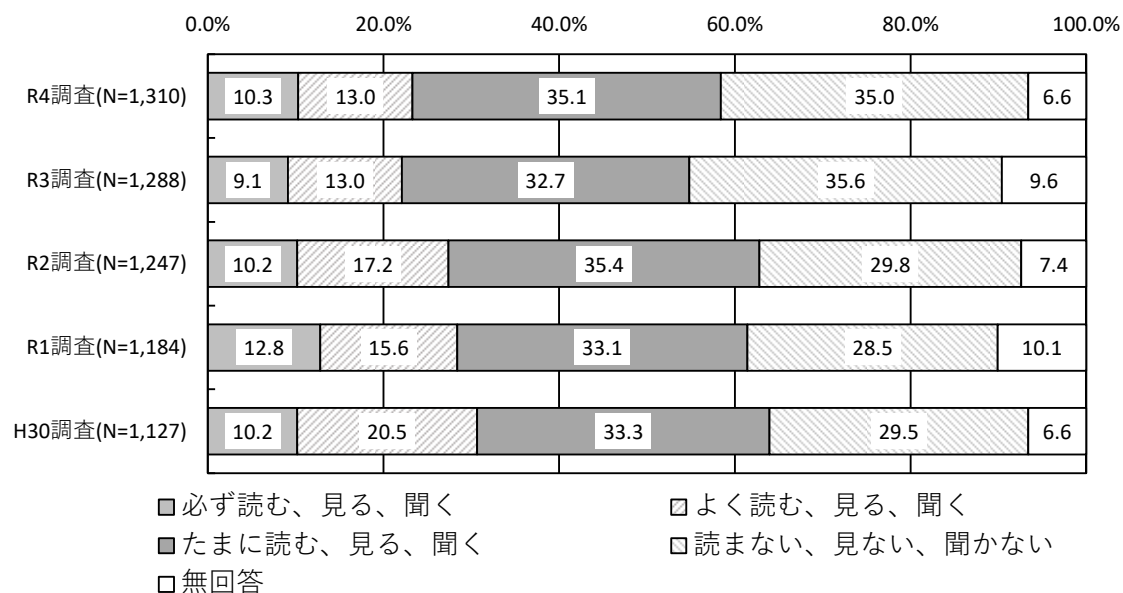
性別にみると、男性、女性とも、全体とほぼ同様の割合となっている。

年代別にみると、40歳代以下では「読まない、見ない、聞かない」が、50歳代以上では「たまに読む、見る、聞く」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、70歳代以上（71.0%）で最も多く、20歳代以下（19.6%）で最も少ない。年代が高くなるほど『読む、見る、聞く』が多い。

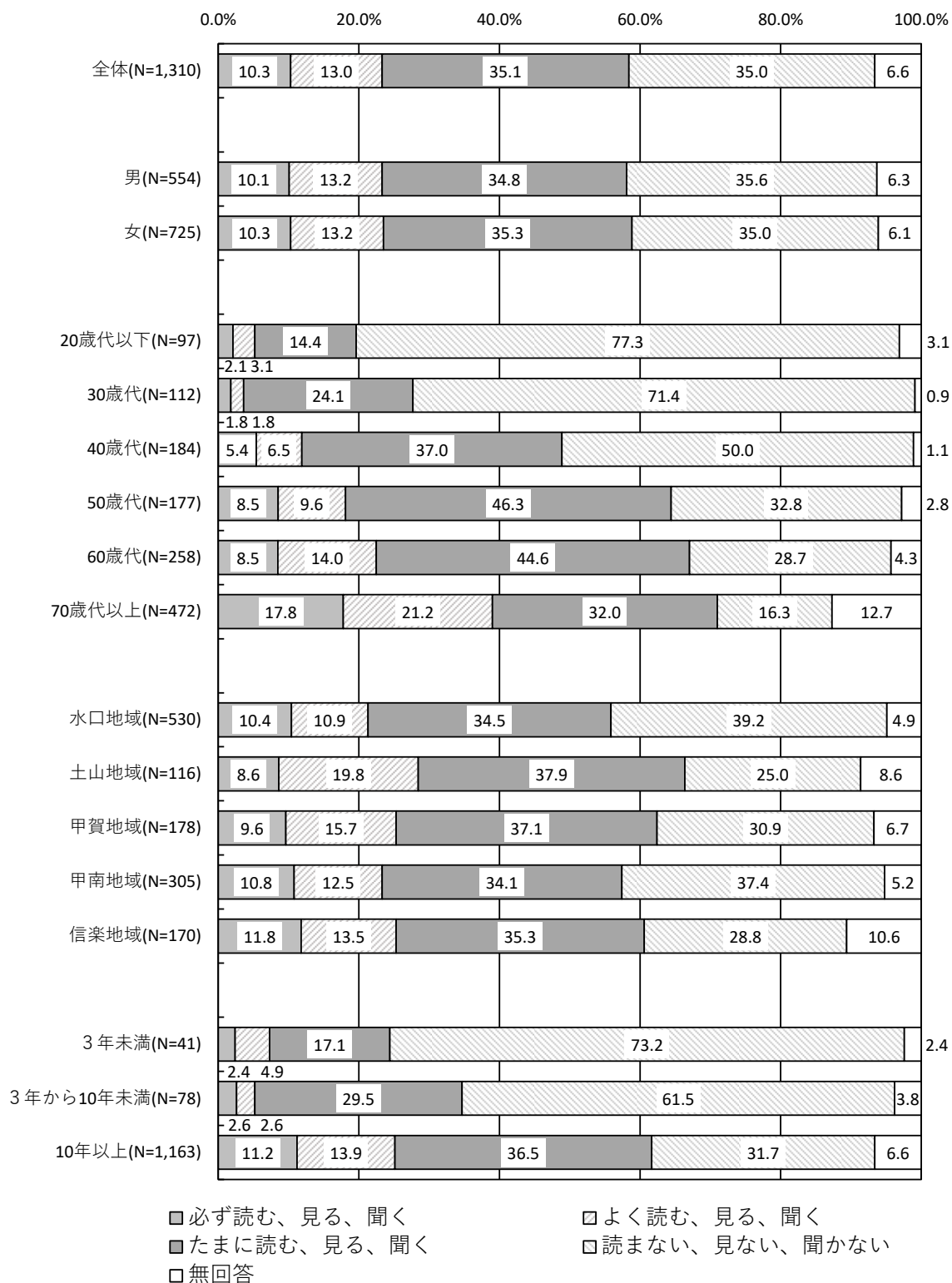
居住地域別にみると、水口地域と甲南地域では「読まない、見ない、聞かない」が、他の地域では「たまに読む、見る、聞く」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、土山地域（66.3%）で最も多く、水口地域（55.8%）で最も少ない。

甲賀市の居住歴別にみると、10年未満では「読まない、見ない、聞かない」が、10年以上では「たまに読む、見る、聞く」（36.5%）が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、10年以上（61.6%）で最も多く、3年未満（24.4%）で最も少ない。居住歴が長いほど『読む、見る、聞く』の割合が多い。

■市議会だより（単数回答） 経年比較



■市議会だより（単数回答）



⑦ 市議会ホームページ

市議会ホームページは、「読まない、見ない、聞かない」（74.5%）が最も多く、順に「たまに読む、見る、聞く」（11.0%）、「よく読む、見る、聞く」（2.4%）、「必ず読む、見る、聞く」（1.2%）となっている。『読む、見る、聞く』（「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」の合計）の割合は14.6%だった。

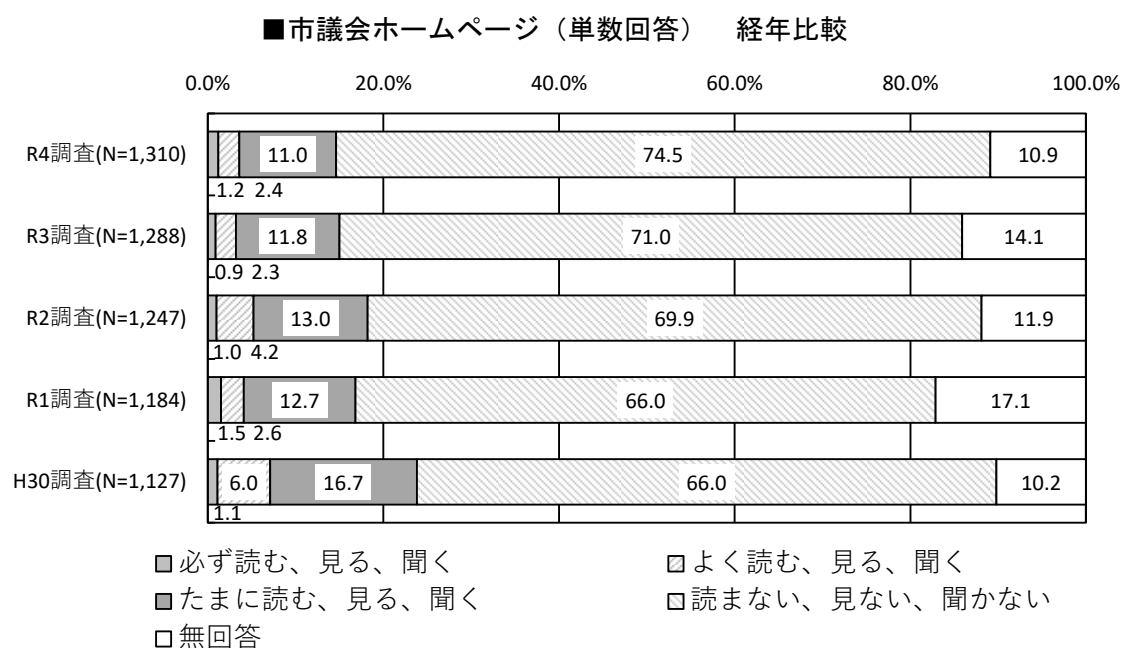
平成30年度調査からの推移をみると、令和3年度調査に比べて「読まない、見ない、聞かない」が3.5ポイント増加した。

性別にみると、『読む、見る、聞く』の割合は、男性（18.6%）が7.6ポイント多い。

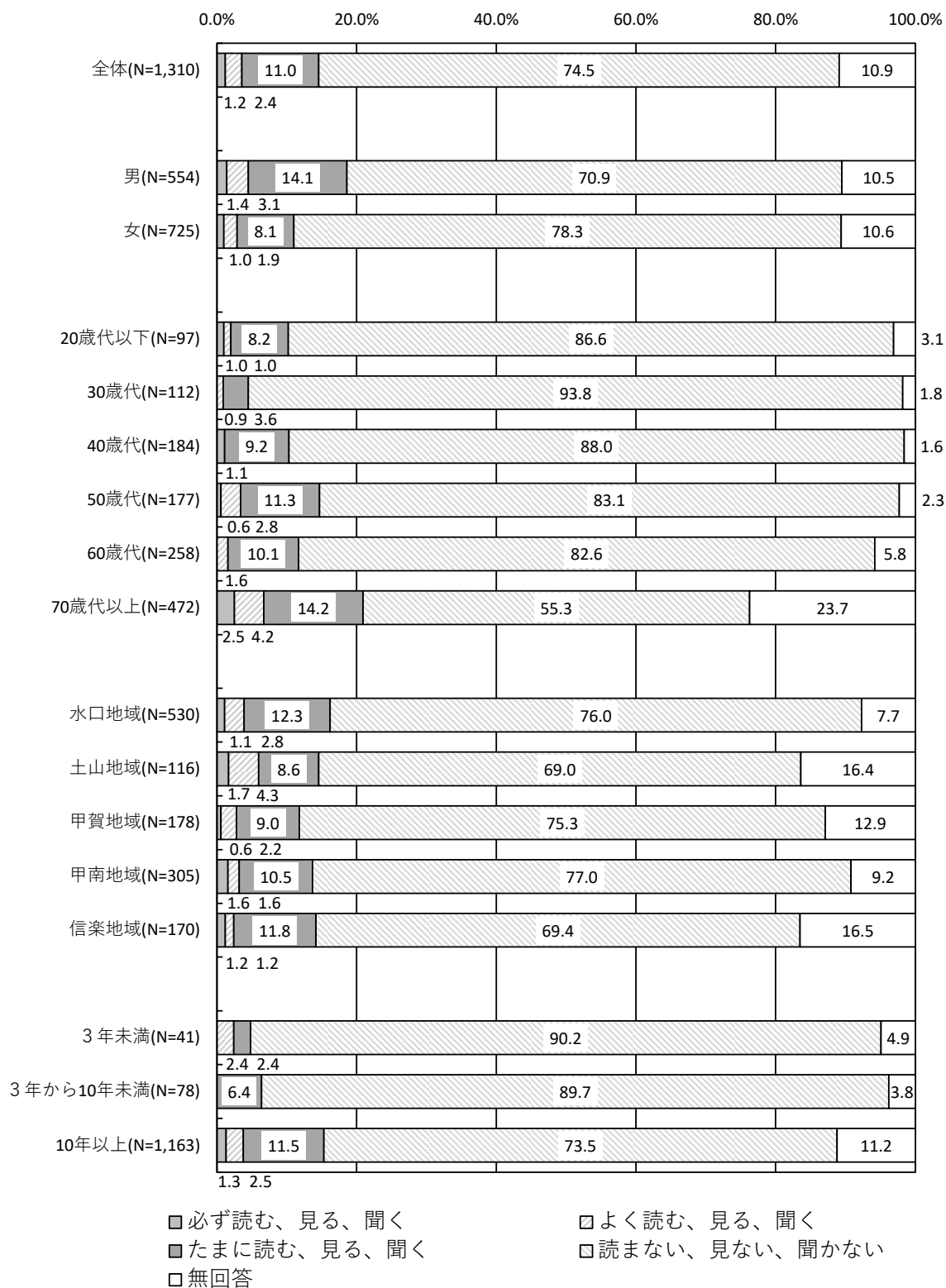
年代別にみると、「読まない、見ない、聞かない」の割合は、30歳代（93.8%）で最も多く、70歳代以上（55.3%）で最も少ない。一方、70歳代以上では「無回答」（23.7%）の割合が他の年代と比べて多く、LINEやフェイスブックと同様な傾向がうかがえる。

居住地域別にみると、「読まない、見ない、聞かない」の割合は、甲南地域（77.0%）で最も多く、土山地域（69.0%）で最も少ないが、地域間の大きな差はない。

甲賀市の居住歴別にみると、「読まない、見ない、聞かない」の割合は、3年未満（90.2%）で最も多く、10年以上（73.5%）で最も少ない。



■市議会ホームページ（単数回答）



⑧ 市議会中継・録画（あいコムこうか）

市議会中継・録画（あいコムこうか）は、「読まない、見ない、聞かない」（78.1%）が最も多く、順に「たまに読む、見る、聞く」（9.2%）、「よく読む、見る、聞く」（1.8%）、「必ず読む、見る、聞く」（1.0%）となっている。『読む、見る、聞く』（「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」の合計）の割合は12.0%だった。

平成30年度調査からの推移をみると、『読む、見る、聞く』の割合が減少傾向にある。

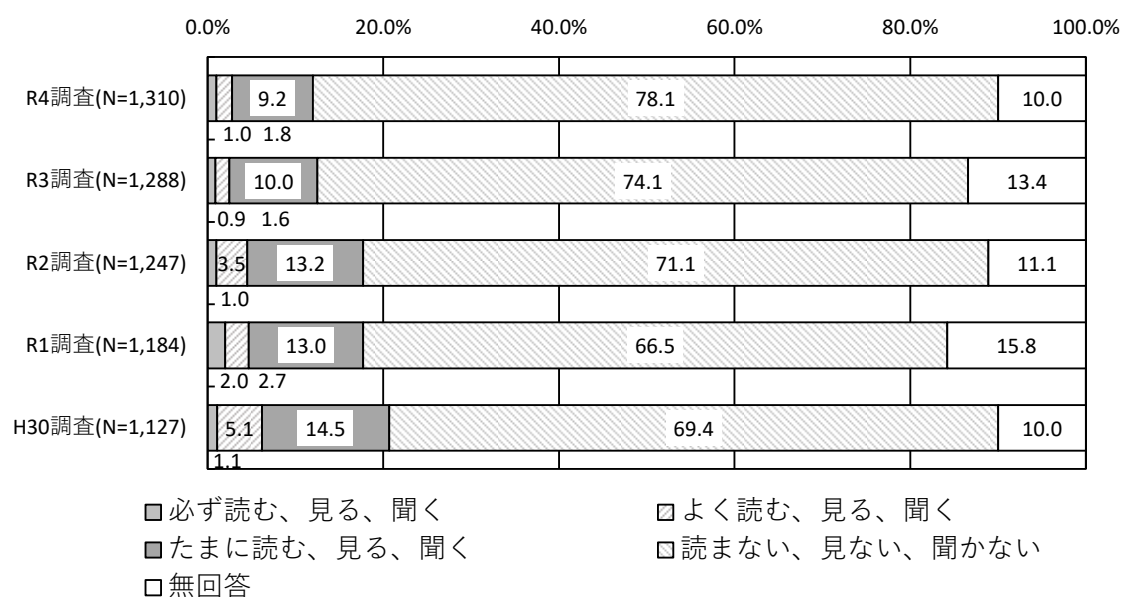
性別にみると、『読む、見る、聞く』の割合は、男性（13.7%）で3.6ポイント多い。

年代別にみると、『読む、見る、聞く』の割合は、70歳代以上（20.2%）で最も多く、30歳代（3.6%）で最も少ない。70歳代以上の『読む、見る、聞く』の割合は、他の世代よりやや突出している。

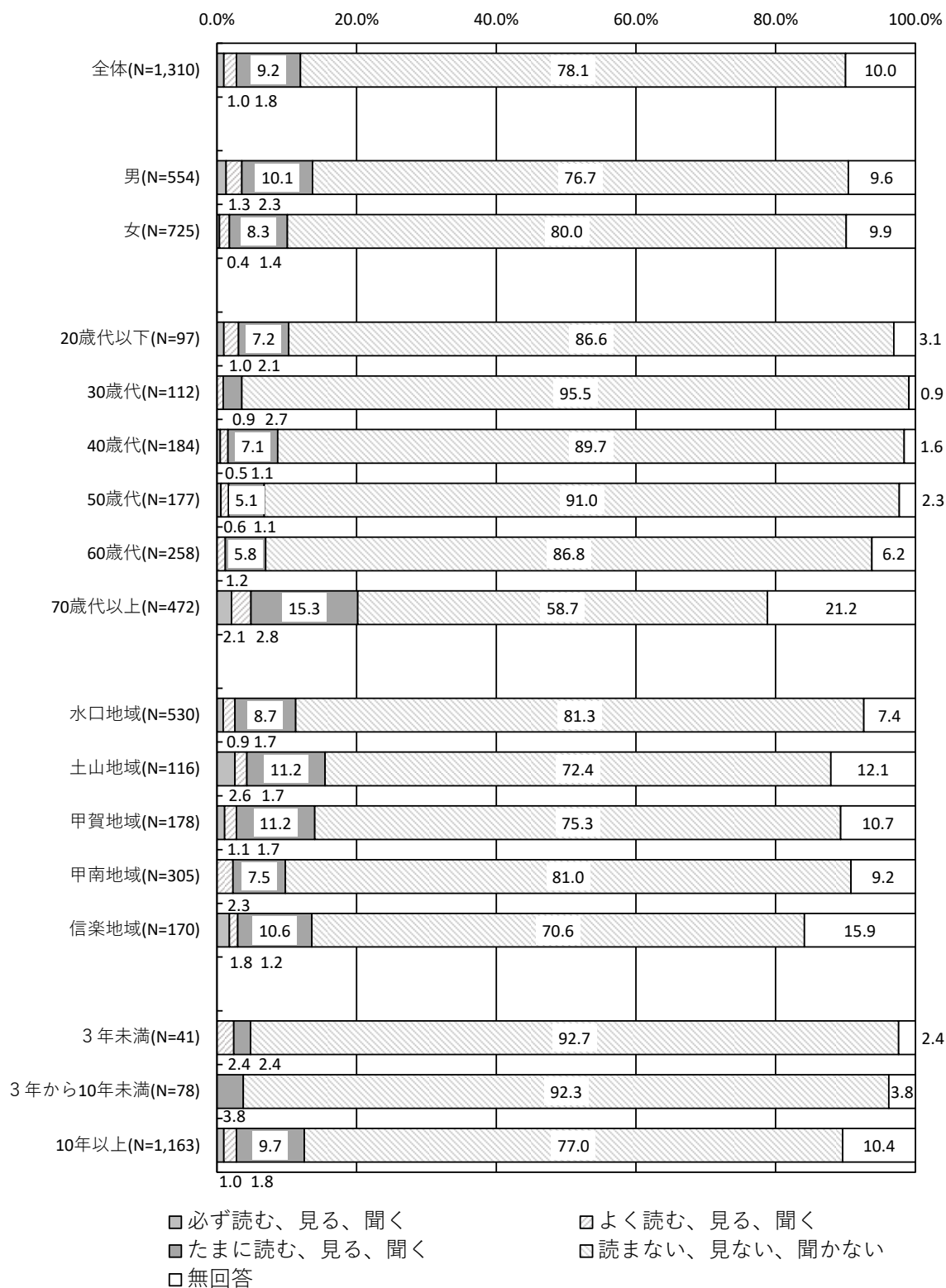
居住地域別にみると、『読む、見る、聞く』の割合は、土山地域（15.5%）で最も多く、甲南地域（9.8%）で最も少ない。

甲賀市の居住歴別にみると、『読む、見る、聞く』の割合は、10年以上（12.5%）で最も多く、3年から10年未満（3.8%）で最も少ない。

■市議会中継・録画（あいコムこうか）（単数回答） 経年比較



■市議会中継・録画（あいコムこうか）（単数回答）



⑨ 市議会インターネット中継・録画

市議会インターネット中継・録画は、「読まない、見ない、聞かない」（82.3%）が最も多く、順に「たまに読む、見る、聞く」（5.6%）、「よく読む、見る、聞く」（1.1%）、「必ず読む、見る、聞く」（0.5%）となっている。『読む、見る、聞く』（「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」の合計）の割合は7.2%だった。

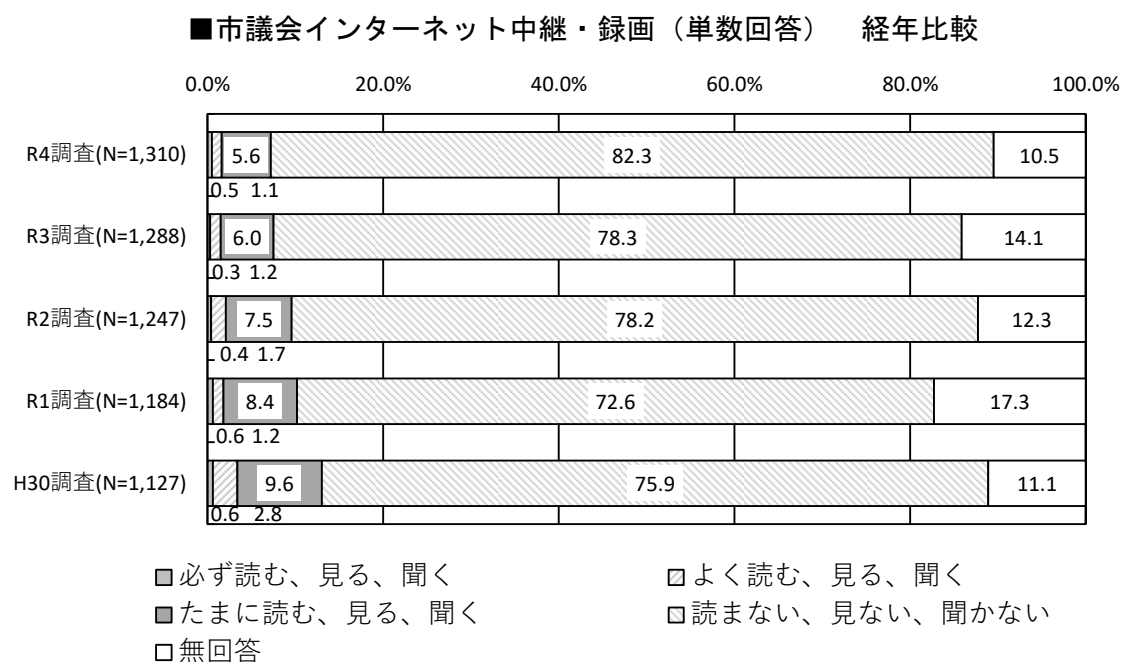
平成30年度調査からの推移をみると、『読む、見る、聞く』の割合が減少傾向にある。

性別にみると、『読む、見る、聞く』の割合は、男性（9.2%）が3.7ポイント多い。

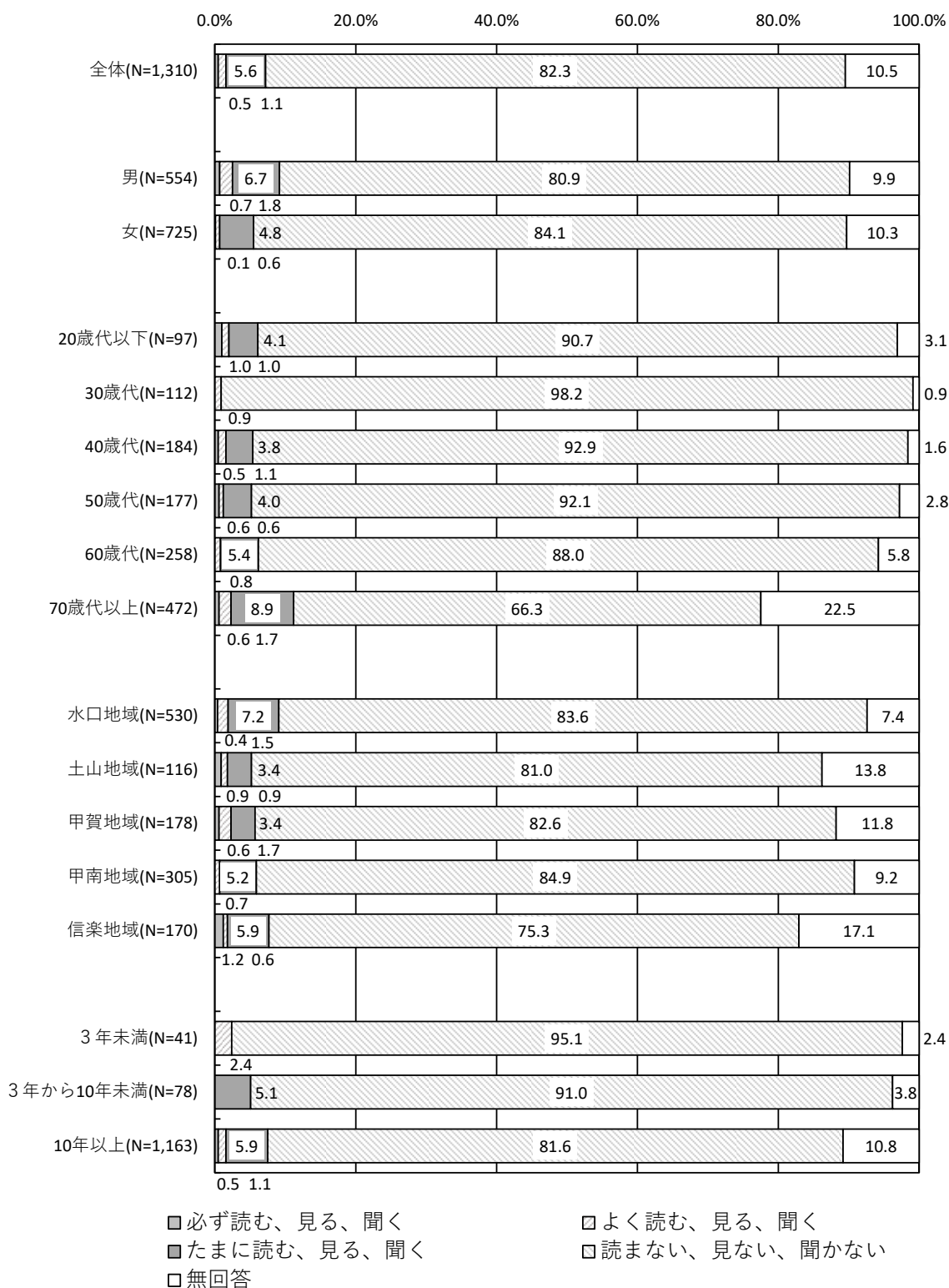
年代別にみると、『読む、見る、聞く』の割合は、70歳代以上（11.2%）で最も多く、30歳代（0.9%）で最も少ない。

居住地域別にみると、『読む、見る、聞く』の割合は、水口地域（9.1%）で最も多く、土山地域（5.2%）で最も少ないが、地域間の大きな差はない。

甲賀市の居住歴別にみると、『読む、見る、聞く』の割合は、10年以上（7.5%）で最も多く、3年未満（2.4%）で最も少ない。



■市議会インターネット中継・録画（単数回答）



⑩ 区・自治会等を通じた各戸配布や回覧（文書、チラシ、ポスターなど）

区・自治会等を通じた各戸配布や回覧（文書、チラシ、ポスターなど）は、「必ず読む、見る、聞く」（31.4%）が最も多く、順に「たまに読む、見る、聞く」（25.0%）、「よく読む、見る、聞く」（24.5%）、「読まない、見ない、聞かない」（14.4%）となっている。

『読む、見る、聞く』（「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」の合計）の割合は80.9%だった。

平成30年度調査からの推移をみると、『読む、見る、聞く』の割合が増加傾向にある。

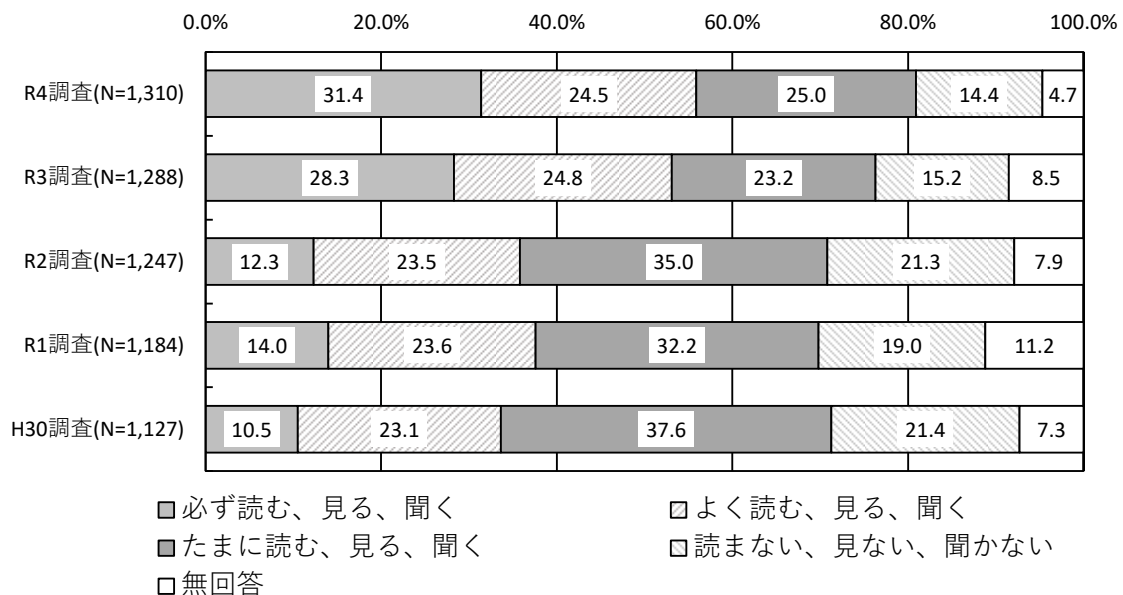
性別にみると、男性では「よく読む、見る、聞く」（27.1%）が、女性では「必ず読む、見る、聞く」（35.6%）が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、女性（82.5%）が3.0ポイント多い。

年代別にみると、20歳代以下では「読まない、見ない、聞かない」（52.6%）が、30歳代と40歳代では「たまに読む、見る、聞く」が、50歳代では「よく読む、見る、聞く」（28.2%）が、60歳代以上では「必ず読む、見る、聞く」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、60歳代（89.1%）で最も多く、20歳代（44.4%）で最も少ない。年代が高くなるほど「必ず読む、見る、聞く」の割合が多く、「読まない、見ない、聞かない」の割合が少ない。

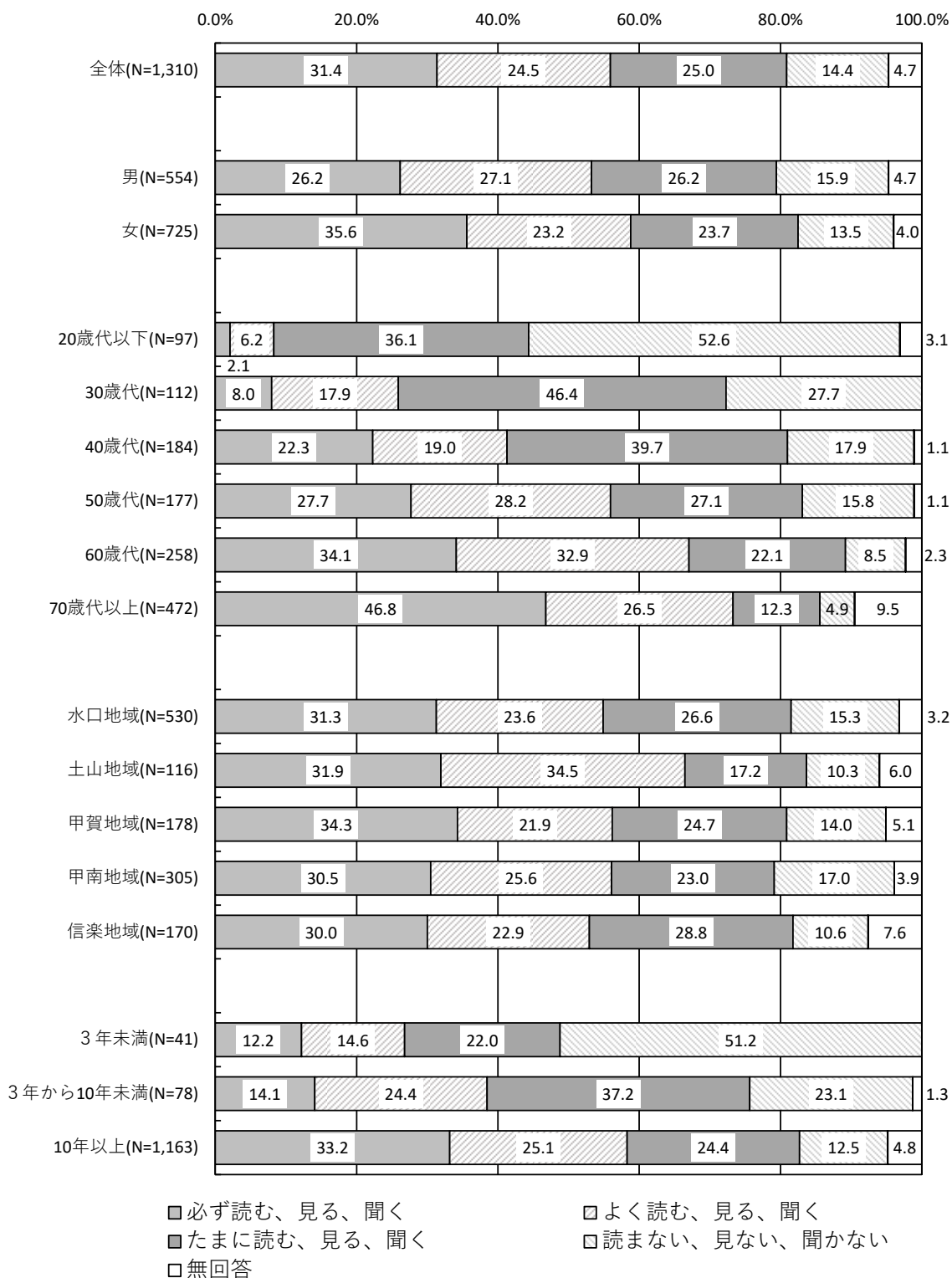
居住地域別にみると、土山地域では「よく読む、見る、聞く」（34.5%）が、その他の地域では「必ず読む、見る、聞く」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、土山地域（83.6%）で最も多く、甲南地域（79.1%）で最も少ない。

甲賀市の居住歴別にみると、10年以上では「必ず読む、見る、聞く」（33.2%）が、3年から10年未満では「たまに読む、見る、聞く」（37.2%）が、3年未満では「読まない、見ない、聞かない」（51.2%）が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合は、10年以上（82.7%）で最も多く、3年未満（48.8%）で最も少ない。居住歴が長いほど「必ず読む、見る、聞く」の割合が多い。

■ 区・自治会等を通じた各戸配布や回覧（文書、チラシ、ポスターなど）（単数回答） 経年比較



■区・自治会等を通じた各戸配布や回覧（文書、チラシ、ポスターなど）（単数回答）



4. 障がい福祉について

(1) 「甲賀市手話言語及び情報・コミュニケーション促進条例」の認知度

問 24 「甲賀市手話言語及び情報・コミュニケーション促進条例」をご存じですか。
(○は1つ)

「甲賀市手話言語及び情報・コミュニケーション促進条例」の認知度は、「聞いたことがない」(63.2%)が最も多く、順に「名前だけ知っている」(16.6%)、「少し知っている」(16.3%)、「詳しく知っている」(1.3%)となっている。『知っている』(「詳しく知っている」と「少し知っている」、「名前だけ知っている」の合計)の割合は34.2%だった。

性別にみると、男性、女性とも、全体とほぼ同様の割合となっている。

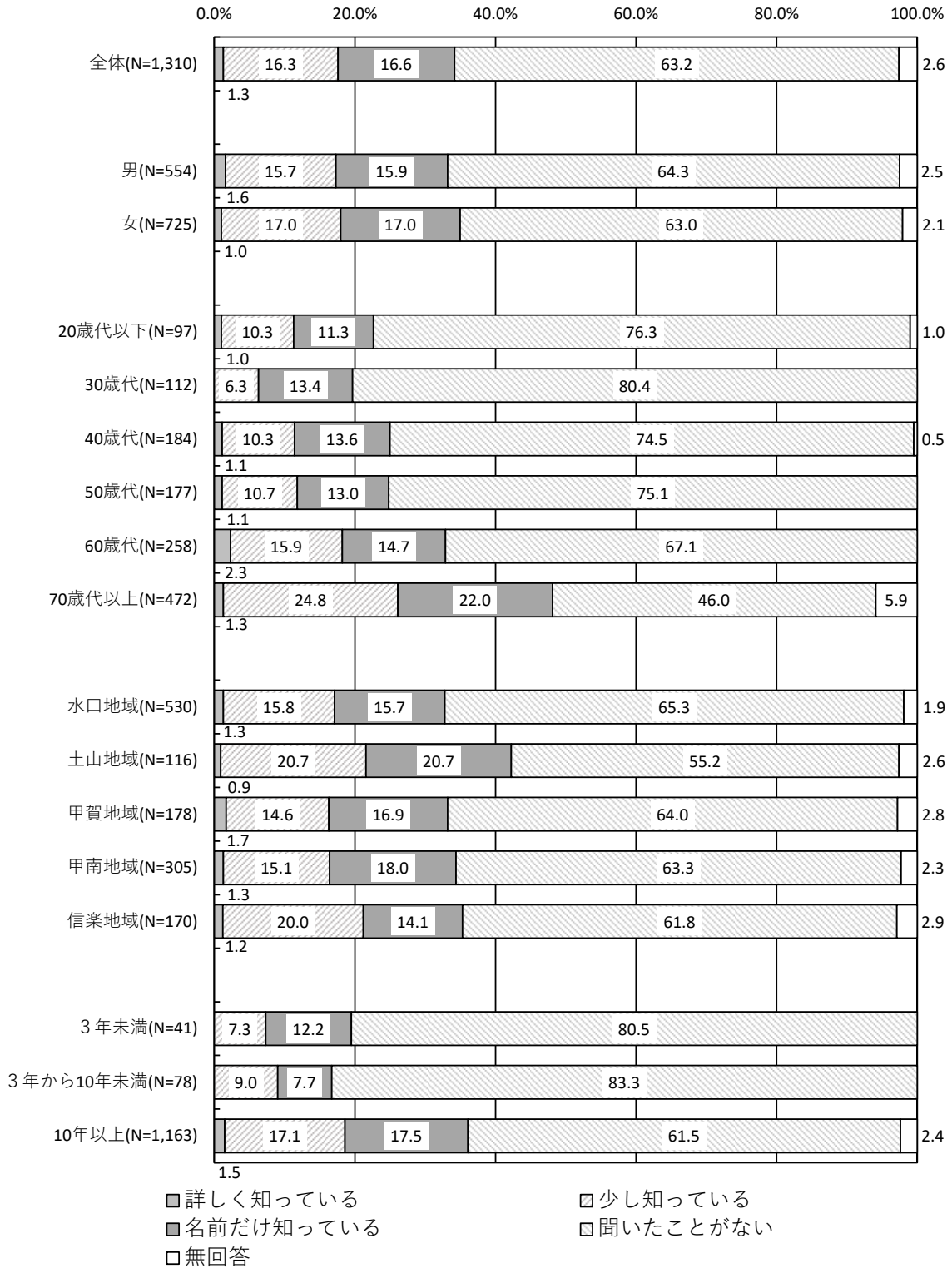
年代別にみると、すべての年代で「聞いたことがない」が最も多くなっている。『知っている』の割合は、70歳代以上(48.1%)が最も多く、30歳代(19.7%)が最も少ない。年代が下がるに従って認知度が低くなる傾向がある。

居住地域別にみると、すべての地域で「聞いたことがない」が最も多くなっている。『知っている』の割合は、土山地域(42.3%)が最も多く、水口地域(32.8%)が最も少ない。

甲賀市の居住歴別にみると、すべての地域で「聞いたことがない」が最も多くなっている。『知っている』の割合は、10年以上(36.1%)が最も多く、3年から10年未満(16.7%)が最も少ない。

「甲賀市手話言語及び情報・コミュニケーション促進条例」の認知度を高める啓発が必要である。

■「甲賀市手話言語及び情報・コミュニケーション促進条例」の認知度（単数回答）



(2) 障がい者施策を進めていくために充実させていくべきこと

問 25 今後、障がい者施策を進めていくにあたって、市はどのようなことを充実させていけばよいと思いますか。（〇はいくつでも）

障がい者施策を進めていくために充実させていくべきことについては、「働く場の確保や就労定着の支援」（49.6%）が最も多く、次いで「障がいのある方への理解を深める教育や広報活動の充実」（43.1%）、「段差解消などのバリアフリー化やユニバーサルデザインの推進」（36.3%）、「障がい児保育、障がい児教育の充実」（34.0%）、「相談窓口の充実」（33.0%）となっている。なお、「特になし」は2.7%だった。

性別にみると、「公共交通を利用した移動手段の充実」については男性が、その他の障がい者施策のほとんどについては女性が多くなっている

年代別にみると、70歳代以上を除く年代で「働く場の確保や就労定着の支援」が半数以上の割合になっている。20歳代以下では、「ホームヘルプなど在宅生活支援サービスの充実」（14.4%）、「相談窓口の充実」（22.7%）、「災害や緊急時の支援体制の整備」（19.6%）が全体と比べて少なく、30歳代では、「障がい児保育、障がい児教育の充実」（44.6%）が全体と比べて多くなっている。

居住地域別にみると、すべての地域で「働く場の確保や就労定着の支援」が最も多くなっている。回答の傾向に地域間の大きな差はない。

甲賀市の居住歴別にみると、3年以上では「働く場の確保や就労定着の支援」が、3年未満では「段差解消などのバリアフリー化やユニバーサルデザインの推進」（46.3%）が最も多くなっている。3年未満では「働く場の確保や就労定着の支援」（39.0%）と全体と比べて少なくなっている。

■障がい者施策を進めていくために充実させていくべきこと（複数回答）

	N (有効回答者数)	障がいの ある方への 理解を深める 教育や広報 活動の充実	障がい児 保育、障がい 児教育の充実	段差解消 などのバリア フリー化やユニ バーサルデザ インの推進	働く場の 確保や就労定 着の支援	ホームヘル プなど在宅生 活支援サービ スの充実	公共交通を 利用した移動 支援の充実	ボランティア 活動の育成や 支援	障がいサー ビスや福祉に 関する情報提 供の促進	相談窓口の 充実	障がいのあ る方の権利擁 護（自分の権 利を守ってく れる）制度の 普及	専門的な人 材の確保と育 成	災害や緊急 時の支援体制 の整備	その他	特にな い	無回 答
全体	1,310	43.1	34.0	36.3	49.6	31.6	23.2	18.3	23.5	33.0	19.7	30.5	30.8	1.5	2.7	3.7
男	554	41.2	32.3	35.6	47.1	28.5	24.5	16.6	22.0	31.0	18.4	29.4	29.6	1.6	3.1	3.4
女	725	44.8	35.6	37.5	52.0	34.1	21.9	20.0	24.6	35.0	20.8	31.6	31.9	1.4	2.3	3.3
20歳代以下	97	40.2	34.0	44.3	52.6	14.4	15.5	11.3	21.6	22.7	14.4	22.7	19.6	2.1	4.1	1.0
30歳代	112	43.8	44.6	44.6	50.9	30.4	16.1	12.5	23.2	29.5	20.5	35.7	24.1	0.9	3.6	0.9
40歳代	184	39.1	39.1	39.7	56.0	30.4	22.8	16.8	24.5	35.3	17.9	36.4	27.7	1.6	2.7	0.5
50歳代	177	40.1	31.1	41.8	54.8	36.7	20.9	18.6	23.7	33.9	16.9	32.2	28.8	0.0	2.3	0.6
60歳代	258	44.2	42.2	37.2	53.5	36.4	27.1	23.3	27.9	38.0	24.8	37.2	38.0	2.7	0.8	1.6
70歳代以上	472	45.8	26.5	29.2	42.6	31.1	25.4	18.9	21.2	32.0	19.7	24.4	32.8	1.3	3.6	7.6
水口地域	530	41.5	35.1	39.6	49.6	31.9	22.5	17.9	23.4	32.3	17.2	31.7	30.4	1.5	3.4	2.5
土山地域	116	49.1	39.7	31.0	49.1	37.1	21.6	21.6	25.9	42.2	22.4	25.9	33.6	0.9	2.6	6.9
甲賀地域	178	45.5	34.3	27.5	51.7	32.6	24.2	18.5	21.3	30.9	25.8	30.9	30.3	3.4	2.8	2.8
甲南地域	305	45.2	31.5	39.7	52.1	29.2	23.6	17.7	23.0	33.8	19.0	30.5	30.2	0.0	2.3	3.3
信楽地域	170	38.2	31.8	34.7	44.1	30.0	25.3	18.2	25.3	30.0	20.6	30.0	32.4	2.4	1.8	4.7
3年未満	41	46.3	41.5	46.3	39.0	24.4	29.3	14.6	14.6	41.5	19.5	29.3	24.4	2.4	0.0	2.4
3年から10年未満	78	47.4	43.6	44.9	59.0	28.2	26.9	21.8	19.2	25.6	19.2	38.5	32.1	1.3	1.3	1.3
10年以上	1,163	42.6	33.3	35.9	49.6	32.2	23.0	18.2	23.9	33.1	19.5	30.4	31.2	1.5	2.8	3.5

※表内の濃い網掛け部分は、全体を10ポイント以上上回るものを示す。

表内の薄い網掛け部分は、全体を10ポイント以上下回るものを示す。

(3) 共に地域で生活できるように進めていくために出来ること

問 26 障がいのある方もない方もお互いに理解し、共に地域で生活できるように進めていくために、あなたは何かができますか。（〇は優先と考えるものを3つまで）

共に地域で生活できるように進めていくためにできることは、「子どもの頃から交流する場や機会を設ける」（41.8%）が最も多く、次いで「働きやすい環境や一緒に働く機会をつくる」（35.6%）、「声かけや相談できる体制をつくる」（31.2%）、「階段や段差などでの手助けをする」（30.5%）となっている。なお、「特にない」は6.5%だった。

性別にみると、男性、女性ともに「子どもの頃から交流する場や機会を設ける」が最も多くなっているが、女性（44.4%）が6.3ポイント多い。

年代別にみると、50歳代を除く年代で「子どもの頃から交流する場や機会を設ける」が最も多くなっており、特に30歳代が53.6%と全体と比べて11.8ポイント多い。

50歳代以下では、「働きやすい環境や一緒に働く機会をつくる」が全体と比べて多く、働く環境に関する意見が高い。一方、70歳代以上では25.2%と最も少ない。

居住地域別にみると、すべての地域で「子どもの頃から交流する場や機会を設ける」が最も多くなっている。土山地域と甲南地域では「働きやすい環境や一緒に働く機会をつくる」が、甲賀地域では「障がいについての理解が深められる研修や講演会へ参加する（手話講座、出前講座など）」（21.9%）が全体に比べて多くなっている。また、信楽地域では「地域活動やスポーツ、イベントなどで一緒に活動する」（17.6%）、土山地域では「手話や代筆などのコミュニケーションの手助けをする」（2.6%）が全体に比べて少なくなっている。

甲賀市の居住歴別にみると、すべての居住歴で「子どもの頃から交流する場や機会を設ける」が最も多くなっている。3年未満では「手話や代筆などのコミュニケーションの手助けをする」（19.5%）と「地域活動やスポーツ、イベントなどで一緒に活動する」（31.7%）が、3年から10年未満では「働きやすい環境や一緒に働く機会をつくる」（42.3%）と「階段や段差などでの手助けをする」（37.2%）が、10年以上では「声かけや相談できる体制をつくる」（31.8%）が、それぞれ最も多くなっている。

■共に地域で生活できるように進めていくために出来ること（3つ以内で複数回答）

	N (有効回答者数)	地域活動やスポーツ、イベントなどで一緒に活動する	障がいについての理解が深められる研修や講演会へ参加する（手話講座、出前講座など）	働きやすい環境や一緒に働く機会をつくる	子どもの頃から交流する場や機会を設ける	ボランティアと一緒に活動する	声かけや相談できる体制をつくる	階段や段差などでの手助けをする	手話や代筆などのコミュニケーションの手助けをする	その他	特にない	無回答
全体	1,310	23.7	18.5	35.6	41.8	16.2	31.2	30.5	8.2	1.5	6.5	6.0
男	554	27.6	17.1	37.2	38.1	15.5	27.8	27.6	6.0	0.7	8.5	5.6
女	725	21.1	19.9	34.2	44.4	16.6	34.1	33.2	10.2	2.1	5.0	5.8
20歳代以下	97	27.8	21.6	42.3	43.3	19.6	24.7	24.7	12.4	1.0	4.1	4.1
30歳代	112	25.9	13.4	48.2	53.6	14.3	23.2	35.7	9.8	0.9	6.3	0.0
40歳代	184	21.2	11.4	45.7	48.4	14.7	29.3	35.9	14.7	1.1	5.4	1.6
50歳代	177	26.6	19.2	44.6	43.5	13.6	33.3	31.6	11.3	1.1	3.4	2.8
60歳代	258	22.1	22.9	33.3	45.3	14.7	36.8	30.6	6.2	1.6	7.0	3.1
70歳代以上	472	23.5	19.1	25.2	33.7	18.0	31.8	28.0	4.4	1.9	8.5	11.7
水口地域	530	25.5	17.4	35.8	40.9	15.7	30.6	32.1	10.0	1.9	8.1	3.6
土山地域	116	28.4	19.8	38.8	44.8	19.0	34.5	25.0	2.6	0.0	4.3	10.3
甲賀地域	178	26.4	21.9	30.9	40.4	19.1	33.1	23.6	5.6	2.2	5.1	7.3
甲南地域	305	21.3	19.3	39.0	45.6	15.1	30.5	33.1	8.5	0.3	3.3	6.2
信楽地域	170	17.6	16.5	32.4	37.1	14.1	31.2	31.8	8.8	2.4	10.6	7.1
3年未満	41	31.7	19.5	31.7	48.8	19.5	26.8	29.3	19.5	2.4	2.4	4.9
3年から10年未満	78	24.4	12.8	42.3	51.3	17.9	24.4	37.2	12.8	0.0	2.6	2.6
10年以上	1,163	23.5	18.8	35.7	41.3	16.1	31.8	30.5	7.6	1.5	6.7	5.8

※表内の濃い網掛け部分は、全体を10ポイント以上上回るものを示す。

表内の薄い網掛け部分は、全体を10ポイント以上下回るものを示す。

5. 新型コロナウイルス感染症について

(1) 新型コロナウイルス感染症で困っていること

問 27 新型コロナウイルス感染症で、困っていることはどのようなことですか。
(〇はいくつでも)

新型コロナウイルス感染症で困っていることは、「精神面（メンタル面）」（36.3%）が最も多く、次いで「体調面」（32.9%）、「収入減・支出増」（29.5%）、「人間関係」（20.3%）となっている。なお、「困っていることはない」は 18.4%だった。また、「その他」では、「行動の制限」、「マスクの使用」、「医療やワクチン接種」に関する意見が多く見られた。

令和2年度調査からの推移をみると、令和3年度に比べて「体調面」が 22.0 ポイント、「収入減・支出増」が 9.2 ポイント増加した。一方、「困っていることはない」は 5.6 ポイント減少した。

性別にみると、男性では「収入減・支出増」（32.5%）が、女性では「精神面（メンタル面）」（40.1%）が最も多くなっている。

年代別にみると、30歳代以下と50歳代では「精神面（メンタル面）」が、40歳代では「収入減・支出増」（39.1%）が、60歳以上では「体調面」が最も多くなっている。

30歳代と40歳代では、「子育て・教育」の割合が全体に比べて突出して多くなっており、50歳代以上は少ない。

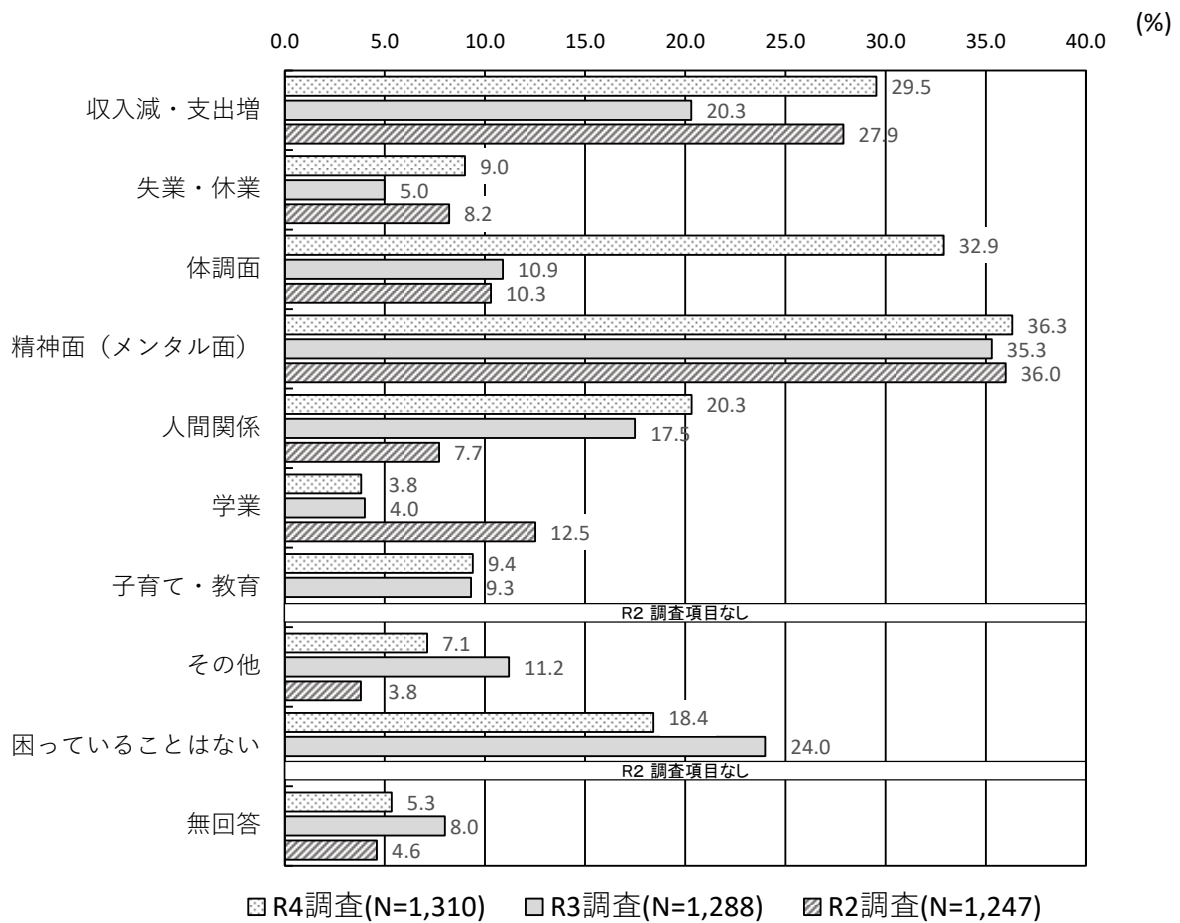
60歳代以下では「収入減・支出増」の割合が、特に30歳代（40.2%）と40歳代（39.1%）が全体と比べて多くなっている。

70歳代以上では、「困っていることはない」（21.6%）が他の年代と比べて最も多くなっている。

居住地域別にみると、信楽地域では「体調面」（37.1%）が、その他の地域では「精神面（メンタル面）」が最も多くなっている。また、土山地域では「学業」（1.7%）が、甲賀地域では「子育て・教育」（5.1%）が、全体と比べて少なくなっている。

甲賀市の居住歴別にみると、すべての居住歴で「精神面（メンタル面）」が最も多くなっている。回答の傾向に居住歴の大きな差はない。

■新型コロナウイルス感染症で困っていること（複数回答）【経年比較】



※表「新型コロナウイルス感染症で困っていること（複数回答）」は、64 ページに掲載。

職業別にみると、自営業では「収入減・支出増」（55.8%）が、無職・その他では「体調面」（32.7%）が、他の職業では「精神面（メンタル面）」が最も多くなっている。

公務員では「子育て・教育」（22.6%）が全体に比べて多い。また、自営業では「収入減・支出増」（55.8%）が、学生では「精神面（メンタル面）」（50.0%）、「学業」（41.7%）が全体に比べて多くなっている。

家族形態別にみると、単身では「収入減・支出増」（29.2%）が、その他では「体調面」（46.8%）が、他の家族形態では「精神面（メンタル面）」が最も多くなっている。

単身世帯では「困っていることはない」（27.5%）が、夫婦のみでは「体調面」（33.5%）が、二世帯世帯では「収入減・支出増」（33.4%）と「学業」（6.4%）、二世帯世帯と三世帯世帯では「子育て・教育」が他の家族形態に比べてやや多くなっている。

■新型コロナウイルス感染症で困っていること（複数回答）

	N （有効回答者数）	収入減・支出増	失業・休業	体調面	精神面（メンタル面）	人間関係	学業	子育て・教育	その他	困っていることはない	無回答
全体	1,310	29.5	9.0	32.9	36.3	20.3	3.8	9.4	7.1	18.4	5.3
男	554	32.5	8.7	30.7	31.8	19.5	3.1	8.1	7.6	21.1	3.6
女	725	27.0	9.1	34.3	40.1	20.8	4.4	10.5	6.5	16.4	6.3
20歳代以下	97	35.1	11.3	29.9	37.1	21.6	10.3	7.2	4.1	18.6	4.1
30歳代	112	40.2	12.5	33.0	47.3	28.6	6.3	37.5	6.3	10.7	0.0
40歳代	184	39.1	12.5	31.5	37.5	12.5	9.2	22.3	9.2	12.0	1.1
50歳代	177	32.8	10.2	29.4	44.6	15.8	2.8	4.0	6.8	19.2	1.1
60歳代	258	30.2	9.3	33.3	32.9	17.4	0.0	3.5	9.7	19.8	4.3
70歳代以上	472	20.6	5.7	35.0	31.6	24.2	2.1	3.2	5.7	21.6	10.8
水口地域	530	29.6	10.2	31.7	37.2	19.2	4.3	10.8	7.5	19.2	4.7
土山地域	116	30.2	8.6	36.2	39.7	20.7	1.7	6.9	7.8	16.4	6.0
甲賀地域	178	24.7	6.7	28.7	30.9	22.5	4.5	5.1	6.7	19.1	7.9
甲南地域	305	30.2	9.2	33.8	37.0	18.7	3.3	11.5	5.9	19.3	5.6
信楽地域	170	32.9	7.6	37.1	35.3	22.9	3.5	7.1	7.6	14.7	4.1
3年未満	41	28.0	8.2	36.1	37.1	22.3	3.6	8.1	6.4	17.4	4.8
3年から10年未満	78	27.3	7.3	30.7	38.0	22.0	4.0	9.3	6.7	20.7	4.7
10年以上	1,163	31.7	10.3	29.9	34.7	17.3	3.9	10.6	8.0	18.8	6.2

※表内の濃い網掛け部分は、全体を10ポイント以上上回るものを示す。

■新型コロナウイルス感染症で困っていること（複数回答）【職業別】

	N (有効回答者数)	収入減・支出増	失業・休業	体調面	精神面（メンタル面）	人間関係	学業	子育て・教育	その他	困っていることはない	無回答
全体	1,310	29.5	9.0	32.9	36.3	20.3	3.8	9.4	7.1	18.4	5.3
会社員	333	36.0	9.3	32.7	39.3	16.8	3.6	13.2	8.4	18.9	1.2
公務員	62	21.0	8.1	22.6	29.0	24.2	1.6	22.6	12.9	19.4	0.0
自営業	95	55.8	13.7	23.2	29.5	20.0	4.2	7.4	6.3	12.6	2.1
パート・アルバイト	214	38.3	12.6	36.9	40.2	17.3	4.7	10.3	5.6	16.4	3.7
学生	24	8.3	4.2	20.8	50.0	16.7	41.7	0.0	0.0	20.8	4.2
専業主婦・主夫	169	20.7	8.3	40.2	44.4	22.5	3.0	10.1	3.6	16.0	10.7
無職・その他	398	19.8	6.5	32.7	29.9	23.1	1.8	4.3	7.8	21.1	9.0

※表内の濃い網掛け部分は、全体を10ポイント以上上回るものを示す。

表内の薄い網掛け部分は、全体を10ポイント以上下回るものを示す。

■新型コロナウイルス感染症で困っていること（複数回答）【家族形態別】

	N (有効回答者数)	収入減・支出増	失業・休業	体調面	精神面（メンタル面）	人間関係	学業	子育て・教育	その他	困っていることはない	無回答
全体	1,310	29.5	9.0	32.9	36.3	20.3	3.8	9.4	7.1	18.4	5.3
単身	120	29.2	10.8	25.8	28.3	20.0	1.7	1.7	8.3	27.5	8.3
夫婦のみ	349	26.1	8.3	33.5	38.4	19.8	1.1	2.9	7.2	16.0	8.3
二世帯世帯	590	33.4	9.8	32.9	36.8	20.3	6.4	14.4	6.3	17.8	3.4
三世帯世帯	185	24.9	6.5	33.5	36.2	20.5	2.2	10.8	7.6	19.5	4.9
その他	47	31.9	10.6	46.8	34.0	19.1	0.0	8.5	8.5	17.0	4.3

※表内の濃い網掛け部分は、全体を10ポイント以上上回るものを示す。

(2) 今後、必要と考えられる支援

**問 28 今後、どのような支援が必要と考えますか。（〇はいくつでも）
また、支援に関する意見があれば、ご自由にお書きください。**

新型コロナウイルス感染症の影響下で必要な支援は、「生活に困っておられる方への支援」（59.8%）が突出して多く、次いで「子育て、教育に関する支援」（38.9%）、「差別、DV、虐待などの対策」（26.9%）、「事業所、企業等への支援」（22.6%）となっている。なお、「支援の必要はない」は1.8%、「わからない」は7.7%だった。

令和3年度調査と比較すると、「子育て、教育に関する支援」が5.7ポイント増加し、「事業所、企業等への支援」が5.7ポイント減少した。その他の支援策については、大きな変化はみられない。

性別にみると、男性、女性とも、全体とほぼ同様の割合となっている。

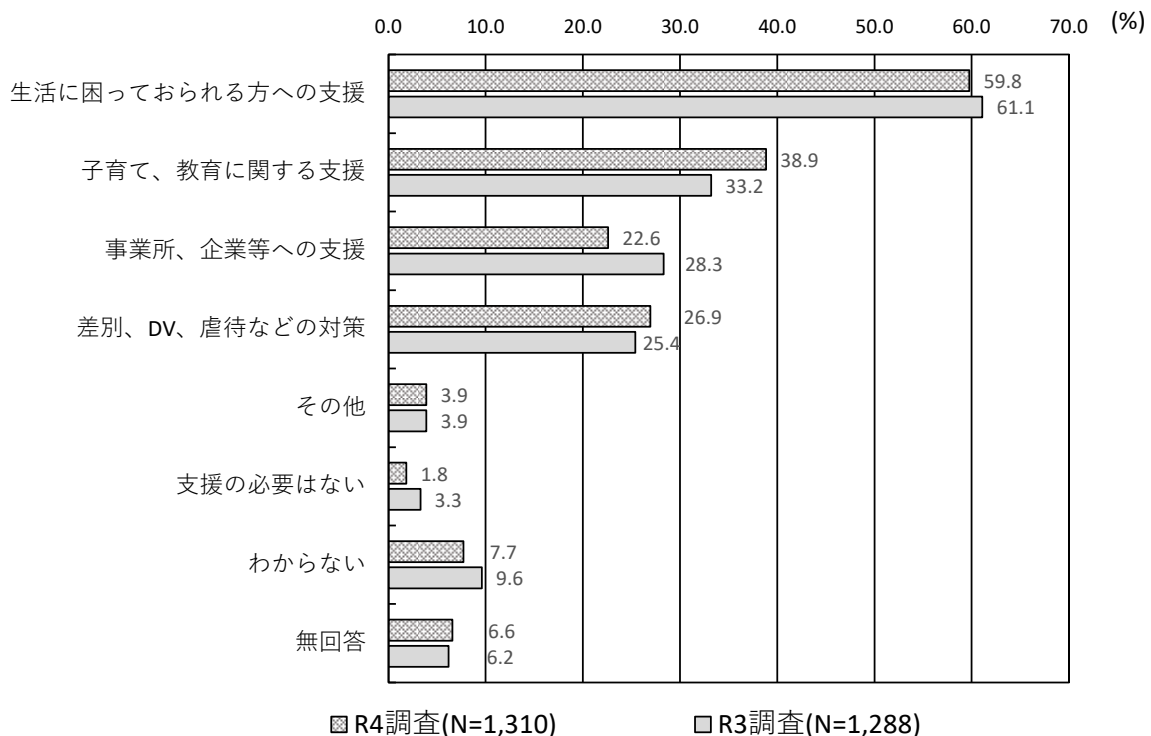
年代別にみると、30歳代では「子育て、教育に関する支援」（64.3%）が、その他の年代では「生活に困っておられる方への支援」が最も多くなっている。

40歳代以下では、「子育て、教育に関する支援」が全体に比べて多くなっている。子育て世代にとって特に必要な支援と考えられる。

居住地域別にみると、すべての地域で「生活に困っておられる方への支援」が最も多くなっている。土山地域では「子育て、教育に関する支援」（49.1%）が全体と比べて多くなっている。それ以外の回答の傾向には地域間の大きな差はみられない。

甲賀市の居住歴別にみると、すべての居住歴で「生活に困っておられる方への支援」が最も多くなっている。3年から10年未満では「子育て、教育に関する支援」（51.3%）が、3年未満では「差別、DV、虐待などの対策」（34.1%）がそれぞれ全体に比べて多くなっている。

■今後、必要と考えられる支援（複数回答）【経年比較】



■今後、必要と考えられる支援（複数回答）

	N（有効回答者数）	の生活に困っておられる方への支援	子育て、教育に関する支援	事業所、企業等への支援	差別、DV、虐待などの対策	その他	支援の必要はない	わからない	無回答
全体	1,310	59.8	38.9	22.6	26.9	3.9	1.8	7.7	6.6
男	554	60.1	38.6	23.8	23.5	4.5	2.2	7.4	4.3
女	725	60.1	39.3	22.2	29.7	3.4	1.4	8.0	8.0
20歳代以下	97	62.9	47.4	24.7	28.9	3.1	2.1	4.1	3.1
30歳代	112	56.3	64.3	28.6	26.8	4.5	0.0	3.6	0.0
40歳代	184	54.9	48.9	22.3	26.6	3.3	1.1	6.0	3.8
50歳代	177	60.5	31.6	29.4	24.9	4.0	3.4	5.6	4.0
60歳代	258	65.5	38.8	22.9	31.8	5.8	1.9	5.8	5.8
70歳代以上	472	58.9	29.7	18.4	25.0	3.0	1.7	12.1	11.2
水口地域	530	62.8	39.4	22.5	30.8	3.6	1.7	6.8	5.5
土山地域	116	63.8	49.1	26.7	24.1	4.3	0.9	8.6	4.3
甲賀地域	178	58.4	35.4	25.3	23.6	3.9	1.7	7.3	6.7
甲南地域	305	56.7	39.3	20.3	25.6	3.3	2.3	8.9	6.9
信楽地域	170	54.7	32.4	22.4	24.1	5.3	1.8	8.8	10.6
3年未満	41	58.5	41.5	24.4	34.1	7.3	0.0	4.9	4.9
3年から10年未満	78	53.8	51.3	21.8	21.8	2.6	1.3	10.3	5.1
10年以上	1,163	60.7	37.9	22.6	27.2	3.8	1.9	7.6	6.7

※表内の濃い網掛け部分は、全体を10ポイント以上上回るものを示す。

職業別にみると、すべての職業で「生活に困っておられる方への支援」が最も多くなっている。

公務員では「子育て、教育に関する支援」（58.1%）、「差別、DV、虐待などの対策」（43.5%）が、自営業では「事業所、企業等への支援」（42.1%）が、学生では「生活に困っておられる方への支援」（70.8%）、「子育て、教育に関する支援」（50.0%）が全体に比べて多くなっている。

家族形態別にみると、すべての家族形態で「生活に困っておられる方への支援」が最も多くなっている。

二世帯世帯と三世帯世帯では「子育て、教育に関する支援」と「事業所、企業等への支援」が、他の家族形態に比べてやや多い。

■今後、必要と考えられる支援（複数回答）【職業別】

	N（有効回答者数）	の生活に困っておられる方への支援	子育て、教育に関する支援	事業所、企業等への支援	差別、DV、虐待などの対策	その他	支援の必要はない	わからない	無回答
全体	1,310	59.8	38.9	22.6	26.9	3.9	1.8	7.7	6.6
会社員	333	56.5	44.1	27.9	28.2	3.0	3.3	4.8	2.1
公務員	62	59.7	58.1	32.3	43.5	3.2	1.6	4.8	0.0
自営業	95	69.5	30.5	42.1	13.7	5.3	1.1	4.2	2.1
パート・アルバイト	214	61.7	41.1	22.9	27.1	3.7	0.9	6.1	4.7
学生	24	70.8	50.0	25.0	29.2	4.2	0.0	0.0	4.2
専業主婦・主夫	169	59.2	43.8	20.7	34.9	3.0	1.2	5.9	13.0
無職・その他	398	59.3	29.1	13.1	23.6	4.8	1.5	13.8	10.3

※表内の濃い網掛け部分は、全体を10ポイント以上上回るものを示す。
表内の薄い網掛け部分は、全体を10ポイント以上下回るものを示す。

■今後、必要と考えられる支援（複数回答）【家族形態別】

	N（有効回答者数）	の生活に困っておられる方への支援	子育て、教育に関する支援	事業所、企業等への支援	差別、DV、虐待などの対策	その他	支援の必要はない	わからない	無回答
全体	1,310	59.8	38.9	22.6	26.9	3.9	1.8	7.7	6.6
単身	120	58.3	24.2	20.8	24.2	2.5	1.7	12.5	10.0
夫婦のみ	349	53.3	33.2	18.9	28.4	4.3	3.2	9.5	9.5
二世帯世帯	590	62.5	45.1	24.1	27.1	3.4	1.4	6.1	4.4
三世帯世帯	185	65.4	40.0	27.0	27.6	5.4	1.1	5.9	5.9
その他	47	61.7	34.0	23.4	14.9	4.3	0.0	10.6	6.4

※表内の薄い網掛け部分は、全体を10ポイント以上下回るものを示す。

(3) 支援等に関する意見

新型コロナウイルス感染症の支援に関して 156 人、延べ 196 件の意見があり、令和 3 年度調査での分類を基本に整理した。

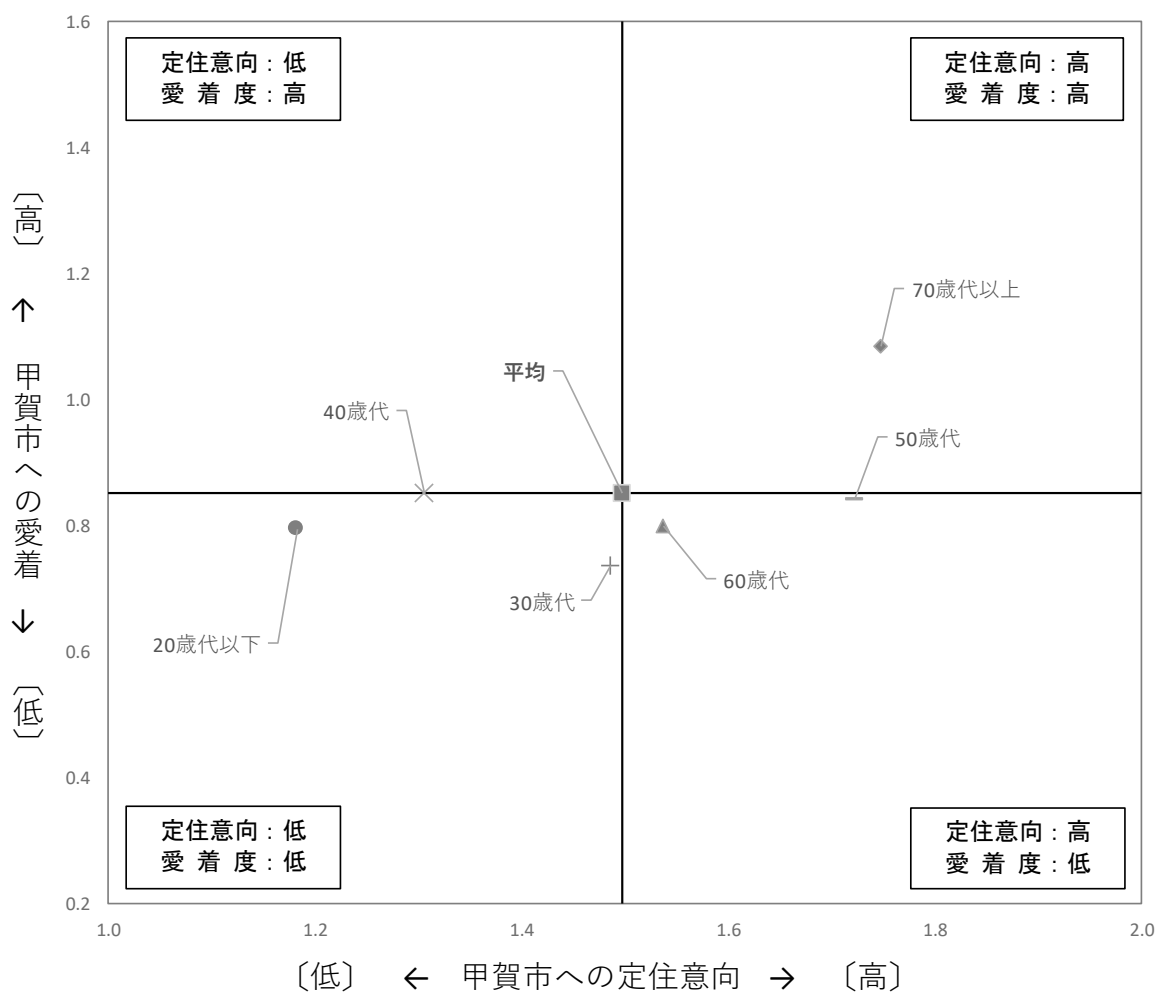
■支援等に関する意見

分類	項目	件数
1	情報面の支援（情報提供、相談窓口等）	14
2	事業所・企業への支援	3
3	対象に応じた支援（生活困窮者、低所得者、感染者等）	19
4	ワクチン接種・検査体制の充実化	17
5	子育て支援	11
6	給付金・支援金の配布	4
7	教育支援	4
8	施設利用・イベント開催時の感染対策等	1
9	就業支援・雇用促進	2
10	差別・DV・虐待対策	1
11	クーポン配布	3
12	マスクに関する意見等	2
13	精神的なケア	4
14	医療や福祉（障がい者や介護等）の支援	15
15	迅速な対応	4
16	その他の経済的な支援（税の減免等）	7
17	自助努力の後押し、経済活動の優先等	1
18	平等な支援対策に関する意見等	17
19	行政に対する意見・要望等	14
20	その他	53
合計		196

【参考資料①：クロス集計（散布図）】

〔問16〕甲賀市への定住意向 × 〔問14〕甲賀市への愛着

(年代別評価点)



● 20歳代以下 + 30歳代 × 40歳代 - 50歳代 ▲ 60歳代 ◆ 70歳代以上 ■ 平均

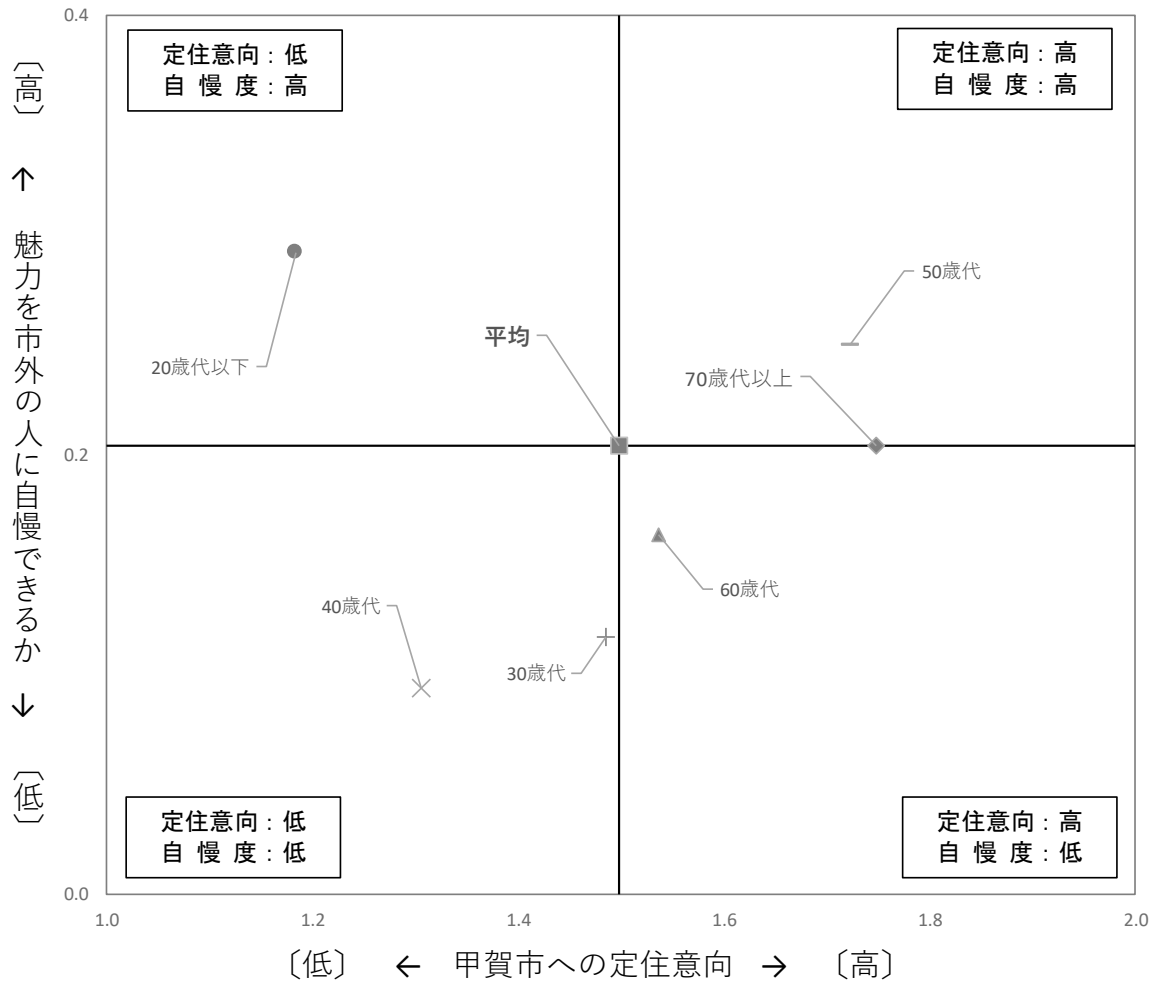
※（問16）年代別評価点平均1.49 （問14）年代別評価点平均0.85を中心として2軸4象限にプロットしている

※項目ごとの回答件数を点数化し、評価点を算出～散布図を作成。配点については以下の通り。

	2点	1点	-1点	-2点	0点	0点
問14	1.愛着がある	2.まあまあ愛着がある	3.あまり愛着がない	4.愛着がない	-	無回答
問16	1.住みつづけたい	-	-	2.住みつづけたいとは思わない	3.どちらともいえない	無回答

〔問16〕 甲賀市への定住意向 × 〔問15〕 魅力を市外に自慢できるか

（年代別評価点）

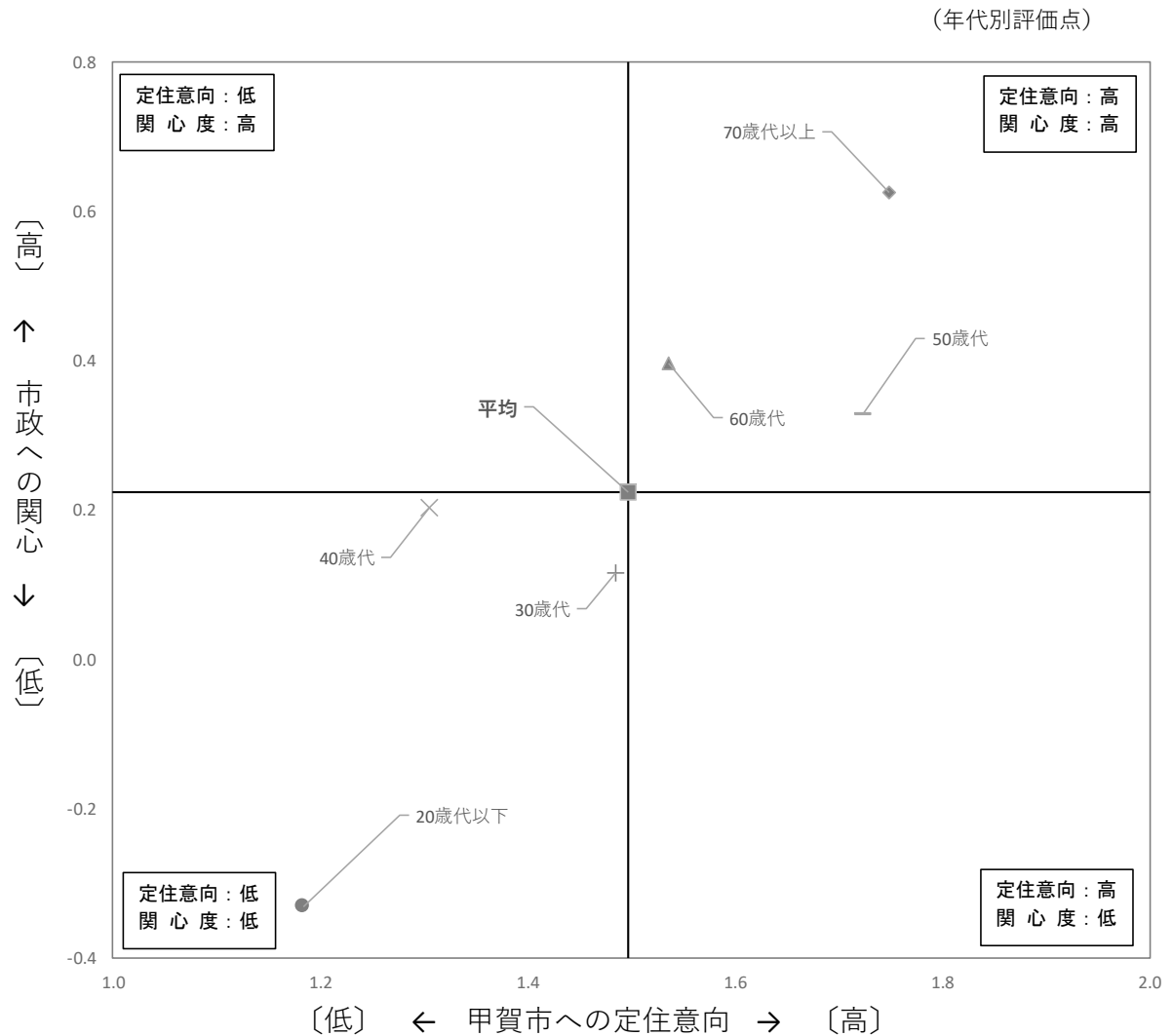


※（問16）年代別評価点平均1.49 （問15）年代別評価点平均0.20を中心として2軸4象限にプロットしている

※項目ごとの回答件数を点数化し、評価点を算出～散布図を作成。配点については以下の通り。

	2点	1点	-1点	-2点	0点	0点
問15	1.自慢できる	2.まあまあ自慢できる	3.あまり自慢できない	4.自慢できない	-	無回答
問16	1.住みつづけたい	-	-	2.住みつづけたいとは思わない	3.どちらともいえない	無回答

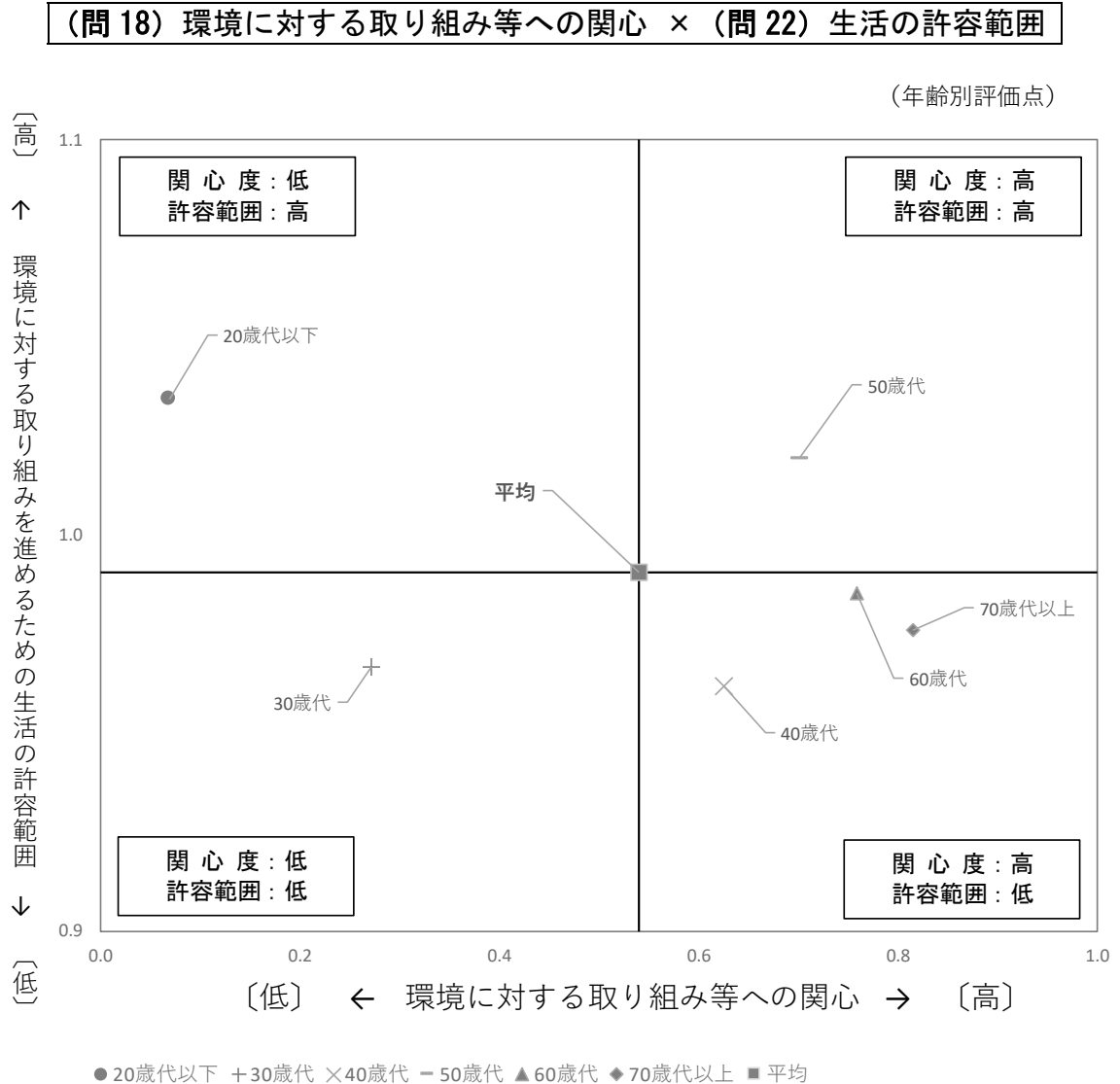
（問16）甲賀市への定住意向 × （問17） 市政への関心



※（問16）年代別評価点平均1.49 （問17）年代別評価点平均0.22を中心として2軸4象限にプロットしている

※項目ごとの回答件数を点数化し、評価点を算出～散布図を作成。配点については以下の通り。

	2点	1点	-1点	-2点	0点	0点
問16	1.住みつづけたい	-	-	2.住みつづけたいとは思わない	3.どちらともいえない	無回答
問17	1.関心がある	2.まあまあ関心がある	3.あまり関心がない	4.関心がない	-	無回答



※（問18）年代別評価点平均0.54 （問22）年代別評価点平均0.99を中心として2軸4象限にプロットしている

※項目ごとの回答件数を点数化し、評価点を算出～散布図を作成。配点については以下の通り。

	2点	1点	-1点	-2点	0点	0点
問18	1.大いにある	2.ある	3.あまりない	4.まったくない	5.わからない	無回答
問22	1.現在のライフスタイル（生活様式）を大きく変えてでも取り組むべき	2.現在のライフスタイル（生活様式）を多少変えてでも取り組むべき	-	4.取り組む必要はない	3.現在のライフスタイル（生活様式）を変えない範囲で取り組むべき	無回答

【参考資料②：アンケート調査票】

甲賀市市政に関する意識調査

アンケートID

= ご協力のお願い =

※上記のIDは無作為に割当てたものであり、
個人を特定するものではありません。

日ごろから甲賀市政へのご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。
市では、まちづくりの主役である市民の皆様の思いや願いをしっかりと受け止め、市政に活かしていくため、「市政に関する意識調査」を実施します。
いただいたご意見等は、高齢者から若者、子どもまで、健康でいきいきと活躍できる地域をつくるための大切な基礎資料とさせていただきますので、ご協力くださいますようお願いいたします。

令和4年（2022年）7月

甲賀市長

岩永 裕貴

ご回答にあたってのお願い

■ 令和4年8月7日（日）までに、ご回答をお願いします。

- ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて、郵便ポストにご投函ください。
※返信用封筒へのお名前のご記入は不要です。
- ご回答は本調査票またはインターネット回答（同封のインターネット回答操作案内参照）のどちらか一方のみにてお願いします。
- 今回の調査は、無作為に選ばせていただいた市内にお住まいの18歳以上の方3,000人を対象に実施しています。
- この調査は、個人を対象としていますので、お送りした封筒に書かれているあて名の方ご自身がご回答ください。（ご本人による回答が困難な場合は、ご家族等の方がご本人から聞き取って代筆ください。）
- この調査の回答は、無記名でお願いしています。回答いただいた内容は、統計的に処理しますので、内容が外部にもれたりしてご迷惑をおかけすることはありません。安心してご回答ください。
- 回答は、質問ごとに用意した答えの中から、あなたのお考えに近いものの番号に○印をつけてください。
- 回答したくない設問については、お答えいただかなくて結構です。

- 甲賀市をより良いまちにするために調査にご協力ください。わからない事があれば下記へご連絡ください。
- Please cooperate with our survey to make Koka City a better town. Please call this number as follows, if you have any questions.
- 고카시를 보다 좋은 도시로 만들기 위한 조사에 협력해 주십시오. 모르는 것이 있으시면 다음으로 연락해 주십시오.
- 为了把甲贺市变成更好的城市，请协助调查。如果有不明白的地方，请联系以下地址。
- Pedimos sua colaboração em relação a esta pesquisa, para fazer da Cidade de Koka uma cidade melhor. Em caso de dúvidas, favor entrar em contato pelo telefone descrito abaixo.
- Por favor coopere con la encuesta para hacer de la Ciudad de Koka una ciudad mejor. Si tuvieran alguna duda, pueden llamar al número de teléfono que figura en la parte de abajo.

【本調査に関する問合せ先】

甲賀市総合政策部 秘書広報課 TEL 0748-69-2101（直通） FAX 0748-63-4619

1. あなたご自身のことについておたずねします

問1 あなたの性別を教えてください。(〇は1つ)

1. 男 2. 女 3. 答えたくない

問2 あなたの年齢は7月1日現在でいくつですか。(〇は1つ)

1. 18～19歳 2. 20～24歳 3. 25～29歳 4. 30～34歳
5. 35～39歳 6. 40～44歳 7. 45～49歳 8. 50～54歳
9. 55～59歳 10. 60～64歳 11. 65～69歳 12. 70～74歳
13. 75歳以上

問3 あなたのお住まいの地域はどちらですか。(〇は1つ)

1. 水口地域 2. 土山地域 3. 甲賀地域
4. 甲南地域 5. 信楽地域

問4 あなたはいつから甲賀市にお住まいですか。(〇は1つ)

1. 生まれてからずっと甲賀市に住んでいる
2. 甲賀市で生まれて、市外に転出後、再び転入した
3. 市外で生まれて甲賀市に転入した

問4で「2」または「3」と回答された方におたずねします。

問5 転入後、何年くらい甲賀市にお住まいですか。(〇は1つ)

1. 3年未満 2. 3年から10年未満 3. 10年以上

問6 あなたの世帯(同居)の構成はどれですか。(〇は1つ)

1. 単身 2. 夫婦のみ 3. 二世帯世帯 4. 三世帯世帯
5. その他()

問6で「3・4・5」のいずれかに回答された方におたずねします。

問7 あなたに就学前または就学しているお子様・お孫様(同居)はおられますか。
(〇はいくつでも) ※別居されているお子様、お孫様は含みません。

1. 2歳以下 2. 3歳～小学校入学前
3. 小学生 4. 中学生
5. 高校生 6. 専門学校生・短大生・予備校生・大学生(大学院生)
7. 就学前または就学している子どもはいない

問8 あなたの職業等は何ですか。(〇は1つ)

- | | | | |
|--------|------------|-----------|--------------|
| 1. 会社員 | 2. 公務員 | 3. 自営業 | 4. パート・アルバイト |
| 5. 学生 | 6. 専業主婦・主夫 | 7. 無職・その他 | |

問8で「1～5」のいずれかに回答された方におたずねします。

問9 あなたの勤務地（通学地）はどちらですか。(〇は1つ)

- | | |
|---------------|---------|
| 1. 自宅 | 2. 甲賀市内 |
| 3. 甲賀市以外の滋賀県内 | 4. 県外 |

2. 市政全体に関する満足度等についておたずねします

問10 あなたは甲賀市の住みやすさについてどのように感じておられますか。(〇は1つ)

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. 住みやすい | 2. まあまあ住みやすい |
| 3. どちらともいえない | 4. あまり住みやすくない |
| 5. 住みにくい | |

問11 あなたにとって甲賀市の【住みやすい点】と【住みにくい点】はどのようなことですか。
(それぞれ〇はいくつでも)

【住みやすい点】

- | | | |
|-----------|----------------|----------------------------|
| 1. 子育て | 2. 教育 | 3. 地域コミュニティ(区・自治会・自治振興会など) |
| 4. 就労・起業 | 5. 公共交通(バス・鉄道) | 6. 道路 |
| 7. 自然・環境 | 8. 防犯 | 9. 防災 |
| 10. 福祉・医療 | 11. 文化・スポーツ | 12. その他() |

【住みにくい点】

- | | | |
|-----------|----------------|----------------------------|
| 1. 子育て | 2. 教育 | 3. 地域コミュニティ(区・自治会・自治振興会など) |
| 4. 就労・起業 | 5. 公共交通(バス・鉄道) | 6. 道路 |
| 7. 自然・環境 | 8. 防犯 | 9. 防災 |
| 10. 福祉・医療 | 11. 文化・スポーツ | 12. その他() |

問12 あなたは現在の暮らしに幸せを感じますか。(〇は1つ)

- | | |
|--------------|-------------------|
| 1. そう感じる | 2. どちらかといえばそう感じる |
| 3. どちらともいえない | 4. どちらかといえばそう感じない |
| 5. 感じない | |



問12で「1・2」のいずれかに回答された方におたずねします。

問13 あなたはどのようなことに幸せを感じますか。(〇はいくつでも)

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1. 収入(お金) | 2. 就業状況(仕事の有無・安定) |
| 3. 健康 | 4. 自由な時間、充実した余暇 |
| 5. 社会貢献 | 6. 家族関係 |
| 7. 友人関係 | 8. 職場や学校等の人間関係 |
| 9. 地域コミュニティ、ご近所との関係 | 10. その他() |

問14 あなたは甲賀市に愛着をお持ちですか。(〇は1つ)

- | | |
|-------------|--------------|
| 1. 愛着がある | 2. まあまあ愛着がある |
| 3. あまり愛着がない | 4. 愛着がない |

問15 あなたは甲賀市の魅力を市外の人に自慢できますか。(〇は1つ)

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 自慢できる | 2. まあまあ自慢できる |
| 3. あまり自慢できない | 4. 自慢できない |

問16 あなたはこれからも甲賀市に住みつづけたいと思いますか。(〇は1つ)

- | | | |
|------------|------------------|--------------|
| 1. 住みつづけたい | 2. 住みつづけたいとは思わない | 3. どちらともいえない |
|------------|------------------|--------------|

問17 あなたは、市政(市役所のしていること)に関心をお持ちですか。(〇は1つ)

- | | |
|-------------|--------------|
| 1. 関心がある | 2. まあまあ関心がある |
| 3. あまり関心がない | 4. 関心がない |

3. 環境についておたずねします

問18 環境や環境に対する取り組みについて関心はありますか。(〇は1つ)

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 大いにある | 2. ある |
| 3. あまりない | 4. まったくない |
| 5. わからない | |

問19 環境を良くするために重要と思うことは何ですか。(〇は優先と考えられるものを3つまで)

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. 地球温暖化対策 | 2. 再生可能エネルギーの導入 |
| 3. 省エネルギー対策 | 4. 環境配慮商品の普及 |
| 5. ごみの減量やりサイクル | 6. 野生動植物の保護 |
| 7. 森林、河川などの環境保全 | 8. 大気、土壌の公害対策 |
| 9. 騒音、振動などの公害対策 | 10. 公共交通機関の利用促進 |
| 11. 環境意識の向上 | 12. その他() |
| 13. 特になし | |

問20 市では誰もがよりよい環境を意識した行動ができるまちをめざすため、クールチョイスを進めています。あなたは、クールチョイスという取り組みをご存じですか。

(〇は1つ)

※クールチョイスとは、CO2などの温室効果ガスの排出量削減のために、脱炭素社会づくりに貢献する「製品への買い替え」、「サービスの利用」、「ライフスタイルの選択」など、日々の生活の中で、あらゆる賢い選択をしていこうとする取り組みです。

- | | |
|--------------|-----------------------|
| 1. 詳しく知っている | 2. 少し知っている |
| 3. 名前だけ知っている | 4. 聞いたことがない(今回初めて知った) |

問21 あなたが生活の中で実践していることはありますか。(〇は優先と考えるものを3つまで)

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| 1. CO2の排出が少ない製品の選択 | 2. 節水や節電 |
| 3. 省エネ家電の購入 | 4. 太陽光発電などの再エネ設備や省エネ設備の導入 |
| 5. 電気自動車やハイブリッド自動車への乗り換え | 6. 公共交通機関の利用 |
| 7. 食品ロスの削減や地元食材の利用 | 8. マイバックの使用などによるごみの削減・分別 |
| 9. その他() | |

問22 環境に対する取り組みを進めるために、ご自身の生活についてどの程度許容できますか。(〇は1つ)

- | |
|------------------------------------|
| 1. 現在のライフスタイル(生活様式)を大きく変えてでも取り組むべき |
| 2. 現在のライフスタイル(生活様式)を多少変えてでも取り組むべき |
| 3. 現在のライフスタイル(生活様式)を変えない範囲で取り組むべき |
| 4. 取り組む必要はない |

4. 市の情報発信についておたずねします

問23 市に関する情報をどの程度読んだり、見たり、聞いたりしておられますか。
(それぞれ○は1つ)

	1 かならず 読む、見る、聞く	2 よく 読む、見る、聞く	3 たまに 読む、見る、聞く	4 読まない、 見ない、聞かない
① 広報紙「広報こうか」	1	2	3	4
② 甲賀市ホームページ	1	2	3	4
③ 甲賀市LINE	1	2	3	4
④ 甲賀市フェイスブック	1	2	3	4
⑤ 行政情報番組「きらめきこうか」 (あいコムこうか)	1	2	3	4
⑥ 市議会だより	1	2	3	4
⑦ 市議会ホームページ	1	2	3	4
⑧ 市議会中継・録画 (あいコムこうか)	1	2	3	4
⑨ 市議会インターネット中継・録画	1	2	3	4
⑩ 区・自治会等を通じた各戸配布や回覧 (文書、チラシ、ポスターなど)	1	2	3	4

5. 障がい福祉についておたずねします

問24 あなたは、「甲賀市手話言語及び情報・コミュニケーション促進条例」をご存じですか。
(○は1つ)

※甲賀市手話言語及び情報・コミュニケーション促進条例は、手話が言語であることを理解し、障がいの特性に応じた様々なコミュニケーション手段の普及と利用促進により、障がいの有無によって分け隔てられないことがない共生社会を実現するために定められたものです。

- | | |
|--------------|-------------|
| 1. 詳しく知っている | 2. 少し知っている |
| 3. 名前だけ知っている | 4. 聞いたことがない |

問25 今後、障がい者施策を進めていくにあたって、市はどのようなことを充実させていけばよいと思いますか。(〇はいくつでも)

1. 障がいのある方への理解を深める教育や広報活動の充実
2. 障がい児保育、障がい児教育の充実
3. 段差解消などのバリアフリー化やユニバーサルデザインの推進
4. 働く場の確保や就労定着の支援
5. ホームヘルプなど在宅生活支援サービスの充実
6. 公共交通を利用した移動支援の充実
7. ボランティア活動の育成や支援
8. 障がいサービスや福祉に関する情報提供の促進
9. 相談窓口の充実
10. 障がいのある方の権利擁護（自分の権利を守ってくれる）制度の普及
11. 専門的な人材の確保と育成
12. 災害や緊急時の支援体制の整備
13. その他（ ）
14. 特にない

問26 障がいのある方もない方もお互いに理解し、共に地域で生活できるように進めていくために、あなたは何かができると思いますか。(〇は優先と考えるものを3つまで)

1. 地域活動やスポーツ、イベントなどで一緒に活動する
2. 障がいについての理解が深められる研修や講演会へ参加する（手話講座、出前講座など）
3. 働きやすい環境や一緒に働く機会をつくる
4. 子どもの頃から交流する場や機会を設ける
5. ボランティアで一緒に活動する
6. 声かけや相談できる体制をつくる
7. 階段や段差などでの手助けをする
8. 手話や代筆などのコミュニケーションの手助けをする
9. その他（ ）
10. 特にない

6. 新型コロナウイルス感染症についておたずねします

問27 新型コロナウイルス感染症で、困っていることはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. 収入減・支出増 | 2. 失業・休業 |
| 3. 体調面 | 4. 精神面（メンタル面） |
| 5. 人間関係 | 6. 学業 |
| 7. 子育て・教育 | 8. その他（ ） |
| 9. 困っていることはない | |

問28 今後、どのような支援が必要と考えますか。(〇はいくつでも)

また、支援に関する意見があれば、ご自由にお書きください。

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1. 生活に困っておられる方への支援 | 2. 子育て、教育に関する支援 |
| 3. 事業所、企業等への支援 | 4. 差別、DV、虐待などの対策 |
| 5. その他（ ） | 6. 支援の必要はない |
| 7. わからない | |

【自由記述】

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

回答いただいた調査票は、3つ折りにし、同封の返信用封筒に入れて、

令和4年8月7日（日）までに、ポストにご投函ください。

甲賀市市政に関する意識調査報告書

発行日 : 令和4（2022）年12月

編集・発行 : 甲賀市総合政策部秘書広報課

〒528-8502 滋賀県甲賀市水口町水口 6053 番地

Tel : 0748-69-2101 / Fax : 0748-63-4619